

地名研究会報

第81号

平成15年9月7日

鹿児島地名研究会

I. 第81回例会 平成15年6月1日（日） 於西郷南洲顕彰館研修室
(出会者) 安楽芳久・今村誠一・上野堯史・納栄藏・小山田 稔・大田照夫・
川野雄一・坂本 誠・永坂芳彦・西田春人・繁昌正幸・肱岡修一郎・
平田信芳・松浪由安・村山謙一・米原正晃（計16名）

II. 大日本地名辞書読会 P.544～P.545 隼人・菱刈郡・伊佐郡

III. 東串良町の地名

[問題となった地名および事項] 大水郷と大水駅、山野郷、衣君、伊作郡と伊佐郡、
肥後への道、小字一覧にルビのない市町村、「園」地名、もしき山、
クヤどん、おやしつけば、○○堀、戦車橋

大水郷と大水駅

平田 菱刈郡に大隅国から肥後国に抜ける駅路が通っていたであろうことは、確実だと思います。その途中に「大水駅」があったに違いない。また「大水郷」があったわけですから「大水郷に大水駅があった」と考えるのが当然なんですけれども、その大水郷（大水駅）がどこかということについては、今までいろんな説があります。一番近そうなのが、「大口」という地名で、それが大水郷であり大水駅であったと見る考え方が多いのです。また、交通の要地として「横川」というのがちょうど真ん中辺りにあります。そして「栗野」も無視出来ないわけです。栗野は日向国にも抜けられるし、大口にもつながる。大口か栗野か横川か、どこかに落ち着かなきやならないと思うのですが、その決め手がないのです。

山野と大口は隣り同志です。昭和のいつ頃までですかね、大口市に山野町が合併されたのはそんなに遠い昔じゃないのですが（昭和29年のこと）、現在山野は過疎の町です。国

境の町として山野は意味があったのでしょうか、「亡野郷」というのは「山野」という文字が亡野に化けたということも考え易いのです。

羽野郷は「羽月（はつき）」の間違いといふことも考えられますが、吉松町の古名が「簡羽野（つつはの）」ですから吉松・栗野というのも無視出来ない。また「亡野」は「栗野」という考え方も出来ないことはない。菱刈郷だけは問題がないのですが、残りの三郷をどこに収めるかというのには難問中の難問です。決め手は「大水駅」の跡が発掘されて、そこから墨書き器が出て来ることです。

大水を横川に当てたのは、これ（大日本地名辞書の補注）が最初かも知れません。水と川という文字は崩し字ではよく似ています。横を横着（オチャク）の「オウ」と読みば「大」に通じます。しかも横川という所は中世・近世を通じて交通の要所です。横川から菱刈・大口に抜ける道もあります。

ここは非常に難しい箇所で、いろんな説が出て来てもいいと思います。

山野郷

今村 山野という所は藩政時代は重要な拠点だったのですか。

平田 そうです。国境の町になります。

今村 現在は山の中で、過疎地。

平田 今は過疎地です。

今村 もの凄く辺鄙な所。

平田 山野の小川内関(コガチナセキ)は重要な関所でした。出水の野間関(ノマセキ)の次に重視されたのが小川内関になります。

小山田 豊臣秀吉が帰って行った道。

平田 ああ、そうですね。豊臣秀吉が薩摩を征服した後、川内川を上って大口・山野に出る。大口には直接入りませんが、山野を経ています。

小山田 曽木滝(ヨキノタキ)から山野で出た。

平田 そうですね。肥後国に入る重要な所です。山野あたりからは、山を越えて出水にも行けます。水俣にも出られるし、佐敷にも八代にも行けます。交通路としてはそういう重要な所だったのです。現在は田舎ですが。

昔の人は健脚で、これは聞いた話ですが、山野あたりの人は買い物に行く時には、連れ立って朝早く出水とか八代とか佐敷に行こうと日帰りで出かけたそうです。朝早く出て行けば帰って来れるわけです。物売りに行って帰って来た、と。その時は、村の若者たちが男女連れ立って行くわけですから楽しかったというのです。そうしながら自然にペアが出来て行ったそうです。

衣君

今村 今一つ、544ページ下段の真ん中辺り隼人の説明で、大隅・薩摩・日向・曾。曾は曾於(曾於)でしょうが、その次は?

平田 「衣(え)」。これは「顕娃(えい)」

のことです。南薩に顕娃町がありますね。

今村 はい。

平田 古代では衣君(えのきみ)がいた。

今村 今の顕娃町ですか。

平田 そうです。覓国使(べっこくし・くにまぎのつかい)が隼人教導のために来ますが、衣君が覓国使をおびやかしたということで隼人征討が始まるわけです。その意味で衣(顕娃)は薩摩・大隅の中では最も早く出てくる地名になります。

今村 それと、もう一つ。「瀛」の下は何と読むのですか。

平田 多(たね)です。種子島を昔はこのように書いたのです。どんなことでも遠慮なく出して下さい。お互いに知らないことは沢山ありますから。

伊作郷と伊佐郡

繁昌 伊佐郡は「伊佐または伊作と称した」とありますが、伊佐と伊作は漢字が似ているから通じるのですけれども、吹上町の伊作の郡名はシメス扁を書いた「伊祚郡」。

平田 ええ、伊祚郡。

繁昌 それが今、伊佐郡になってますね。その辺で意味があってそうなのか、違っているからそれを使ったのか。

平田 南薩の伊作郡というのは延喜式にもあります。(後記: 延喜式は伊作郡、和名抄は伊祚郡)。これは古い郡とした存在した。ところが此處に出て来た伊佐郡というのは、江戸時代に作られた「郡」だとの説明です。江戸時代には伊作郡という郡名は消えたと思うのだが、あったかな。日置郡に入っていたと思うけど。

西田 郷?

平田 伊作郷はあったかも知れない。

西田 伊作郷はありますね。

平田 昔、伊作郡という似たような郡名があったということで、それが復活して伊佐郡という郡名が生まれた。それと同じようなことが始良郡にも言える。大隅國の南の方に始羅郡というのがあった。こっちの方には桑原郡があった。桑原郡が広すぎるということで江戸時代になって始羅郡を設けた。ところが、始羅を書き違えて「始羅」と名付けた。そのうち始羅はおかしいということになって「始良郡」という郡名が生まれた。

始羅とか伊作は奈良時代にあった郡名だけど、場所は後世では違った所に付けられた例になるわけです。そのように考えると、伊作と伊佐の区別はつくと思います。

上野 伊作(イケ)とよまずに、伊作(イサ)でいいわけですよね。「作」には作業とか作法などがあるわけですから。

平田 しかし伊作(イケ)という地名は現存しているから。

上野 あっちはそのように読むようになっているけど、こっちは伊作(イサ)と讀んでもどうってことはない。

平田 それでいいのかな?

肥後の道

上野 私は福岡に行く時に、高速道はあまり通りたくないのです。大口から水俣へ抜けて八代に出ます。確かにこれは時間がかかりますが、水俣まで間もなく高速道が通じますから、水俣から高速道で行くのがいいのじゃないか。大口からその道路を通って水俣まで行き、あとは高速道で行った方が便利です。そっちの方がお金はかかるないし、谷の中を行くわけではないし、山の中を行くわけでもない。海を眺めながら行くことになる。

平田 今の高速道(人吉経由)はトンネルばかりですね。

上野 水俣道はトラックなんかも結構走っています。これが本来の道じゃないか。

平田 昔ながらの道筋という感じ。水俣へ抜けるよりも佐敷へ出た方が便利? どっちが早いの?

上野 どこから佐敷へ?

平田 山野を越えて。

小山田 道が狭いですよ。

平田 道が狭いの?

上野 山道を行くやつですね。小さな道があることはありますけど。一回通ったけど、二度と通りたくないです。

平田 ああ、そうですか。

上野 確か山道がありますけど、普通は水俣へ抜ける道の方が広いし、早いですね。

平田 まぁ、あんまり開けん方がいいわけですね。歴史を探るために。(後記: 明治20年頃の20万分1図を見ると、山野→小川内→久木野→佐敷の道があり、大隅国から大宰府に向かう道としては水俣回りより近道になる)。

小字一覧にルビのない市町村

平田 他にありませんか。なければ、今後のこと話し合いたいと思います。これを回して下さい。鹿児島県には現段階で96市町村があります。市町村合併でどうなるか判りませんが、現段階で96あります。その中で『角川日本地名大辞典』の「小字一覧」にルビのない市町村が69あります。これだけルビが付いていないのです。そして番号に○を付けた野田町とか喜界町・瀬戸内町・桜島町などの9町村については小字も収録してなかったのです。それを野田町・桜島町・坊津町・内之町

浦町・高山町、今日とりあげる東串良町。これらを一つづつ掘り起こしているわけです。

ところが地名大辞典の「小字一覧」をみると、ルビのないものが沢山あるのです。このうち四角で囲ったのは、この地名研究会でルビを集めた市町村です。

そこで、今後はルビのない市町村についてルビを付けていかなきやならないだらうと思うのです。これをやりこなすためには残りの69市町村の中でルビ資料を持っているのが20ほどありますから、40市町村ぐらいは今から探さなきやならない。これは一人では逆立ちしても不可能ですから、皆で手分けして取り組んで欲しいのです。これならばこなせるというのがあつたら受け持つて欲しいのです。今日は81回の例会で、地名研究会報も80号まで出して来ました。100号までは何とか頑張ろうと思っていたのですが、これを見たら、あと5年どころではないと、気が遠くなります。一人で全部をこなすわけには行きませんので、各人、薩摩と大隅どれかを一つづつ撰んで取り組んで欲しいのです。そうしたら資料が集まるだらうと思います。そのやり方は今日の後半、「東串良町の地名」で私のやり方を示します。

まず薩摩から片づけて、その次は大隅に取りかかる。そして最後に種子・屋久・奄美をまとめようかなと思っています。

上野 このルビも、いわゆる鹿児島弁そのままで付けたものもあれば、全く標準語風に書いたものもある。

平田 そうです。二通り整理せにやならぬのです。

上野 それは、全部ルビが振ってないのと同じじやないかと思うのです。

西田 ルビというのは、例えば別府をビュというでしょう。あんなふうに昔ながらの読み方がいいわけですね。

平田 二通り、整理せにやならんのです。

西田 二通りですか。今の40代以下は方言の読みを知りませんよ。

平田 方言の読み方は最後に改めてまとめることにしましょう。でも大変だな。全部が出来上がるまで、私は生きちよらんよ。遠慮なく申し出て下さい。出来れば薩摩と大隅から一つづつ取って。じゃー、こっちから行きましょう。西田さん、どこを選びますか。

西田 私は、日置郡。66~69、伊集院町・松元町は元伊集院郷ですよね。昔からの人間関係があるから。

平田 ああ、そうですか。

西田 それと日吉町・吹上町。この辺で、どれか。

平田 二つ・三つやって下さいな。

西田 友達の所へ遊びに行って、聞いたらいいのでしょう。

平田 そうです。役場に行って聞くとか。66~69は西田さんに頼みましょう。

西田 はい。他に日置郡の人はいらっしゃいませんか。いつでも譲りますよ。

平田 上野さんは?

上野 加治木に住んでいますから、誰か他の方が加治木をされれば私はしなくてもよいのですが。

平田 加治木には松田さんもいる。加治木町はルビが付いています。

上野 一応あるんですか。

平田 松田さんが付けてくれている。

上野 蒲生は?

平田 蒲生町を上野さんに頼もう。

上野 それから入来町を。

平田 ああ、入来は。

上野 入来が付いていないのは不思議な気がする。

西田 そうですね。

平田 納さん。どこかご希望はないですか。早く名乗りをあげた方が勝ちですよ。(聞こえた様子なし)。録音を止めておこうかな。——以下、当日受持が決まった所。

米原:5. 加世田、7. 串木野、45. 佐多

上野:14. 蒲生、53. 入来

繁昌:20. 菱刈、21. 高尾野

松浪:38. 川辺

永坂:58. 鶴田、59. 植脇

肱岡:60. 宮之城

西田:66. 伊集院、67. 日吉、68. 吹上

69. 松元

他は分担未定、後日選択する。

東串良町の地名

平田信芳

いるのは阿久根市です。『阿久根の地名』という本を出しています。

2月の末、これの7ページまで、大字ごとの小字に勝手に振り仮名を付けて、社会教育課の担当者に送ったのです。2か月ぐらいの余裕を置いて4月末に返事をください、と。

6月例会に間に合うよう何とか処理できますからと。5月初めに返事がきました。このように文化財審議委員に尋ねて朱筆で修正してもらいました。自分なりに読んで送り届け、返事を下さいとお願ひすれば協力して下さると思います。

さて東串良町の大字は5つあります。これは南日本新聞社が出した『鹿児島万能地図』のコピーです。岩弘(イヒロ)というのは北の方にあります。岩が広い範囲にみられるという単純な発想から付けられて地名のようです。池之原(イケハラ)は江戸時代の中頃まで池だった。それを干拓したので池之原という地名が付いてと言います。川西(カニシ)は肝属川の支流に汐入川(オイガワ)という川があって、その川の東側が川東であり、汐入川の西が川

西という区分になっているようです。さらに新川西が付け加わります。なお※印が付けてあるのは、集落名として独立して付いている地名です。

まず1ページから。岩弘は集落1、小字28合計29。次の池之原は集落5、豊栄(ホエイ)・池之原・街道団地(カドウダンチ)・雪山(ユキヤマ)下之馬場(シモノハバ)。豊栄はこの地図で見ると、今は大隅線はなくなってしまいましたが東串良駅のすぐ北側に「豊栄」とあります。此処は昔の野町(ノマチ)の跡です。豊かに栄えるようにとのことで、野町にそういう地名を付けたとみられます。「街道」は上使街道に由来します。江戸時代、幕府の巡見使が通る上使街道があった所で、そこに団地が出来たので街道団地の呼び名が生まれた。雪山は南九州では珍しい雪が積もったことから生まれた地名なんでしょう。

川西は別府原(ヒュンハイ)・馬越(マコエ)・堅田(カタタ)・吉元(ヨシモト)・川西・侯瀬(マタセ)。侯瀬は瀬が二つに分かれている所なんでしょう。肝属川では高山町・串良町・東串良町の境界線は、現在の川の景観では直線的になっていますが、出入りの激しい川の流れ：屈曲があったことを、大字の境は地図にその痕跡を示しています。侯瀬はこの地図の下の方に見えます。

新川西は下伊倉(シモイクラ)・唐仁(トウジン)・大塚・小新地(コシンチ)・宮之前・大塚原(オオツカハル)・新川西・古市団地(フルイチダンチ)。そういう集落名、小字が70、計78(76とあるのはインプットミス)。

川東は集落名が多いようです。此処は海岸地帯で、砂丘の裏に展開している集落です。永峰(カガミヌ)・溜水(タマリミズ)・安留(ヤストメ)・

上山野(カミサシヤ)。山野、これは「ヤマノ」と読まずに「サンヤ」と読みます。江戸時代の開墾地の一つです。独特な呼び方があったのです。役所(ヤクショ)・中蔭(ナカゾノ)・高松(タカマツ)・熊之馬場(クマノハバ)・柏原(カシバノル)・仲之町(カシマチ)・新町下(シマチシタ)・栗寺町(アリテラマチ)。集落が13、小字が59、合計72です。(71はインプットミス)。

(その1)は役場の字絵図台帳にある公称地名(公簿地名)です。公称地名というのは明治の中頃、土地台帳を作った時に字絵図ごとに付けられた小字です。

4ページ以下の(その2)は、古老を通じて集めた俗称地名：村人が言っている地名を集めました。それが岩弘には72あるということです。藏屋敷(クラヤシキ)・堂ノ下(ドウシタ)、3番目は昭和10年代でしょうが、戦車が通ったので戦車橋(センシャバシ)というような地名が付いた。俗称地名には踏切ノ下(フミリノシタ)とか学校ノ前(カッコウノマエ)などごく身近な地名が多く、東串良町の場合、岩弘には72例ある。池之原は20です。池之原は江戸時代の半ばに出来た新しい土地ですからそういうのは少ない。川西が33、新川西は多くて87例、川東に51あります。

公称地名と俗称地名を一括して(その3)とし、地名を類別化してそれぞれの意味を考えました。説明は(その3)にしほって行ないます。

(1)信仰地名。岩弘には權現迫(コンケンサコ)早馬下(ハヤマシタ)。早馬は牛馬の神です。堂ノ下(ドウシタ)・寺屋敷(テラヤシキ)・しんこし(新興寺)・十五社橋(シユウコウシャバシ)。これは橋でなく十五社に重点を置きました。和田仮屋(ワタカリヤコンゲン)は「權現」を焦点としま

した。

池之原は早馬どん(ハヤマドン)・宮之下・堂の下・墓下・寺屋敷・供養塚(ヨウヤクカ)・尼ヶ塚(アマガツカ)。

川西は權現山・宮前・寺之下・寺屋敷・軍神塚(クンシンツカ)・向塚(ムコウツカ)・花立(ハタケ)花立というのは花を供えて拝む場所です。

新川西は天神ガ岡(テンジンガオカ)・山神(ヤマシカン)・水神免(スイジンモン)・水神原(スイジンバル)降神山(コウジンヤマ)、これは荒神の方でしょう稻荷供養(けイキ)・宮ノ前(ミヤマエ)・宮ノ後(ミヤウシタ)・堂ノ下(ドウシタ)・寺屋敷・大塚・大塚原(オオツカハル)・小塚(コツカ)・笹塚(サツカ)・篠塚(シロツカ)・麦塚(イモツカ)・じょん墓(ジョンバカ:城下士の墓のこと)・コドラン墓(小寺の墓との説明あり)・檀徒の墓・小檀徒の墓(コダントノハカ)・ひでぼっけ(法師が生身で成仏したとの説明あり)。

川東は、熊之馬場・權現馬場・山王・稻荷どんの前(けイドンノマエ)・水神場(スイジンバ)・弁天(ベンテン)・地蔵ン角(ジザンカト)・トッノカシは「トキの神」のことでしょう。春日ン瀬戸(カスガンセト)。宝楽、これは「法楽(ホラク)」のことで「フラッ」と讀んだりします。水神を祭る音楽・踊のことです。東串良町では宝の文字を当てて宝楽(フラッ)と呼んでいるようです。堂ノ瀬戸(ドンセト)・ジジロボイ。ジジロも何か意味があると思うのですが、まだ確実に理解していません。(ジジロ坊?坊さんの墓があるとのこと)。センゾボ、先祖坊でしょうけど(無縫塔があるとのこと)。宮ノ下・墓ノ下・舟塚(フナツカ)・モタイ(森田)の墓。森田をモタイと訛るのでしょうが、ちょっと判りかねます。モイタなら判りますけど。4ページをあけて下さい。4ページの真ん

中お56. ドッモトというのがあります、これは堂之元(ドウノモト)のことです。これは落ちているかも知れません。

(2)館・城郭・集落地名。岩弘の伊倉田屋敷(イクラダヤシキ)・藏屋敷・羽坪屋敷(ハヅボヤシキ)役所ん屋敷(ヤクショノヤシキ)・伊倉田方限(イクラタホキリ)・稻村方限(イケムラホキリ)・市の坂方限(シノザカホキリ)・上之菌方限(ウエノソホキリ)・中尾方限(カオホキリ)・フッドメブラク(福留部落)。集落地名ということで「方限」を此處に集めました。

池之原は役所前(ヤクショマエ)・小屋sき(キャシキ)・中別府屋敷(ナカベツブヤシキ)・本屋敷・西本屋敷(ニシモトヤシキ)・南本屋敷(ミミモトヤシキ)。

川西は東村(ヒガシムラ)・下方(シモカタ)・門之元(カドノモト)・堂園屋敷(ドウゲンバツシキ)・役所屋敷(ヤクショノヤシキ)。

新川西。城ノ山(シヨウノヤマ)・別府ケ城(ビュウガシヨウ)・城堀込(シヨウホリコメ)。竹原(タケハル)は館原?としてあったので、その通りに書きましたが、やっぱり文字通りの竹原でしょうけど。東串良町の分析に従ったにすぎません。下伊倉(シモイクラ)・藏下(クラシタ)・藏屋敷・かど屋敷・仮屋屋敷(カヤヤシキ)・鏡堂屋敷(カガミトウヤシキ)。これは鏡堂どんの屋敷ということでしょ。中別府屋敷(ナカベツブヤシキ)。もんどん屋敷、○○主水の屋敷ということです。六ヶ所屋敷・中村・小村(コムラ)・東村・上の村(カムラ)・上ン村(ウエンムラ)・出口村(テグチムラ)・原之園村(ハラノソムラ)・古市団地(フルイチダンチ)。

川東は城山(シヨウノヤマ)・古市の城(フルイシロ)堀内・陣堀(ジンボリ)・馬場・的場・弓場前(ユハマエ)。的場や弓場は宗教地名に入れてもいいかも知れません。藏ノ下・役所(ヤクショ)・定府(シヨウフ)。こんな言い方が串良にはあつ

た。武士たちが住む所を「定府」と言ったのでしょう。仮屋・仮屋園後(カヤリノウシロ)・倉屋敷・たかやまんやしき・外西(ホニシ)屋敷・浜脇ノ前(ハマリキノマエ)・西門ノ上(ニシカドノウエ)・上吉ノ上(エヨシノウエ)。

(3) 土地区画地名。ロノ坪(ケツノツボ)という地名は県下に10カ所ぐらいあります。二重下は条里地名の二条の変化と考えたら理解出来ないこともない、とのことでクエッショナマークを付けてあります。境とか並木は境界になります。三反割(サンサンリ)・割目(リメ)は土地区画から来たものでしょう。境・境松。五反・六反は広さ。上一番～上六番は土地の区画。

(4) 市・町・交通地名。荒佐ん道路(アサントウロ)・早馬んばば(ハヤマンババ)・市の坂(チノサカ)・タカヤマン坂・鳥越坂(トリエイサカ)・まやっぽん坂。「まやっぽん」の意味が判りませんが山伏か何かそんなところでしょう。(後記:『東串良町、土地名とその由来』に、昔、マルオという相撲取りがいたことによって付いた「丸お坂」が訛ったとの説明あり)。伊倉田橋(イクラダバシ)・おませ橋・金蔵橋(キンザウバシ)・太鼓橋(タイコバシ)。

池之原は串良街道・梶ヶ野筋(カジガノスジ)・袖木の筋(スモキノスジ)・トロッコ道。俗称地名が入っているので、こういう地名が出て来ます。川ん坂(カワンサカ)・寺ん坂(テランサカ)・越床(コエトコ)・渡口(ワタリクチ)・野町(ノマチ)・豊栄町(ホウエイマチ)・町後(マチノウチ)。

川西には、上の出口(ウエンテイグツ)・原の木戸(ハラシキト)・馬越・馬越ン筋(マコエンスツ)・アキザキ橋・商人ヶ崎橋(アキンドガサキハシ)・水神橋(スイジンハシ)・思案橋・シメノの渡(シメノワタシ)・渡り方(ワタガタ)。

新川西は古市・南古市(カミカル仔)・唐仁町(トウジンマチ)・横町(ヨコマチ)・上住(カンジュ)・下住(シモジュ)。「住」に「蕃」が付けば外国人の住む所という意味になる。唐仁町があるので唐仁よりも古い町があつてもいいなと思いました。東串良に行って尋ね歩かねば判らないことですが、そういう可能性も上住・下住から感じます。

越門(コエトド)・湊原(ミコトバル)・下道(シモヂ)・早馬ん馬場(ハヤマンババ)・小牟田十文字(コムシユモシ)・上町出口(カミマチデグチ)・大塚出口(オオツカデグチ)・小橋口(コハシグチ)・一ツ橋(ヒツバシ)・中渡(カワタシ)。

川東は仲ン町(ナカンチョウ)・小中町(コカマチ)・寺ン十文字(テランシユモシ)・柏原街道(カシリハルカドウ)・小橋口(コハシグチ)・藏齒出口(クラソソングチ)・境出口(カハゲグチ)・ダンカン(欄干)・浜渡(ハマリタリ)。ダンカンはいうまでもなく俗称地名です。

(5) 水利地名は井手(イエ)・落(オトシ)などが主なものになります。井手ン上(イエンウエ)・柴井手(シバイエ)・井手おとし・せんだんおとし・寺おとし・横土手。池之原の中溝(カミゾ)・川西の樋之口・中樋之口(カヒノグチ)・川出(カイテ)・スドン上。スドは水門・水戸。〆切(シキ)・中土手(カヌテ)・金竹土手(キンチトテ)・夫婦池(ミトケ)。新川西では、新溝(シンゾ)・樋ノ川原(ヒノカワラ)・水門口(スモンノクツ)・尻関(シセキ)・堀川・内堀川(ウチホリカリ)・役所ン川(ヤクションカリ)・一番溝(イバソミゾ)・二番溝(ニバソミゾ)・新落(シンオトシ)・池・内出しの池(ウチダシノイケ)・乾の池(イムイイケ)・巽の池(タツノイケ)。これらは方向によるもの。長池(カガイケ)・なべ池。

川東の上溝ン上(カミゾンウエ)。

(6) 人名地名。先程出てきた、まやっぽん

池之原では梶ヶ野筋と袖木筋が考えられますが、これは交通地名の方に入れてしまったのでゼロにしてあります。

ゲンザノは源左野ということか?さすけつぼ・清助山(セイシケヤマ)・善六曲(センロクマカリ)・与峰山(ヨウカヤマ)。与峰という人の名に由来するとのことです。

(7) 開発地名。富永(トキガ)と永富(カガトミ)は文字の順序を入れ変えただけですが、これは門地名と考えることも出来ます。こういう縁起の良い名前は「門(カド)」によく付けられるのです。門地名は独立させてもよいのですが、なかなか判らない郷も多いので開発地名の中に入れておきます。永富池田・上市園(カミキソノ)・下市園(シモキソノ)・中村園(カムラゾノ)・外園(ホツソノ)・新田(シンテン)・中堀(カカホリ)・山下堀(ヤマシタホリ)・池添(イケゾエ)・街道添(カドツカゾエ)。

「園」地名について

池之原に大園・牧之園、川東に中園・西之園とありますが、「園」を開発地名としたのは「莊園」を考えた場合、「莊」という地名はあまり残りませんが「園」という形ならば残る例が多いのです。そういう意味で開発地名と考えた次第です。

奄美全部には当たっていませんが、名瀬市を見た限り「園」という地名は見当たらないのです。奄美には「園」が付く地名はほとんどないとみてよい。そうすると中世以前の地名:開発地名になる。「園」というのは囲いがある畠、または囲いによって限られた独特な土地が「園」になる。それが現在まで下つて来ると、「公園」になったり「学園」になったりするわけです。

園と畠の違いは、そうですね、ぶどう園・

ぶどう畠はありますね。梨園はあっても梨畠はなし。リンゴ園とリンゴ畠は聞く。そうすると「園」は狭い範囲であって、「畠」はずーっと広がるという感じになるのです。

それから「園」で感じたことは、内侍園(カイシゾノ)というのがあります。内侍は古代～中世にかけて神に仕えた女性です。そのような人たちに与えられた土地がある。それから坊津町(野田町の記憶違い)に猿樂園(サルカヅラゾノ)というのが出てきました。猿樂は平安末から鎌倉時代のもの。猿樂をする人々のための土地、それが猿樂園になります。そうすると「園」という地名は主に鎌倉～室町時代に開かれた土地との見当が付きます。そういう視点で開墾地名と考えたいのです。

開発地名に戻って、岩弘の外園の次は新田(シンテン)。新田は江戸時代の開墾地名です。中堀(カカホリ)・山下堀(ヤマシタホリ)など、大隅地方では江戸時代末期の開墾地名です。池添・街道添(カドツカゾエ)、「添」というのも江戸時代にちょっと広がった開墾地名;開発地名ということでしょう。

池之原は大園(オオゾノ)・牧之園(マキソノ)・池之原・石堀(イシホリ)・取地堀(トイホリ)・新堀(シンホリ)。大隅半島で地名のうしろに「堀」が付くものは、ほとんどが開墾地名です。池之原は明和5年(1768)に干拓した所です。

川西は別府原(ヒュウハラ・ヒュウンハイ)。別府(ヒュウ・ベップ)は、平安末から鎌倉時代に特別の許可状をもらって開いた土地。五丁(ゴ・チョウ)は土地の面積を示すもの。久保堀(クボホリ)・境堀(カイホリ)・蜂屋堀(ハチヤホリ)・軍神堀(グンシンホリ)。

新川西。太左エ門新田(タザエモンシンテン)・開墾(カイソン)・小新地(コシンド)・新地後(シンチコ)・

新堀・古新堀(フルシンボリ)・昭和田(ショウワテン)。

川東。中園(ナカノ)・西ノ園(ニシノ)・三十石(サンジツコク)・五町田(ゴチヨウダ)・前園堀(マエゾノボリ)・門倉堀(モトクラボリ)・仕明(シケ)・山野・上山野(カミヤ)・松原添(マツバラソエ)。仕明とか山野それから拘地(カケ)、こう言ったのは藩政末期の開墾地名です。

鹿児島県には条里地名の「坪」地名もあるし、「門名」の起源になる富永とか永富とか永吉などの地名も開墾に関係があるでしょうし、大隅の「〇〇堀」、それから仕明・山野・拘地。そう言った地名を拾い出して整理していくれば、鹿児島県の開拓史というのがよく判って来る。そういう素材が手つかずにあるのです。それが理解出来たらと思います。

(8) 田畠地名。田・畠が付くものをそのまままとめただけです。門田(カドタ)・十三田(シユウサンテン)・砂田(スナタ)・牟田だ(ムタタ)・堅田(カタタ)・鼓田(ツヅミタ)・中島田(ナシマタ)・堅田・上高田(カミコウテン)・前田(マエタ)・和田下(ワタシタ)・南畠(ミナヒタ)・蘭田(イタ)・烏帽子田(エボシタ)・勝田(カツタ)・牧ノ田(マキナタ)・山田(ヤマタ)・三反田(サンタンタ)・八反畠(ハッタンバタ)・田畠(タバタ)・堀川畠(おりかわバタ)・げんしようまき。「げんしよう」はレンゲのことらしいです。深田(ワタ)・前の田(マエンタ)・牧の田(マツナタ)・上大地(カミオホ)・下大地(シモオホ)

(9) 職掌・産業地名では、岩弘の「おやしちけば」。「オヤシツケバ」という言い方が多いのですが、これはオヤシ：モヤシを作る場所です。県下に数多くあります。清流にあって水温が一定している。そして人に見つからない所、そう言った所でモヤシを作っていたのです。その次は、紺屋(コンヤ)のことを鹿児島では「クヤドン」と言います。それと

牧之内(マキノチ)。

池之原の「くやどん」と「しょいやん門」これは「醤油屋の角」のことです。それから砂落し(スオトシ)・役目付(ヤクメツキ)・クヤン村(紺屋村?)・牧内(マキノチ)・牧下(マキノタ)・小牧(コマキ)・新牧後(シマキコ?)・汐取場(シオトリバ)・牧・内牧(チマキ)。

(10) 位置地名。今まで自然地名に入れていたのですが、前回、坊津町の説明をした教え子の話がヒントになって、これは人文地名に変更した方がいいなと思いました。教え子に教えられたということです。位置地名は人文地名が多いので、こちらに移しました。今後はこの方向で整理したいと思います。

稻付前(イナツツノマエ)。稻付どんの前という意味です。池尾(イケ)は池の終わり：端。井手ん上(イデンウエ:イデノカエ)・上段(ウエンタツ)・下ん段(シクタツ)・寺ン下(テランシタ)・堂の下(ドウシタ)・二重下(ニシユウシタ)・竹下(タケシタ)・森の下(モリノシタ)・役所ん下(ヤクショウシタ)・屋敷下(ヤシキシタ)。先程話したドッモト(堂本)は此処に出てますね。岩沖のはな(イロキノハ)・後迫(ウシタコ:ウシロザコ)・うえがた(上方)・下がた(下方)・かした(頭)。

前回、坊津町の地名で納さんから方(カタ)の読みについて質問がありました。東串良の場合は「方(カタ)」と読んでいるようです。

池之原は宮之頭(ミヤノカシタ)・役所後(ヤクショノウシロ:ヤクションウシト)・下出口(シモテグチ)・長ヶ出口(チヨウカゲグチ)・宮後(ミヤシロ)・寺之元(テラノモト)・門之口(カドノクチ)・川西・島ノ下(シマノシタ)・下方(シモカタ)。

新川西の城之前(シヨウノマエ)・城ノ脇(シヨンワツ)・竹ノ下(タケノシタ)。先程説明した館ノ下?です。タカテンは何だったかな。高い所らし

いです(水害に遭わない高い天にある場所の意)。田ノ尻(タナリ)・川の上(カワカミ)・新川西・中野・中島(ナシマ)・島の元(シマモト)。

川東の山王ノ上(サンウノウエ)。山王ノ上は信仰地名に入れたり、位置地名に入れたりしていますが、「山王」という地名が二つあった場合には一つずつ分けてあります。そういうことで、こっちに来ています。竹元上(ケモトガ)・たちぼいの丘は意味不明・田尾(タオ)・田ノ頭(タカシラ)・田の尻(タナリ)内迫(ウチコ)・山野前(サンヤエ)・大地之上(オホシガ)。

(11) 伝承地名。これも前回出た話から歴史・伝承がはっきりしているのは独立させた方がいいと考えました。合戦野(カッセンノ)・記念碑んあと(ネンヒント)・五郎ケ渕(ゴロウカブチ)・戦車橋(センシャバシ)・早馬ドン跡(ハヤマドント)・討手シロ(ウツシクチ)、戦争があった時此処から攻め込んだ、とか。上使街道(シヨウシカイトウ)であったとの伝承がある。鷹石(タカシ)は鷹狩の鷹を葬った所、馬捨場(ウマステバ)はそのものずばり。赤金(アカガネ)・鎧崎(アマミサキ)・角生之馬場(婆:ツノオエババ)、これは懸詞でそこには角の生えた婆さんが出て来ると子供たちに語り聞かせた所。デヤンボス、大山法師:大山伏をデヤンボスと呼んだようです。座頭落し(ザウツオトシ)は座頭どんが落ちた所です。

山王屋敷。此処は神武天皇御駐蹕(チヨウヒツ)という伝説がある所ですが、神武天皇の伝説は根拠がはっきりしませんし、地名分析としては採りませんでした。

(12) 瑞祥地名はめでたい名前。富田(トミタ)・貴実益(キミタス)・吉元(ヨシモト)・新宝(シンボウ)・宝田(ホウタツ)・福元(フキモト)・吉水(ヨシミズ)・安留(ヤストメ)。

(13) 意味不明。羽坪馬(ハヅボウマ)・もしき山

(モシキヤマ)・郷衛(コエ)・城ノセゲ(シヨンセゲ)・ガゼン坂・けもと。「けもと」は県下では多い地名です。皆元(カモト)を訛って「ケモト」と読むのが多い。意味はよく判りません。シボラ・ニンジュウも意味が判りません。

自然地名は(20)以下の番号を付けました。人文地名の中で項目として独立させる時に、ナンバーに不都合が起きないようにするために(20)以下は自然地名ですから、従来自然地名としてあった項目は内容的にいうと自然景観地名ですから景観地名とタイトルを変えました。

(20) 景観地名。岩弘(イリヒロ)は岩場が広く展開する所。段之平(ダンノヒラ)・中尾(カオ)・雪山・雪山原(ユキヤマハイ)・川西雪山・迫(ヲコ)・大野原(オノハイ)・打出(ウチダシ)。これは肝属川に串良川が打出している所、そういう表現のようですね。川の合流点ですね。

新川西雪山・大越床(オコエドコ)・本大野原(モオオノハイ)・中の瀬(ナカンセ)・前島(マエンシマ)・川東雪山・洲崎(ズサキ)・浜久保(ハマクボ)。

(21) 形状地名。わんず。円くなった入江のような所です。池わんず。四角山(シカクヤマ)・邪松(ヨンコマツ)・上川久保(カミカクボ)・下久保(シモクボ)・俣瀬(マタセ)・永峰。長い峰が横たわって見える所。下永峰(シモカミネ)・西永峰。東折口(ヒガシオリグチ)。折口は川の出口:河口が折れ曲がっている所。曲(マカリ)。

(22) 目印地名。一本杉(イッポンスギ)・青木ノ元(アオノモト)・楠元(タブノモト)・塚田。高松(タカマツ)・竹崎(タケザキ)・柳崎(ヤナギザキ)・柏原(カシリバ)・南楠元(ミミタブモト)・矢石(ヤシ)。

(23) 湿地地名。上川窪(カミカクボ)・中牟田(カムタ)・古川。下水流(シモツル)・南水流(ミミツル)・東水流(ヒガシツル)・西水流(ニシツル)・久保田

水流(クボタツル)・西牟田(ニシムタ)。

沖汐入(オキオイリ)・潟(カタ)・エゴン尻(エゴンシイ)。「エゴ」は抉れた所。串良では江口の尻を「エゴンシイ」と読んでいるようです。古川・河辺(コベ)・川原(カワハラ)・水久保(ミズクホ)・中牟田・西牟田・北小牟田(キクムタ)・前牟田・鴨牟田・滑石(ナメイ)・猫服(ネコフク)。猫渕(ネコフク?)とクエッシュンマークをしてあったので此処にいれましたが、何か意味は判りません。

汐入ば(シオイリバ)・溜水(タマリミズ)・深坪(カツボ)・中の川(ナカガワ)・下の川(シタシガワ)・川原(カワハラ)・上西牟田(カミシムタ)。

(24)崩壊地名。河口地帯なので崩れる地名はないようです。岩弘の水喰屋敷(ミックレンヤキ)・西崩尾(ニシクエンオ)と蟹が喰らうということで蟹喰(ガシクレ)という地名がある。それから水洗(ミズアライ)。鹿児島弁では「ミザレ」とか「ミッチャレ」という所があります。

(25)気象地名。新川西の植木山(ウキヤマ)。防風林とのことで気象に関係ありとして敢えて入れたに過ぎません。

さて、時間がなくなりましたが、いつもの通りパーセンテージを出しておきました。大きく違ったのは(10)位置地名です。今まで下の自然地名の方にあったのですが、それを上方にあげたことです。それと(20)景観地名は今まで自然地名という項目にしてありました。(14)争論地名(論地・論迫など)や(26)擬音地名は類例がなかったので、空欄にあります。

全体の地名合計は482。公簿地名と俗称地名では重複したものがありますから、総数はこれよりもちょっと増えます。重複したのは省きました。合計482の中で信仰地名60は、12.4%になるということです。数値とパーセンテ

ジはそういうことです。いわゆる人文地名の合計は405、自然地名の合計が77、トータル482に対して何%になるか。そして全体のパーセンテージに比べて高い数値、例えば信仰地名で一番高いのは川東の15.9%ですね。数値の高いのがその集落の特徴を示すものになります。集落地名も川東の15.9%、土地区画地名も川東の8.8%が最も高い。交通地名は池之原の21.2%。此処に昔からの通路が集中していた。そこに東串良駅があったし、野町もあったのです。

水利地名は川西の13.0%です。その次の人名地名は少ないので取り上げるほどではないけど、新川西がちょっと多いという程度。開発地名では池之原が15.4%を占める。新しい開発地ですが、数値上そういうことです。

(8)田畠地名は川西の7.2%、(9)産業地名は多いとは言えませんが、新川西の3.8%。(10)位置地名は岩弘の19.6%が特徴的です。同様に一番高い数値を選んでいくと(11)伝承地名では岩弘の5.4%、(12)瑞祥地名は川西の4.3%になります。

自然地名の方は、(20)景観地名では川西の7.2%、(21)形状地名は川東の5.3%、(23)湿地地名は新川西の9.6%、(24)崩壊地名は2例で大したことではありませんが、2.9%。そう言った所に各集落の特徴が見出せることになります。

串良という地名は非常に古く、大隅国風土記逸文にも串ト郷が出て来ます。また東串良と串良との違いは、東串良にある唐仁原とか柏原一帯は明の商人たちが渡って来た所ということが一つ、それから元々は谷山の人たちが人配(ニンパイ)で岩川に移されていましたが、海辺が慣れていたからでしょうか、南に

下って東串良に住み着いたことが一つ。そう言ったことで串良と東串良は川を隔てて分かれてしまったのだなと思います。東串良町の地名を整理しながら、そういうことに気付きました。谷山からの移住者が多いというのは『東串良郷土誌』に書いてあることです。

時間がなくなりましたが、何か質問があれば出して下さい。

〔質疑応答〕

もしき山

米原 意味不明の地名のところに「もしき山」とありますが、加世田にも「もしきの：舞敷野」という所があります。

平田 ありますね。

米原 他にもありますか。

平田 あります(と答えていたが勘違い。ほどんどない)。意味は判りません。

クヤどん・オヤシツケバ

納 8ページの下の方、池之原に野町とありますが、これは昔からいう歴史的な呼び名の「野町」お考えてよいですね。

平田 そうです。

納 それから、どこかに「クヤどん」とありましたね。

平田 職掌・産業地名のところ。

納 岩弘に「紺屋どん」、池之原は「くやどん」、新川西は「クヤン村」。これは今まで紺屋、染色をしていた。

平田 そうです。今でも私の家の近所に「クヤどん」があります。今は仕事はしていませんが、それでも「クヤどん」と呼ばれています。

納 それからもう一つ、10ページの上の方、職掌・産業地名。岩弘の最初に「おやしちけば」。これは「おやし」を漬けた所なん

でしょうね。そういう解釈でよろしいのですね。

平田 そうです。鹿児島県独特の地名です

納 「おやしちけば」という地名は方々にありますね。

平田 はい、あります。「オヤシ」作りは大変だったのでしょうね。

納 主に正月用の「オヤシ」を作っていた所なんでしょう。

平田 そうです。一般的な表現になりますが、鍛えられることを「オヤさるっ」と言いますからね。

戦車橋

納 8ページの「野町」。池之原のどの辺にあったのですか。野町は豊栄の所かな。

米原 豊栄の所ですね。

平田 野町に豊栄という名を付けたのです

納 串良には○○堀と「堀」の付いた集落が沢山ありますね。隣でありながら東串良は少なかですね。

平田 それは湿地帯が多かったからです。江戸時代に○○堀と名付けて開拓した所は、いわゆるシラス台地の上、「原」の方になります。

納 そう言えば笠野原台地にほとんど、かたまっていますね。

平田 えゝ、かたまっています。苦労したのは水だったようです。高隈ダムが出来て、大規模な灌水が出来るようになってから変わってきたということなんでしょう。歴史の中での基本的な展開というのは、そんなに変わるものではないのですね。

納 「戦車橋」なんていうのは。

平田 戦車が通ったから、びっくりして戦車橋と名付けたのでしょう。

納 新しい時代？

平田 それは、新しい時代ですよ。昭和の初めです。

納 だったら、あつたーろかいな。

平田 戦車が通る橋なんてのは、そんなになかったでしょうから、あの橋は戦車が通ったぞということで、戦車橋と名付けたのでしょうか。陸軍戦車隊もどの橋は渡れるかと、慎重に考えたでしょうからね。それは頑丈な橋だったのでしょう。名誉ある命名じゃないですか。

納 恐らく、この前の戦争前後からでしょうね。

平田 後はないですよ。

西田 吹上町に「戦車道(センシャヂ)」というのがあるそうですね。

平田 吹上町にも戦車道があるのですか。

西田 戦車道があるので、県道の横に、それは知覧まで伊作峠からずっと戦車道を造ったのですね。

平田 あゝ、軍事専用道路があったのですね。

西田 えゝ、昭和18～19年ぐらいの頃、中学生を動員して造ったのですよ。われわれの年代は知っています。村山さんは行っきやつたどかい。戦車道に。

平田 じゃ一、次の担当者を決めておきましょう。先程、割り当てというかそれぞれの候補地をあげて貰いましたが、すぐにもやるのは、今までやった経験のある人が方法的にも調べ易いわけです。そうなって来ると繁昌君とか米原さんとか川野、その3人の中からあがってもらえばいいのだけど。繁昌君何か取り組んでくれませんか。

繁昌 菱刈と高尾野に連絡をとってどうにかやれるようにします。

平田 次回やれるとしたら菱刈か高尾野？

繁昌 高尾野。

平田 じゃ一、高尾野を計画しておきましょう。その次ぎは半年先ですから、ある程度調べてから名乗りをあげて下さい。早く済ませた方が気は楽です。

今日はこれで終ります。

東串良町の地名 (その1)

*は集落名

大字 岩弘		大字 池之原		大字 川西	
* 岩弘	いわひろ	* 豊栄	ほうえい	* 別府原	びゅうんはい
1 段之平	だんのひら	* 池之原	いけのはら	* 馬越	まごえ
2 稲付前	いなつつのまえ	* 街道団地	かいどうだんち	* 堅田	かたた
3 上段	うえんだん	* 雪山	ゆきやま	* 吉元	よしもと
4 二重下	にじゅうした	* 下之馬場	したのばば	* 川西	かわにし
5 屋敷下	やしきした	1 境	さかい	* 俣瀬	またせ
6 上市園	かみいちぞの	2 蘆堀	ふもとぼり	1 雪山	ゆきやま
7 寺ン下	てらんした	3 新堀	しんぼり	2 川西雪山	かわにしゆきやま
8 下市園	しもいちぞの	4 街道添	かいどうぞえ	3 境堀	さかいぼり
9 門田	かどた	5 雪山原	ゆきやまばい	4 上之原	うえんはい
10 中村園	なかむらぞの	6 長ヶ出口	ちょうががでぐち	5 蜂屋堀	はちやぼい
11 十三田	じゅうさんでん	7 下出口	しもでぐち	6 久保堀	くぼほり
12 牧之内	まきのうち	8 石堀	いしほり	7 軍神堀	ぐんじんぼり
13 竹下	たけした	9 宮之下	みやのした	8 別府下	びゅうんした
14 外園	ほかぞの	10 宮之頭	みやのかした	9 和田下	わだした
15 後迫	うしろざこ	11 役所後	やくしょんうしと	10 五丁	ごちょう
16 古川	ふるかわ	12 役所前	やくしょまえ	11 馬越	まごえ
17 権現迫	ごんげんざこ	13 下久保	しもくぼ	12 別府下	びゅうんした
18 早馬下	はやました	14 豊栄町	ほうえいまち	13 横之口	ひのくち
19 井手ン上	いでんうえ	15 町後	まちのうしと	14 富田	とみた
20 中尾	なかお	16 渡口	わたりぐち	15 上高田	かみこうでん
21 永富	ながとみ	17 西本屋敷	にしもとやしき	16 中横之口	なかひのくち
22 中堀	なかぼり	18 本屋敷	もとやしき	17 門之元	かどのもと
23 合戦野	かっせんの	19 南本屋敷	みなみもとやしき	18 寺之元	てらのもと
24 山下堀	やましたぼり	20 雪山	ゆきやま	19 貴実益	きみます
25 口ノ坪	くちのつぼ	21 取地堀	といちぼり	20 門之口	かどのくち
26 街道添	けどぞえ	22 故田	つづみだ	21 南畑	みなみばた
27 富永	とみなが	23 越床	こえどこ	22 宮前	みやまえ
28 新田	しんでん	24 供養塚	くよづか	23 宮後	みやうしろ
		25 大園	おおぞの	24 西崩尾	にしくえんお
		26 牧之園	まきのその	25 下水流	しもづる
		27 下水流	しもづる	26 迫	さこ
		28 南水流	みなみづる	27 大野原	おおのばい
		29 中島田	なかしまだ	28 (空 檻)	
		30 堅田	かたた	29 向塚	むこうづか
集落 1、小字 28		計 29		集落 5、小字 30	
池之原		計 35		計 35	

大字 川西		大字 新川	
30 俣瀬	またせ	* 下伊倉	しもいくら
31 前田	まえだ	* 唐仁	とうじん
32 東水流	ひがしづる	* 大塚	おおつか
33 西水流	にしつる	* 小新地	こしんち
34 西牟田	にしむた	* 宮之前	みやのまえ
集落 6、小字 34		* 大塚原	おおつかばる
計 40		* 新川西	しんかわにし
		* 古市団地	ふるいちだんち
		1 新川西雪山	しんかわにしゆきやま
		2 天神岡	てんじんおか
		3 古新堀	ふるしんぼり
		4 青木元	あおきのもと
		5 新堀	しんぼり
		6 西牟田	にしむた
		7 新牧後	しんまきご
		8 笹塚	しのづか
		9 田ノ尻	たのしり
		10 中村	なかむら
		11 小牧	こまき
		12 北小牟田	きたこむた
		13 笹塚	ささつか
		14 中野	なかの
		15 中牟田	なかむた
		16 鳥帽子田	えぼしだ
		17 牧下	まきのした
		18 郷衛	ごえ
大字 新川		19 中村	なかむら
		65 池畠	いけばた
		66 赤金	あかがね
		67 竹原	たけはら
		68 古川	ふるかわ
		69 竹ノ下	たけのした
		70 鎧崎	あぶみさき
集落 6、小字 70		20 三反割	さんだんわり
		21 三反田	さんだんだ
		22 三反割目	さんだんわりめ
		23 大越床	おおこえどこ
		24 横渡	ひわたし
		25 中島	なかしま
		26 福元	ふくもと
		27 源升蔵	げんしょうまき
		28 本大野原	もとおおのばる
計 76		29 尾関	しせき
		30 麦塚	むぎづか
		31 新地後	しんちご
		32 大塚原	おおつかばる
		33 新宝	しんぼう
		34 善六曲	ぜんろくまがり
		35 大塚	おおつか
		36 小村	こむら
		37 塚田	つかだ
		38 宝田	ほうでん
		39 城堀込	じょうほりごめ
		40 城之前	じょうのまえ
		41 前牟田	まえむた
		42 古市	ふるいち
		43 南古市	みなみふるいち
		44 上湊原	かんみなとばる
		45 牧内	まきうち
		46 湊原	みなとばる
		47 小橋口	こはしぐち
		48 楠元	たぶもと
		49 唐仁町	とうじんまち
		50 大塚出口	おおつかでぐち
		51 上町出口	かみまちでぐち
		52 昭和田	しょうわでん
		53 蘭田	いだ
		54 沖汐入	おきしおいり
		55 太左エ門新田	
		56 水神原	すいじんばる
		57 中渡	なかわたし
		58 堂ノ下	どうのした
		59 八反畠	はったんばた
		60 横ノ川原	ひのかわら
		61 堀川畠	ほりかわばた
		62 川原	かわはら
		63 城ノ山	じょうのやま
		64 水洗	みずあらい

大字川東			
※ 永峰	ながみね	25 西永峰	にしながみね
溜水	たまりみず	26 永峰	ながみね
安留	やすどめ	27 下永峰	しもながみね
上山野	かみさんや	28 西門ノ上	にしかどのうえ
山野	さんや	29 上吉ノ上	うえよしのうえ
役所	やくしょ	30 山野	さんや
中園	なかぞの	31 竹元上	たけもとうえ
高松	たかまつ	32 山王ノ上	さんのうのうえ
熊之馬場	くまのばば	33 田尾	たお
柏原	かしわばる	34 山王	さんのう
仲之町	なかんちょう	35 五反	ごたん
新町下	しんまちした	36 上西牟田	かみにしむた
栗寺町	あわでらまち	37 田ノ頭	たのかしら
1 境松	さかいまつ	38 竹崎	たけざき
2 大地之上	おおちんうえ	39 松原添	まつばらぞえ
3 安留	やすどめ	40 山野前	さんやまえ
4 定府	じょうふ	41 高松	たかまつ
5 六反	ろくたん	42 馬場	ばば
6 境堀	さかいぼり	43 深坪	ふかつぼ
7 境	さかい	44 上大地	かみおおち
8 境出口	さかいでぐち	45 平田	ひらた
9 前園堀	まえぞのぼり	46 下大地	しもおおち
10 門倉堀	かどくらぼり	47 川原	かわはら
11 内迫	うちさこ	48 深田	ふかた
12 浜渡	はまわたり	49 汐入場	しおいりば
13 溜水	たまりみず	50 新町	しんまち
14 矢石	やいし	51 汐取場	しおとりば
15 蔵園出口	くらぞのでぐち	52 弓場前	ゆんばまえ
16 西ノ園	にしのその	53 五町田	ごちょうだ
17 仮屋園後	かりやぞのうしろ	54 小中町	こなかまち
18 川東雪山	かわひがしゆきやま	55 堀内	ほりうち
19 浜久保	はまくぼ	56 三十石	さんじっこく
20 宮ノ下	みやのした	57 下町	したまち
21 柳崎	やなぎざき	58 蔵ノ下	くらのした
22 浜脇ノ前	はまわきのまえ	59 洲崎	すざき
23 蝶田	ひるんた		
24 小橋口	こはしげち		

集落 13、小字 59
計 71

東串良町の地名（その2）

俗称地名

大字岩弘			
1 蔵屋敷	くらやしき	34 牟田だ	むただ
2 堂ノ下	どうのした	35 池尾	いけお
3 戦車橋	せんしゃばし	36 おやしちけば	おやし演場
4 五郎ヶ渕	ごろうがふち	37 井手ん上	いでんうえ
5 せんだんおとし		38 上市園	かみいちぞん
6 森の下	もりのした	39 伊倉田方限	いくらだほううぎり
7 岩沖のはな	いわおきのはな	40 稲村方限	いなむらほううぎり
8 わんず		41 市の坂方限	いちのさかほううぎり
9 砂田	すなだ	42 羽坪方限	はっぽううぎり
10 役所ん下	やくしょんした	43 羽坪屋敷	はっぽやしき
11 市の坂	いちのさか	44 羽坪馬	はっぽうま
12 市村ん坂	いちむらんさか	45 鳥越ん坂	とごえんさか
13 紺屋どん	くやどん	46 邪松	よんごまつ
14 水喰ん屋敷	みっくれんやしき	47 太鼓橋	たいこばし
15 井手おとし	いでおとし	48 合戦野	かっせんの
16 寺ん屋敷	てらんやしき	49 中堀	なかぼり
17 堂の下	どうのした	50 山下堀	やましたぼり
18 しんこし		51 永富池田	ながとみいけだ
19 十五社ばし	じゅうごしゃばし	52 タカヤマン坂	たかやまんさか
20 役所ん屋敷	やくしょんやしき	53 フッドメブラク	福留部落
21 池添	いけぞえ	54 もしき山	もしきやま
22 中牟田	なかむた	55 下ん段	したんだん
23 伊倉田屋敷	いくらだやしき	56 ドッモト	
24 伊倉田橋	いくらだばし	57 金蔵橋	きんぞうばし
25 寺ん下	てらんした	58 早馬んばば	はやまんばば
26 寺おとし	てらんおとし	59 荒佐ん道路	あらさんどうろ
27 和田仮屋権現		60 富田	とみた
	わだかりやごんげん	61 中尾方限	なかおほううぎり
28 まやっぽん坂		62 上之園方限	うえんそんほううぎり
29 中尾	なかお	63 よこ土手	よこどて
30 池わんず	いけわんず	64 上川窪	かみかわくぼ
31 四角山	しかくやま	65 井手の上	いでのうえ
32 しばいで	柴井手？	66 早馬ん下	はやまんした
33 記念碑んあと		67 早馬どん跡	はやまとんあと
	きねんひんあと	68 おませ橋	おませばし

大字 池之原	大字 川西	
1 討手の口 うってんくち	1 川出 かわいで	
2 寺屋敷 てらやしつ	2 スドン上 水門上?	
3 一本杉 いっぽんすぎ	3 中土手 なかどて	
4 寺の坂 てらんさか	4 鷹石 たかいし	
5 トロッコ道 トロッコみつ	5 東村 ひがしむら	
6 野町 のまつ	6 思案橋 しあんばし	
7 中別府屋敷 なかんびゅうやしつ	7 役所屋敷 やくしょやしき	
8 串良街道 くしらかいどう	8 久保田水流 くぼたづる	
9 上使街道 じょうしかいどう	9 金竹土手 きんちくどて	
10 尼ヶ塚 あまがつか	10 原の木戸 はらんきど	
11 小屋敷 こやしつ	11 蟹喰 がんくれ	
12 中溝 なかみぞ	12 寺元 てらもと	
13 墓の下 はかんした	13 シノミの渡	
14 紺屋どん くやどん	14 しのみのわたし	
15 醤油屋の門 しょいやんかど	15 水神橋 すいじんばし	
16 川の坂 かわんさか	16 寺屋敷 てらやしつ	
17 梶ヶ野筋 かじがのすつ	17 砂落とし すなおとし	
18 早馬どん はやまとん	18 上の出口 うえんでぐつ	
19 柚木筋 ゆのきすじ	19 花立 はなたて	
20 堂の下 どうのした	20 堂園の屋敷 どぞんのやしつ	
	21 新溝 しんみぞ	
	22 並木 なみき	
	23 夫婦池 みといけ	
	24 締切 しめきい	
	25 商人ヶ崎橋 あきんどがさきはし	
	26 アキザキ橋 あきざきばし	
	27 打出 うちだし	
	28 島ノ下 しまんした	
	29 馬捨場 うますてば	
	30 新溝 しんみぞ	
	31 権現山 ごんげんやま	
	32 渡り方 わたいがた	
	33 下方 しもかた	

大字 新川西
1 内堀川 うちぼりかわ
2 堀川 ほりかわ
3 水門之口 すもんのくつ
4 城の脇 じよんわつ
5 内出の池 うっだしのいけ
6 番の池 たつのいけ
7 池 いけ
8 なべ池 なべいけ
9 城ンセゲ じよんせげ
10 河辺 こべ
11 小寺の墓 こどらんはか
12 上の村 かんのむら
13 東村 ひがしむら
14 紺屋の村 くやんむら
15 上の村 うえんむら
16 原之園村 はんのそんむら
17 出口村 でぐつむら
18 早馬の馬場 はやまんばば
19 島の元 しまんもと
20 越門 こえかど
21 稲荷供養 いないくよ
22 タカテン
23 山の神 やまんかん
24 山田 やまだ
25 水久保 みくぼ
26 新溝 しんみぞ
27 乾の池 いぬいんいけ
28 ゲンザノ げんざの
29 長池 ながいけ
30 勝田 かつた
31 小塚 こづか
32 仮屋屋敷 かりややしき
33 水神原 すいじんばる
34 鏡堂屋敷 かがみどうやしき
35 中別府屋敷なかんびゅうやしつ
36 (空欄)
37 角屋敷 かどやしつ
38 六ヶ所屋敷 ろっかしょやしつ
39 寺屋敷 てらやしつ
40 檜徒の墓 だんとんはか
41 小檀徒の墓 こだんとんはか
42 じよん墓 じよんはか
43 蔵下 くらんした
44 蔵屋敷 くらやしつ
45 大山法師 でやんぼす
46 ひでぼっけ
47 一ツ橋 ひとつばし
48 吉水 よしみず
49 渕 がた
50 江口の尻 えごんしい
51 前島 まえんしま
52 中ノ瀬 なかんせ
53 滑石 なめい
54 さつけつぽ
55 もんどん屋敷
56 猫服 ねこふく?
57 鴨牟田 かもむた
58 役所屋敷 やくしょんやしつ
59 役目付 やくめつき
60 新溝 しんみぞ
61 役所の川 やくしょんかわ
62 新落 しんおとし
63 一番溝 いちばんみぞ
64 二番溝 にばんみぞ
65 中土手付 なかどてつき
66 座頭落し ざっつおとし
67 角生え馬場 つのおえばば
68 田畠 たばた
69 降神山 こうじんやま
70 開墾 かいこん
71 横町 よこまち
72 上住 かんぢゅ
73 下住 しもぢゅ
74 宮の前 みやんまえ
75 宮の後 みやんうしと
76 植木山 うえきやま
77 小牟田十文字 こむたじゅうもじ
78 牧ノ田 まきのた
79 川ノ上 かわんかみ
80 (空欄)
81 (空欄)
82 落し おとし
83 清助山 せすけやま
84 与峰山 よほやま
85 下道 したんみち
86 水神免 すいじんめん
87 大水流 うづい

大字川東		
1 寺の十文字	てらんじゅうもじ	37 曲 まがい
2 水神場	すいじんのば	38 古市ノ城 ふるいちのしろ
3 ガゼン坂	がぜんさか	39 柏原海道 かしわばるかいどう
4 仮屋	かりや	40 牧ノ田 まつのた
5 堂ノ下	どうのした	41 (空 櫈)
6 仕明	しあけ	42 (空 櫈)
7 稲荷どん前	いないどんまえ	43 船塚 ふなつか
8 たちぼいの丘	たちぼいのおか	44 城山 じょんやま
9 外西の屋敷	ほかにしんやしつ	45 陣堀 じんぼい
10 中の川	なかんかわ	46 的場 まとば
11 下の川	したんかわ	47 トッノカン 斎の神?
12 けもと	皆元?	48 センゾボ 先祖坊?
13 まき	牧?	49 前の田 まえんた
14 内牧	うちまき	50 たかやまんやしき
15 ジジロボイ		高山の屋敷?
16 ニンジュウ		51 もしき 百敷? 舞敷?
17 シボラ		
18 上溝の上	かんみぞんうえ	
19 東折口	ひがしおりぐち	
20 南榎元	みなみたぶもと	
21 田ノ尻	たのしり	
22 陣堀	じんぼい	
23 宝楽の瀬戸	ふらうのせと	
24 上一番~六番	かみいちばん~ろくばん	
25 春日の瀬戸	かすがんせと	
26 (空 櫈)		
27 (空 櫈)		
28 倉屋敷	くらやしつ	
29 地蔵の角	じぞんかど	
30 権現馬場	ごんげんばば	
31 森田の墓	もりたんのはか	
32 堂の瀬戸	どんせと	
33 墓の下	はかんした	
34 檻干	だんかん	
35 弁天	べんてん	
36 (空 櫈)		

東串良町の地名 (3)

(1) 信仰地名 (60)

岩弘 (7) —— 権現迫、早馬下、堂ノ下、寺屋敷、しんこし (新興寺)、十五社橋和田仮屋権現
 池之原 (7) —— 早馬どん、宮之下、堂の下、墓下、寺屋敷、供養塚、尼ヶ塚
 川西 (7) —— 権現山、宮前、寺之元、寺屋敷、軍神塚、向塚、花立
 新川西 (21) —— 天神ガ岡、山ン神、水神免、水神原、降神山、稻荷供養、宮ン前、宮ン後、堂ノ下、寺屋敷、大塚、大塚原、小塚、笹塚、篠塚、麦塚、じょん墓、コドラン墓 (小寺の墓?)、檀徒の墓、小檀徒の墓、ひでぼっけ
 川東 (18) —— 熊之馬場、権現馬場、山王、稻荷どんの前、水神場、弁天、地蔵ン角、トッノカン、春日ン背戸、宝楽の瀬戸、堂ノ瀬戸、シジロボイ、センゾボ、宮ノ下、堂ノ下、墓ン下、舟塚、モタイ (森田) の墓

(2) 館・城郭・集落地名 (61)

岩弘 (10) —— 伊倉田屋敷、藏屋敷、羽坪屋敷、役所ん屋敷、伊倉田方限、稻村方限、市の坂方限、上之菌方限、中尾方限、フッドメブラク (福留部落)
 池之原 (6) —— 役所前、小屋敷、中別府屋敷、本屋敷、西本屋敷、南本屋敷
 川西 (5) —— 東村、下方、門之元、堂園屋敷、役所屋敷
 新川西 (22) —— 城ノ山、別府ケ城、城堀込、竹原 (館原?)、下伊倉、藏下、藏屋敷
 かど屋敷、仮屋屋敷、鏡堂屋敷、中別府屋敷、もんどん屋敷、六ヶ所屋敷、中村、
 小村、東村、上の村、上ン村、出口村、原之園村、古市団地
 川東 (18) —— 城山、古市の城、堀内、陣堀、馬場、的場、弓場前、藏ノ下、役所、定府、仮屋、仮屋園後、倉屋敷、たかやまんやしき、外西屋敷、浜脇ノ前、西門ノ上、上吉ノ上

(3) 条里・土地区画地名 (16)

岩弘 (2) —— ロノ坪、二重下 (二条?)

池之原 (1) —— 境

川西 (1) —— 並木

新川西 (2) —— 三反割、三反割目

川東 (10) —— 境、境松、五反、六反、上一番~上六番

(4) 市・町・交通地名 (60)

岩弘 (10) —— 荒佐ん道路、早馬んばば、市の坂、タカヤマン坂 (松留坂)、鳥越坂、まやっぽん坂、伊倉田橋、おませ橋、金蔵橋、太鼓橋

池之原 (11) —— 串良街道、梶ヶ野筋、柚木の筋、トロッコ道、川ん坂、寺ン坂、越床渡口、野町、豊栄町、町後

川西 (10) —— 上の出口、原の木戸、馬越、馬越ン筋、アキザキ橋、商人ヶ崎橋、
水神橋、思案橋、シメノの渡、渡り方

新川西 (17) —— 古市、南古市、唐仁町、横町、上住、下住、越門、湊原、上湊原、
下道、早馬ン馬場、小牟田十文字、上町出口、大塚出口、小橋口、一つ橋、中渡
川東 (12) —— 仲ン町、小中町・下町・新町下・栗寺町・寺ン十文字、柏原海道、
小橋口、藏蔵出口、境出口、ダンカン (欄干)、浜渡

(5) 水利地名 (36)

岩弘 (6) —— 井手ン上、柴井手、井手おとし、せんだんおとし、寺おとし、横土手

池原 (1) —— 中溝

川西 (9) —— 桶之口、中桶之口、川出、スドン上、〆切、中土手、金竹土手、新溝、
夫婦池

新川西 (19) —— 桶渡、桶ノ川原、水門口、尻関、堀川、内堀川、役所ン川、一番溝、
二番溝、新溝、中土手付、落し、新落、池、内出しの池、乾の池、糞の池、長池、
なべ池

川東 (1) —— 上溝ン上

(6) 人名地名 (6)

岩弘 (1) —— まやっぽん坂

池之原 (0) —— (梶ヶ野筋) (柚木筋)

川西 (0)

新川西 (5) —— ゲンザノ (源左野?)、さすけつぼ、清助山、善六曲、与峰山

川東 (0)

(7) 開発地名 (44)

岩弘 (12) —— 富永・永富・永富池田・上市園・下市園・中村園・外園・新田・中堀・
山下堀・池添・街道添

池之原 (8) —— 大園・牧之園・池之原・石堀・取地堀・新堀・麓堀・街道添
(池之原は明和5年:1768年に干拓)

川西 (7) —— 別府原・別府下・五丁・久保堀・境堀・蜂屋堀・軍神堀

新川西 (7) —— 太左エ門新田・開墾・小新地・新地後・新堀・古新堀・昭和田

川東 (10) —— 中園・西ノ園・三十石・五町田・前園堀・門倉堀・仕明・山野・上山野
松原添

(8) 田畠地名 (28)

岩弘 (4) —— 門田・十三田・砂田・牟田だ

池之原 (3) —— 堅田・鼓田・中島田

川西 (5) —— 堅田・上高田・前之田・和田下・南畠

新川西 (11) —— 蘭田・烏帽子田・勝田・牧ノ田・山田・三反田・八反畠・池畠・田畠・

堀川畠・げんじょうまき

川東 (5) —— 深田・前ん田・牧の田・上大地・下大地

(9) 農掌・産業地名 (15)

岩弘 (3) —— おやしちけば、紺屋どん、牧之内

池之原 (2) —— くやどん、しょいやん門

川西 (1) —— 砂落とし

新川西 (6) —— 役目付、クヤン村 (紺屋)、牧内・牧下・小牧・新牧後

川東 (3) —— 汐取場、まき (牧?)・内牧

(10) 位置地名 (47)

岩弘 (18) —— 稲付前、池尾、井手ん上、上段・下ん段、寺ン下・堂の下、二重下、
竹下、森の下、役所ん下、屋敷下、ドッモト (堂本)、岩沖のはな、後迫、
うえがた (上方)、下がた (下方)、かした (頭)

池之原 (4) —— 宮之頭、役所後、下出口、長ヶ出口

川西 (6) —— 宮後、寺之元、門之口、川西、島ノ下、下方

新川西 (10) —— 城之前、城ン脇、竹ノ下 (館ノ下?)、タカテン、田ノ尻、川の上、
新川西、中野、中島、島元

川東 (9) —— 山王ノ上、竹元上、たちばいの丘、田尾、田ノ頭、田の尻、内迫、
山野前、大地之上

(11) 伝承地名 (14)

岩弘 (5) —— 合戦野、記念碑んあと、五郎ケ渕、戦車橋、早馬ドン跡

池之原 (2) —— 討手ンロ、上使街道

川西 (2) —— 鷹石、馬捨場

新川西 (5) —— 赤金、鎧崎、角生え婆 (馬場)、デヤンボス、座頭落し

川東 (0) —— 山王屋敷 (神武天皇御駐蹕伝説地) があるが、採用せず。

(12) 瑞祥地名 (9)

岩弘 (1) —— 富田

池之原 (0)

川西 (3) —— 貴実益・富田・吉元

新川西 (4) —— 新宝・宝田・福元・吉水

川東 (1) —— 安留

(13) 意味不明 (9)

岩弘 (2) —— 羽坪馬・もしき山

池之原 (0)

川西 (0)

新川西 (2) —— 郷衛・城ンセゲ

東串良町の地名(数値的分析)

(20) 景観地名 (18)

岩弘(3) —— 岩弘、段之平、中尾

池之原(2) —— 雪山・雪山原

川西(5) —— 雪山・川西雪山、迫、大野原、打出

新川西(5) —— 新川西雪山、大越床、本大野原、中の瀬、前島

川東(3) —— 川東雪山、洲崎、浜久保

(21) 形状地名 (12)

岩弘(4) —— わんず・池わんず、四角山、邪松

池之原(2) —— 上川久保・下久保

川西(1) —— 侯瀬

新川西(0)

川東(5) —— 永峰・下永峰・西永峰、東折口、曲

(22) 目印地名 (10)

岩弘(0)

池之原(1) —— 一本杉

川西(0)

新川西(3) —— 青木ノ元、楠元、塚田

川東(6) —— 高松・竹崎・柳崎・柏原・南楠元、矢石

(23) 川原・湿地地名 (32)

岩弘(3) —— 上川窪、中牟田、古川

池之原(2) —— 下水流・南水流

川西(5) —— 下水流・東水流・西水流・久保田水流・西牟田

新川西(15) —— 沖汐入・潟・エゴン尻、大水流・古川・河辺・川原・水久保・
中牟田・西牟田・北小牟田・前牟田・鴨牟田・滑石・猫服(猫渕?)

川東(7) —— 汐入場・溜水・深坪、中ン川・下ン川・川原・上西牟田

(24) 浸食・崩壊地名 (4)

岩弘(1) —— 水喰ん屋敷

(25) 気象地名 (1)

岩弘(0)

池之原(0)

池之原(0)

川西(2) —— 西崩尾・蟹喰(ガソクル)

川西(0)

新川西(1) —— 水洗

新川西(1) —— 植木山

川東(0)

川東(0)

	岩 弘 9 2		池之原 5 2		川 西 6 9		新川西 1 5 6		川 東 1 1 3		計 4 8 2		
1) 信仰地名	7	% 7.6	7	% 13.5	7	% 10.1	21	% 13.5	18	% 15.9	60	% 12.4	
2) 集落地名	10	% 10.9	6	% 11.5	5	% 7.2	22	% 14.1	18	% 15.9	61	% 12.7	
3) 区画地名	2	% 2.2	1	% 1.9	1	% 1.4	2	% 1.3	10	% 8.8	16	% 3.3	
4) 交通地名	10	% 10.9	11	% 21.2	10	% 14.5	17	% 10.9	12	% 10.6	60	% 12.4	
5) 水利地名	6	% 6.5	1	% 1.9	9	% 13.0	19	% 12.2	1	% 0.9	36	% 7.5	
6) 人名地名	1	% 1.1					5	% 3.2			6	% 1.2	
7) 開発地名	12	% 13.0	8	% 15.4	7	% 10.1	7	% 4.9	10	% 8.8	44	% 9.1	
8) 田畠地名	4	% 4.3	3	% 5.8	5	% 7.2	11	% 7.1	5	% 4.4	28	% 5.8	
9) 産業地名	3	% 3.3	2	% 3.8	1	% 1.4	6	% 3.8	3	% 2.7	15	% 3.1	
10) 位置地名	18	% 19.6	4	% 7.7	6	% 8.7	10	% 6.4	9	% 8.0	47	% 9.8	
11) 伝承地名	5	% 5.4	2	% 3.8	2	% 2.9	5	% 3.2			14	% 2.9	
12) 瑞祥地名	1	% 1.1			3	% 4.3	4	% 2.6	1	% 0.9	9	% 1.9	
13) 意味不明	2	% 2.2					2	% 1.3	5	% 4.4	9	% 1.9	
14) 爭論地名													
小 計		8 1		4 5		5 6		1 3 1		9 2		4 0 5	
20) 景観地名	3	% 3.3	2	% 3.8	5	% 7.2	5	% 3.2	3	% 2.7	18	% 3.7	
21) 形状地名	4	% 4.3	2	% 3.8	1	% 1.4			5	% 4.4	12	% 2.5	
22) 目印地名			1	% 1.9			3	% 1.9	6	% 5.3	10	% 2.1	
23) 湿地地名	3	% 3.3	2	% 3.8	5	% 7.2	15	% 9.6	7	% 6.2	32	% 6.6	
24) 崩壊地名	1	% 1.1			2	% 2.9	1	% 0.6			4	% 0.8	
25) 気象地名							1	% 0.6			1	% 0.2	
26) 擬音地名													
小 計		1 1		7		1 3		2 5		2 1		7 7	

「小字一覧」

二ルビの町村

- | | | |
|-------------------|------------------|----------------|
| 1. (旧) 浴山市 | (31) 瀬戸内町 | 61. 有明町 |
| 2. 阿久根市 | 32. 五論町 | 62. 大崎町 |
| 3. 出水市 | (33) 桜島町 | 63. 志布志町 |
| 4. 指宿市 | 34. 十島村 | 64. 末吉町 |
| 5. 加世田市 | 35. 三島村 | 65. 松山町 |
| 6. 鹿屋市 | 36. 大浦町 | 66. 伊集院町 |
| 7. 串不野市 | 37. 笠沙町 | 67. 日吉町 |
| 8. 国分市 | 38. 川辺町 | 68. 吹上町 |
| 9. 川内市 | (39) 坊津町 | 69. 松元町 |
| 10. 名瀬市 | 40. 吾平町 | |
| 11. 西之表市 | (41) 内之浦町 | |
| 12. 枕崎市 | 42. 大根占町 | |
| 13. 加治木町 | 43. 串良町 | |
| 14. 蒲生町 | (44) 高山町 | |
| 15. 霧島町 | 45. 佐多町 | |
| 16. 福山町 | 46. 田代町 | |
| 17. 牧園町 | 47. 根占町 | |
| 18. 横川町 | (48) 東串良町 | |
| 19. 吉松町 | 49. 上屋久町 | |
| 20. 菱刈町 | 50. 中種子町 | |
| 21. 高尾町 | 51. 南種子町 | |
| (22) 野田町 | (52) 屋久町 | |
| 23. 頬姫町 | 53. 入来町 | |
| 24. 山川町 | 54. 鹿島町 | |
| 25. 天城町 | (55) 上齋村 | |
| 26. 伊仙町 | 56. 伊集院町 | |
| 27. 宇椛村 | 57. 下齋村 | |
| 28. 笠利町 | 58. 鶴田町 | |
| (29) 吾思町 | 59. 通脇町 | |
| 30. 住用町 | 60. 宮之城町 | |

地名研究会報

第82号

平成15年12月7日

鹿児島地名研究会

I. 第82回例会

平成15年9月7日(日)

於西郷南洲顕彰館研修室

(出席者)

青柳俊二・今村誠一・上野堯史・大田照夫・納栄藏・川野雄一・坂本誠
築地成郎・永坂芳彦・西田春人・繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・
福元忠良・三善喜一朗・米原正晃(計16名)

II. 大日本地名辞書読会

p.546~p.547

大口・羽野郷・羽月・牛屎・菱刈郷

III. 高尾野町の地名

[問題となった地名および事項] 牛屎、首里、肥後の加藤が来るならば、亡野と羽野、
平出水と菱刈街道、高熊山の古戦場、秀吉の帰路、上使道、車道と車田、
武本、垂、黒木、日添、桑水流、底水道、摺木、三斗蒔。

牛屎(ウツリ)

平田 一通り読みましたが、何かあります
たら質問を出して下さい。

上野 馬越(マコシ)というのは、どの辺に
なりますか。

平田 前目(マメ)のことでしょう。(地図
を指しながら)此處、役場の近く。この辺は
「麓」がかたまっています。(後記:馬越麓
:前目、湯之尾麓、本城麓。菱刈町内に3ヶ
所存在)。次回は「菱刈」に入りますから、
続きの地図:菱刈の部分をコピーして来ます

上野 あゝ、こっちの方に広がる?

平田 そうです。

繁昌 牛屎というのはあまり良い名前じや
ないと思うのですが、「後世牛屎を忌みて、
改めて牛山」に変えたのですけど、汚い言葉
と判っていたら最初からそういう地名は付け
なくともよさそうだと思うのですけど。

平田 弱ければ攻められるわけでしょう。
牛屎なんて名前を付けていたら嫌がって攻め
て来ないと思う。そういう意味合いもあるの
です。例えば南島の方に臥蛇島(ガジヤシマ)

というのがあって、蛇が這ってるよ、と印象
づける。そうしたら海賊たちにねらわれない
という魔除けの意味もあるのです。

納 「惡」が付く地名がある。

平田 あゝ、惡石島(アセキシマ)。

納 伊作と谷山の中間ですよ。

平田 「惡」という地名がありますか。

納 地名があります。それと同じじやな
いですかね。

首里

納 546ページの上段、大口のところに
「大字里を首里とした」とありますね。この
首里というの?

平田 中心的な集落という意味です。

納 沖縄の首里もこれと同じような場所
だったのでしょうか。

平田 首里は都という意味です。琉球王が
居た所ですから。「都」という意味。

肥後の加藤が来るならば

納 下の段に「肥後の加藤が来るならば」
の歌がありますね。私どもが小さい頃は歌い
よったです。

平田 ちょっと歌ってみて下さい。録音に入れておきます。若い連中は知りませんから良い機会です。

納 意味も判らずに、太か声で歌いよったです。

平田 ちょっと歌ってみて下さい。

納 私が知ってるのと、なかの文句がちょっと違う。

平田 いいですよ。録音しておきます。納さん歌うてみていいやんせ。あれっ、聞こえやらんかな。

繁昌 歌ってもらえませんか。

納 調子は。

平田 調子はいけんでんよかんがな。

納 昔は、青年団。

平田 稚児歌みたいなものですか。

納 全部は憶えていないですよ。最初のところだけ。

平田 最初のところだけいいですよ。どげなものかが判れば。恐らく、皆、知らんでしょう。

納 調子を考えなければ。歌いにくい。

平田 酒が入らにやいかんかな。

納 琵琶歌とか詩吟と同じでふとか声でおらぶ歌でした。

平田 歌上(ウタケ)をちょっとやってみて下さい。最初のところだけ。

納 調子なんてのは、その頃はなかったですから。

平田 どげなもんか判れば。

納 最初が出て来ん。

肱岡 川内中学時代の応援歌に「それでも聞かずに来るならば、こっぱ微塵に吹っ飛ばせ」と。

平田 「吹っ飛ばせばせ、吹っ飛ばせ」。

この応援歌のメロディですか。

肱岡 知っているのはそんな調子です。

平田 それならば今でも小学校の応援歌に残っているでしょう。

上野 実際には新納忠元は熊本の戦いには出でていないです。

平田 肥後は攻めて来てないでしょう。

上野 水俣の海上の戦いが。

平田 実際にやっていないでしょう。

上野 海の戦いはやっています。

平田 あゝ、そうね。その辺はよく知らない。どういうこと？

上野 加藤は小西の領地を取りに来たのです。

平田 あゝ、小西の。

上野 関ヶ原で敗けたから、小西の方から支援を求められた島津が。

平田 応援に行くわけ？

上野 応援に行くわけです。佐敷沖か、何かそういう所で戦いをやっているわけです。薩摩方と。

平田 あゝ、そうね。

上野 はい、今、島津側の年譜を見ていますが（実際にパソコンで検出作業）、忠元の名前だけは出て来ないので。彼は行かなくても、家来は行ったかも知れません。

平田 応援に動員されたのでしょうか。

上野 関ヶ原の後、こっち（日向）の方は帰って来る時に、稻津が宮崎で反乱して。

平田 義弘がマークされる。

上野 えゝ、義弘が困ったのです。こっちの方は小西とのからみで、加藤が力を。

平田 伸ばして来る。

上野 だから、当然、国境付近が緊張しておったというのは判りますけど。

平田 それはそうですね。日向関係も肥後関係も緊張しておったから、残っていた義久とか家久はそちらの方に気を配らなければならなかつた、ということですね。あゝ、そうですか。そこまでは気付きませんでした。知りませんでした。

亡野郷・羽野郷

繁昌 亡野郷というのは、やっぱり山野郷の間違いなんでしょうか。

平田 それは判らない。

繁昌 それと羽野郷というのは「羽月村なるべし」と書いてあるけど、向うの方に筒羽野といふ……。

平田 吉松の古名は筒羽野、栗野も交通の要地。此処らは昔の菱刈郡の範囲であることは間違ひない。その中で菱刈だけは動かないけど、亡野・大水・羽野の三郷がどこになるのか判らない。墨書土器が出て来る以外に決め手がない。一番重要な所は郡山八幡あたりだと思うけど。

繁昌 菱刈郡の中心は、仮に現在の菱刈町だとして、中心になる神社が郡山八幡だとする。そういうふうに離れてあるということは考えられることですか。

平田 それは考えられないだろうね。

平出水（平泉）と菱刈街道

上野 この本（大日本地名辞書）の中では奥州と同じ平泉を使っているけど、地図では平出水。この本を書く頃に平泉だったのか、それともそれ以前から平出水だったのか。気になるのは義虎が此処を占拠すると……。

平田 あゝ、薩州家の。

上野 義虎は出水の支配者ですから、そこのからみで地名を変えたのかなという気がせんでもないけど。本自体が書かれたのは

明治ですから、どっちのイズミ（出水・泉）だったのか、というのが出て来るのじゃないか。本では平泉、地図は平出水。そこがどうなのか。

平田 出水の薩州家の勢力が強ければこの文字（出水）が使われるでしょうね。

上野 使わせたのか。

平田 それはあり得る。

上野 そういう気がせんでもないですね。

平田 はつきりは知らないのだけど、相当な遺跡が出て来たのじゃないの？

繁昌 平出水城跡とか。

上野 それは戦国時代？

繁昌 戦国時代です。

平田 平出水城跡は発掘したの？

繁昌 はい。土砂取りでやられましたから

その前に全部調査しました。そのためにほぼ潰滅しました。

平田 これは昔から、菱刈から出水につながるルートとして重要な場所でした。出水麓が特別史跡町並指定地区になった時、その整備事業として麓の道筋にいろんな立札を立てたのですが、その一つに「菱刈街道」というのがあります。菱刈と出水を結ぶ経路は重要な路線だったと思います。島津忠久が代官を派遣して出水平野の一角に木牟礼城を築いていますが、それは島津氏が都城にあった島津莊との連絡をとるためでした。出水一平出水一菱刈一真幸一都城の交通路を確保していたと考えられます。「菱刈街道」という名称も

そうですが、そのことは出水麓の河添白水の石碑にも書いてあります。碑文を重野安繹が書いています。彼が若い頃、都城から紫尾山を越えて出水にやって来たとの記事がありますから、出水一伊佐平野一都城を結ぶ道は

古くから連絡路としてあったものと考えられるのです。

高熊山の古戦場

平田 よく新聞で紹介されるのですが高熊山の古戦場というもの。高熊山は此処にあります（地図で説明）。鳥神岡と高熊山が両側から幹線道路を挟んで、にらみを利かす場所になります。此処に熊本協同隊と辺見十郎太たちが立籠もって激戦を交えたとの話があります。それが546ページの下段に書いてあることです。400メートルちょっとの山ですが、平野の中にそり立っているので、なるほど戦略上の拠点だなとすぐ判ります。頂上には今でも薩軍が掘った塹壕が残っています。激戦地とのことで八・六水害後病気になられた土屋知事書の石碑が立っています。熊本や鹿児島の人たちは、熊本協同隊や辺見十郎太などが立て籠もって激戦を交えたというのですが、落ち着いて考えてみると変な現象に気付きます。山上にいた薩軍は有利なはずです。官軍は下から登って行くわけです。ところが上にいた薩軍の戦死者が二百数十名、攻め登って行った官軍の戦死者は二十名ばかりです。これは解釈としておかしいのじゃないか。雨が降っていて薩軍の鉄砲は役に立たなかったけど、官軍の鉄砲は威力を發揮した。それで差が現れたとの解釈が成り立つかも知れませんが、山の上を守っている者は石でも何でも投げつければ有利であるはずだし、下から登って来るのはきついはずです。官軍が勝ったのはどういうことかというと、官軍の方は元氣があるし、薩軍の方は栄養失調状態に近い敗残兵であった。だからそういう戦闘結果になったと思うのです。激戦を交えたというより、山上に残っていた敗残兵を官軍が掃討

した戦闘のような気がするのです。官軍は放置して置いてもいいですよ。要所を抑えていたと言っても動く力はないわけですから。それを敢えて攻め登って行ったのは、一応邪魔だということで掃討作戦をやったのだなと思います。熊本協同隊があそこで戦った、激戦だったと言えば、史跡として皆が懐かしがるという面があるかも知れません。冷静に見ると変な現象があります。行かれたら高熊山は平野にそり立つ山ですから、すぐ気が付くと思います。

豊臣秀吉の帰路

上野 秀吉が大口に上って来た道路というのは川内川沿いの道ですか？

平田 川内川沿いに上がって来て鳥神岡の所に出る道。

上野 宮之城からはもう歩いているのですよね。

平田 これになるのじゃないかな（地図を示す）。

上野 求名(クミヨ)を通る道。267号線になるのじゃないかな。

平田 秀吉は直接大口には入っていませんよ。

上野 大口を通らないと水俣に抜けられんのじゃないですか。

平田 大口をはずれて曾木とか羽月の方を通っている（後記：川内川が増水していて大口に渡れない状態だった）。

納 大口の手前になるのですか。羽月だったかな。新納武藏守忠元と豊臣秀吉が話をしたというのは。

平田 曽呂利新左衛門の話？

納 関白原というのは、どこ辺にあるのかな。

平田 関白陣はよく聞くけど、どこになるかな。

繁昌 薩摩町から大口の針持に入りますが、針持に入ってすぐの左側の山が関白陣になります。

平田 秀吉は針持とか曾木とか、こっち側から山野川（後記：羽月川が正しい）の右岸を通って抜けたはずです。そこに新納忠元が出向いたのじゃないですか。

上野 インプットしたデータでは羽月の園田で新納忠元は秀吉を見送ったということです（後記：新納忠元は天堂ヶ尾の関白陣で秀吉から刀と道服を与えられ、その翌日羽月園田で秀吉を見送った）。

平田 関白陣で曾呂利新左衛門（後記：細川幽齋が正しい）が「髭の下にぞ鈴虫ぞ鳴く」と掛けたら、新納武藏が「上髭をチンチロリンとひねりあげ」と答えたという有名な

話があります。しかし鈴虫がチンチロリンと鳴くのではなくて（笑い）、松虫がチンチロリンと鳴くのでしょうか。

納 チンチロリンだけは思い出しました。

平田 あ、そうですか。そういう有名な話が残っています。

上野 曾木の陣場で最初逢って、その後秀吉からいろんな物を貰ったりして、帰る時は羽月の園田で見送っているとの記録はあります。曾呂利新左衛門（細川幽齋）の話は知りませんでした。

平田 上野さんは旧記録その他から歴史上の出来事を全部インプットしています。凄いことをやっている人がいるもんです。そのうち本になるでしょう。

上野 ちょうどよい時間になりましたから、休みましょう。

高尾野町の地名

繁昌 正幸 最初に来たのがB4の大きさで何枚にも分かれていました。おまけに多分パソコン処理の関係でどうけど片仮名があって字名があるという形でした。これは読みにくいので字名の漢字を先にして、読み仮名を右側に付ける形で作業を進めました。

此處を見て下さい（地図を指しながら）。見えますか。下水流・上水流・唐笠木・下高尾野・柴引・大久保・江内、7大字があります。処理を進める段階で、下高尾野があって上高尾野がないことから、下水流があっても上水流がないという感じで処理していたら、これは別だと気付いてやり直す手間を掛けた

ためにちょっとごたごたになったような気がします。

一応、社会教育課の人は税務課に行って資料を貰ったと思います。貰うまでに一月ぐらい時間がかかるようです。もし役場の方に連絡されたのでしたら、早めに連絡をとって余裕を持っておかないとばたばたするのを身をもって感じました。

前回の野田町の方は上名・下名の二大字で小字の数が二百ぐらいで楽でした。高尾野町は七大字、小字が754あって、この処理がなかなか大変でした。一応自分なりに分類してこれでいいかなと思いましたが、平田先生に見てもらい、いろいろ指導を受けました。そういうことで出来上がったのが一週間ぐらい前です。整理不十分な点があるかも知れません。

一応、字を読んでみて、県立図書館で調べた字乃至は言葉について調べたのを説明したいと思います。同時に平田先生から相当読み違いがあるのじやないかということですのでその都度コメントを貰って進めて行きます。全部読み終わった後で高尾野町の地名についての特色をまとめてみたいと思います。

信仰地名(59)とある所から始めます。柴引(シハヒキ)に(12)あります。堂前(トウカエ)・踊場(オトリバ)・諏訪坊(スワボウ)・花立(ハナタテ)・古寺(フルテラ)・灰塚(ハイヅカ)・立野(タテノ)・羽山(ハヤマ)。

すけど。永忠庵(エチュアン)という寺があつてさらに上・中・下に分けたのかなと思ってい

ます。そして羽山(ハヤマ)、立山(タチヤマ)。
大久保(6)：木ノ法(キノボウ)。キノホウではなくボウと濁るようです。鎮守丸(チンジュマル)その他にも例えば城郭地名に○○丸というのがあります。城の内部の曲輪を○○丸・本丸

・二之丸という言い方をしますから、それとの関係はどうなのかなと、調べてみましたが判りませんでした。次が堂山(トウカヤマ)、それ

から矢房(ヤフサ)。

平田 矢房(ヤフサ)だろうね。

繁昌 「ヤブサ」ですか。

平田 「ヤブサメ」にもつながる。

繁昌 上り立の上(ノボリタケノウエ)。

平田 それは上り立(アガリタケ)。(後記：当初は旗や幟を立てたことによる地名と考えていたが、バスに乗っていた時、停留所の案内に「アガリタケ」と聞いた。以来、上り(アガリ)・下り(サガリ)に由来するのかと気を付けている)。

繁昌 「アガリタケ」ですね。それから尾立(オタテ)。下高尾野(11)：諏訪(スワ)・放光寺(ホウコウジ)・宮脇(ミヤワキ)・諏訪上(スワカミ)・花立(ハナタテ)・如意庵(ニヨイアン)・水天原(スイテンハラ)・古寺(フルテラ)・灰塚(ハイヅカ)・立野(タテノ)・羽山(ハヤマ)。

柴引と同じような花立・立野・羽山があり庵も永久忠庵・如意庵という感じで、やはり柴引・下高尾野が高尾野町の中心になるかなという気がします。

上水流(3)：今寺(イマテラ)・角力場(スマウバ)この角力場は角力をとる所なんでしょうけど「土俵を設けて角力をとる所、角力を興行する所」。巡って来て角力をとったり、神社の

祭りに伴うものということで信仰地名に入れています。それから羽山(ハヤマ)。

下水流(11)：霧島(カリシマ)・田神丸(タシンマル)

平田 これは田神(タノカン)だね。

繁昌 田神(タノカン)だと思うのですけど。

それから山王丸(ヤマオウマル)。

平田 山王丸(サンノウマル)だね。

繁昌 山王丸(サンノウマル)でしょうね。水天丸(スイテンマル)・寺島(テラシマ)・堂前(トウカエ)・大野田神前(オノタケガミマエ)、これも・・・

平田 大野の田神前(タノカンマエ)だろうね。

繁昌 片仮名をご覧になると判ると思うのですが、どこで区切るか、ちょっと判りませんでした。堂ノ丸(トウカノマル)・法心原(ホウシンハラ)・宮脇(ミヤワキ)・宮ノ丸(ミヤノマル)。

唐笠木(6)：木ノ法(キノボウ)。大久保では「キノボウ」と読み、同じ字を唐笠木では「キノボリ」と読んでいます。宮脇(ミヤワキ)・諏訪坊(スワボウ)・諏訪山(スワヤマ)・諏訪脇(スワワキ)・法来(ホウライ)。これは多分諏訪神社を中心になるんですね。諏訪坊・諏訪山・諏訪脇と三つあるようです。法来はこっちに入れたのですけど、宝来があったり鳳来がありました。此處は法来を使っています。

江内(10)：諏訪迫(スワサコ)・諏訪山(スワヤマ)・大明神(タツミヨウジン)・天神(テンジン)・諏訪田(スワテン)・宮崎(ミヤザキ)・堂平(トウカヒラ)・堂山(トウカヤマ)・平房(ヒラボウ)・下り(クタリ)。

平田 下り(サガリ)だ。

繁昌 下り(サガリ)。これを見てもサガリ・クタリといろいろあるのです。一応、こんな感じで流していきます。次は(2)館・城郭・集落地名。柴引(3)：陣之内(ジンノウチ)・小陣(ショウジン)。

平田 小陣(ショウジン)? コジンだろうね。

繁昌 大久保(5)：甚ヶ屋敷(ジンガヤシキ)・射場(イバ)とあります。射場は弓を射る所。

射場屋敷(イバヤシキ)・柿内(カキナ)。「カキ」が柿ですが、上水流には垣内があります。「ツネウチ」と読ませるのですが、この字がそうじやないかと思って城郭地名に入れました。それから陣ノ平(ジンノヒラ)。

下高尾野(5)：新城(シンジヨウ)・矢倉堀(ヤカラボリ)・城戸口(キトゲチ)。「キド」は木戸と書いてあるのと城戸と書いてある場合があり、これは城戸ですから城郭地名の方に分類しました。それから本城(ホンシヨウ)・高城(タカシヨウ)

上水流(6)：滅多にない地名だと思うのですが、墓(ハカ)。垣内(ツネナ)。かれは「カキウチ」じゃないかなと思うのですけど。

平田 壁内(カキナ)で読み間違いでしまう。

繁昌 それから屋敷丸(ヤシキマル)・伊勢屋敷(イセヤシキ)・新屋敷(シンヤシキ)・広門(コウモン)。

平田 広門(ヒロト)だろうね。門名の。

繁昌 はあ、だけど、次の下水流のは勝門(カツモン)。

平田 これも勝門(カツト)だろう。繁昌 文字が先にあって、それをどのように読むかとなって、読み違えるのかと思うのですけど。

下水流(6)：勝門(カツモン)とあります。西ノ丸(ニシノマル)・鎮ノ丸(ジンノマル)・屋敷迫(ヤシキサコ)・桜田屋敷(サクラタヤシキ)。これは七高跡(ヒコウアト)と振り仮名を振っています。確実に「シチコウ」なんでしょうけど。

七高については、1945年(昭和20年)鹿児島から高尾野の第二航空隊跡に移転したと郷土誌に書いてあります。そして1949年(昭和24年)第七高等学校跡から柴引青年学校跡に中学校が移転しています。結構新しい時代の

字名になるのかなと思います。

唐笠木・江内の方は城郭・集落地名はありませんでした。合計25です。

条里・土地区画地名。最初はないと思っていましたが平田先生から指摘されました。柴引の七ツ割(ナツガリ)、大久保のロノ坪(チツウボ)。この「坪」が条里に関係があるかどうかというの、どうですかね。江内に縦割(タテリ)と十九割(シユウキュウガリ)。あとで「割」ということについて平田先生から説明して貰えればと思います。(後記:国分市の小村干拓地に二割目・三割目・四割目などの地名が付けてある。区割りに由来する呼び名だろう)。

4. 市・町・交通地名(43)。柴引(6):町口(マチグチ)・出口(デグチ)・加治屋町(カジヤウチ)・本町(モトマチ)・砂入道(サリドウ)・鳥越(トリヨエ)。市・町・交通地名では「町」に関すること「道路」に関するものとに分けられます。前半が「市・町」後半が「道路」に関する地名です。大久保(8):東町(ヒガシマチ)・町口(マチグチ)。車道(クルマヂ)と読みます。これは後で説明したいと思います。出道(ダシヂ)・本町(モトマチ)・上村(ウエムラ)・今村(イマムラ)・上使道(カミシヅカ)。

平田 上使道(ショウシヅカ)。

繁昌 そうですね。後でちょっと説明したいと思うのですけど。これは国道3号線です(地図を指しながら説明)。此処に国道3号線が通っています。高尾野駅前の大きな道路で、出水から野田へ通じる、わりと真っ直ぐなあります。俗に「並木街道(ハミカドウ)」と言われています。そしてこちらの方から上使道という米之津の方に抜ける道があったようです。

下高尾野(7);下村(シモムラ)・出口(デグチ)・

道添(ミツ'エ)・石坂(イザ'カ)・鈴見町(スズ'ミチ)・内村(ナムラ)。滑坂(スベリサカ)と読んでいますが、スペリサカだとおもうのですけど。

上水流(5):出口(デグチ)・小路(ショウジ)・中ノ道(カハヂ)・底水道(テイシドウ)。「水」に関係があるのか「道」なのかと迷いました。そして石橋(イハシ)。水道が特に敷設されることはないでしょうから、道だろうと思って「底水道」は交通地名に入れてあります。

下水流(7):浜道(アマヂ)・道荒(ミチアライ)と読みます。「アラシ」じゃなくて。石橋(イハシ)・藏道(クラヂ)・掛越(カコ'シ)・三文路(サンモンジ)・道添(ミツ'エ)。「サンモンジ」は普通は「三文字(サンモジ)」ですが、これは路が書いてあります。

唐笠木(4):出口(デグチ)・中村(ナムラ)・集落地名へ入れた方がよい)・大通(オホ'オリ)・出し道(ダシヂ)。大久保の出シ道は片仮名、こちらは平仮名を使っています。

江内(6):南町(ミナミマチ)・馬溜(マドメ)と書いてあります。今村(イマムラ)・新海道(シンカドウ)・古外戸(ワカド)・外戸口(ケトグチ)と書いてあります。

平田 外戸口(ケトグチ)だろうね。

繁昌 5. 水利地名(13)。柴引(2):樋掛(ヒガケ)・大樋口(オホ'オリ)。樋(ヒ)は「水を遠い所に送る管」とありますから、高尾野町全体が高い部分は扇状地になりますので上方から水を送ったのかなと思っています。大樋口というのはその取入口になるのかなと思います。

大久保(5):桑木流(クヰカガレ)・樋掛(ヒガケ)・井手の角(イエ'ノヌミ)・井手ノ口(イエ'ノグチ)・山川(ヤマカリ)。井手というのは「井堰(イセキ)・洗堰(アライセキ):川の水を堰き止めてある所」。

今の子供たちに「井堰」とか言っても判らないのじゃないかと思いますが、井手はそういうものです。

下高尾野(2):古溜(フルタメ)・井手原(イエ'ハラ)・上水流(2):樋口(ヒグチ)・捨溝(スベミツ)。多分水が落ちる所なんですかね。判りません。

下水流(1):西池(ニシケ)。唐笠木になくて江内(1):新溝(シンコウ)と読みます。

6. 人名地名(9)。柴引(2):孫宗(マコ'ムネ)・源六(ゲンロク)。大久保(2):五兵衛山(ゴヘイヤマ)

・清王岡(キヨオカ)とルビが振ってありました。下高尾野(3):覚珍(カクチン)、これが人名なのかどうか判りませんでした。多分人名だろうということで処理しました。火之丸(ヒマツ)、上水流は「火の丸」と平仮名を使ってあります。最初「城の丸」地名:かなと思ったのですが、平田先生から人名の方がいいのじゃないかということでした。

上水流(2):大助橋(ダスケハシ)・火の丸。下水流と唐笠木になくて江内(1):木屋太郎(コヤタロ)。こういう人の名前があったかどうかはちょっと判りませんが、この中に入れてあります。

7. 開発地名(20)。柴引(3):寺園(テラゾ'ノ)・道下上原(ミシタケハラ)・今堀(イマボ'リ)。上原は「原」を重くみて別のジャンルに入れた方がよかったですかな、と思いますけど。大久保(1):道添(ミツ'エ)。道路地名に入れてあるものがありましたので、どちらかに揃えた方がいいのではと思ったりします。因みに「添」は大漢和辞典で調べると、「飯の菜・添え物・傍ら・脇」ということですから、道の傍ら・脇という意味だらうと思います。そうすると、道の傍らを開発した所ということで、開発地名でいいのかなと思ったりしています。

下高尾野(7):寺園(テラゾ'ノ)・中園(カガ'ノ)・馬場園(ハバゾ'ノ)・市園(シゾ'ノ)・南郷堀(ナシヨウホ'リ)・桜堀(サクラホ'リ)・建具堀(タケグホ'リ)

としましたが、桜堀にしても目印になるから目印地名の方がいいのじゃないか、建具堀は職掌・産業地名の方がいいのじゃないかと。どうもこの辺は分類する時に迷う所ですけども、最終的には此处に入れました。

上水流(3):屋根添(ヤネ'エ)・榎園丸(エノキゾ'ノ)・柳別府(ヤナギ'ペツブ)。

下水流(3):屋根添(ヤネ'エ)。ソエとゾエ、清音と濁音と二つあるようです。軸園(シユクゾ'ノ)。普通は「シグゾ'ノ」だと思うのですが「シユクゾ'ノ」とルビが振ってあります。軸というのは「車の心棒。それから枢要の地・筆の軸・筆管。茎」と書いてありますけど、どの意味になるのか判りません。それから大開(オヒラキ)。

唐笠木(3):外園(オカゾ'ノ)・宮園(ミヤゾ'ノ)・寺園(テラゾ'ノ)。江内にはありません。

8. 田畠地名(69)に移ります。柴引(10):三斗蒔(サントマキ)と読みあります。1斗というのが1石の1/10ですから10升、約18%。それくらいを蒔く田圃・畠なのかなと思います。大永田(オオカタ)・柳田(ヤエタ)・芋畠(イモバタケ)・迫田(オカタ)・平田(ヒラタ)・榎田(エノキタ)・屋敷田(ヤシキタ)・後田(アタタ)・普通は「ウシタ」だろうと思うのですが、これは「アタタ」になっています。

平田 それは間違いでしょう。「アタタ」ではなくて「ウシタ」が正しい。前(マエ)・後(アト)は時間の差です。

繁昌 場所じゃなくて時間ですね。平八重(ヒラ'エ:これは開墾地名)。大久保(10):新田(シンテン)・原畠(ハラハタ)・畠田(ハタタ)・麦田

(ギタ)・寺田(テラタ)・柿田(カキタ)・平田(ヒラタ)

五反田(ゴンタタ)・山ノ田(ヤマタ)・太田(オオタ)

下高尾野(8)：東畑(ヒガシバタ)・久保畑(クボタ)

・宮田(ミヤタ)・柳田(ヤナギタ)・芥田(アケタ)。

芥というの「ゴミ・塵・くず」ということ

ですから「下の下の田圃」という意味かな、

と思っています。前田(マエタ)・千束田(センツク

タ)・池田(イケタ)。

上水流(12)：壱町田と書いてありますが、

壱町畠(イッショウハタケ)のミスです。番城田(バン

ジヨウタ)。「番」が判らなかったので辞書を

引くと「城番(シロバン)：城に詰めて守護に当

たる兵士」、それから「陣立て隊列の序列」

または「順番を決めて行うこと：代わりばん

こ」というふうなのがありました、「番」

というのがちょっと判りません。

平田 番匠(バンショウ)は大工(ダ・イ)のこと。

繁昌 ああそうですか。はい、ありがとうございます。

それから丁後田(チヨウコタ)。丁も判りませんでした。

掘田(ホリタ)・城ノ上田(シロノウエタ)

焼山(ヤカシヤマ)というのがありますが、民俗学的に言え

ば焼畑をする山かなと思っているのですが、

もしそうであれば火田(カゲン)・焼畑(ヤイバタ)

・焼畑(ヤイバタ)などがあります。場所的には

どうなのかなと思います。そんなに山の方で

はなかったようです。

平田 「焼山」という地名は多いよ。

繁昌 多いですかね。それから前畠(マエハタ)

・前田(マエタ)・永田(カガタ)・新田(シンテイ)。

下水流(14)：永田(カガタ)・寺田(テラタ)・浜

畠(ハマハタ)・新田(シンテイ)・日焼田(ヒヤタ)。

日焼は「雨が降らないため、田・池・井戸など

の水が涸れること、また日照りで草木が枯れ

ること」と書いてありました。だから雨が降

らなくなると涸れてしまう田圃という意味な
のかなと思っています。それから酒屋田(サカヤ
タ)・峠畠(トウケハタケ)・車田(クリマタ)。車田は
円形に作る田圃というふうに出ていました。
現地がどうなのか判りません。桜畠(サクラハタ
ケ)・加世田(カセタ)・畠田(ハタタ)・南田(ミミ
タ)・荒田(アラタ)。

唐笠木(4)：徳田(トクタ)・和田(ワタ)・迫田
(オカタ)・永田(カガタ)。

江内(11)：戸田(トダ)・三町塘(サンショウトモ)
塘は「堤・池・溜池」のことですから、これ
は水利地名に入れた方がよかったですと思って
いますが、どうですかね。

平田 その方がいいかもね。

繁昌 三町塘は後で水利地名に移します。
それから八反田(ハッタタ)・平田(ヒラタ)・板地
田(イタタ)。これは動物のイタチかなと。

平田 そうでしょう。目印地名。

繁昌 はい。丸畠(マルハタ)・東畠(ヒガシバタ)
油田(ヨタ)、「アツラタ」じゃなくて「ヨタ」と
書いてあります。

平田 油田(アツラテン・アツラタ)でしょうね

繁昌 油をとる田圃です。

平田 「油」の費用を捻出する田圃とい
うこと。(後記：一種の祭礼田であり、信仰地
名に入れた方がよい)。

繁昌 畑田(ハタタ)・外畠(ソトハタケ)・平畠
(ヒラハタケ)。田圃とか畠が結構多く、地域的に
分かれています。北側の水田地域と、南側
の山から畠にかけての地域というような形で
分けられるようです。

9. 職掌・産業地名(16)。柴引(5)：国料(コ
リヨウ)。これでよかったですのか判りませんけど、
領とすると「国司が管轄した土地」と書いて
あります。文字の違いでどうなるのか。料は

「〇〇の取り分」という意味、「お金」の意
味でしょうから、これでいいのかなと思っ
たりします。井料(イヨウ)、これは水利地名にな
ると思います。柴引(シバヒキ)・馬子せ場(マコセ
バ)、馬子は“馬子にも衣装”というように
「馬方・馬の口取り」。(後記：此処の説明
はよく判らない。意味不明)。段平木場(タン
ヒラコバ)。

大久保(6)：砂取(スナトリ)・狩集(カリアツマリ)・
小豆野(アズキノ)・柴山(シバヤマ)・内木場(ウチコ
バ)・平木場(ヒラコバ)。

下高尾野(3)：国料(コクリヨウ)・坪屋(ツボヤ)。
この坪屋が「坪」なのか、やきものの「壺」
なのか。

平田 高尾野焼というのがあったから壺屋
の方だろうな。

繁昌 それから木場(コバ)。上水流と唐笠
木にはないようです。下水流(1)は名護崎(ナ
ゴザキ)。「コバ」というのが・・・。

平田 名子(ナガ)は漁師たちのこと。

繁昌 はい。江内(1)は馬込(マコメ)。これ
までは1桁・2桁だったのですけど、10.位
置地名は231に及びます。上中下・東西南北
とか前・後。そういうふうに考えると多く
なるのかなと思ってるので。柴引に43
あります。上小路(カミヨウジ)：交通地名の方
がよい)・田ノ下(タシタ)・上ノ川(カエノカリ)・中
野(カホ)・上大野(カミオノ)・東大野(ヒガシオノ)・
中大野(カオノ)・西大野(ニシオノ)・宮ノ下(ミ
ヤノシタ)：信仰地名へ)・下小路(シモヨウジ)：交
通地名へ)・横馬場(ヨコハバ)：交通地名へ)・中
馬場(カバハバ)：交通地名へ)・上馬場(カヒハ
バ)：交通地名へ)・西前原(ニシマエハラ)・下前原
(シモマエハラ)・上前原(カミマエハラ)・萩尾(ハキオ)
：目印地名へ)・下ノ松山(シモノマツヤマ)・下後山

(シモアトヤマ?)・中ノ松山(カノマツヤマ)・上ノ松山(カ
ミノマツヤマ)・中迫(カカコ)・上砂取(カミナトリ)：産業
地名へ)・西馬場(ニシハバ)・後の迫(アトカコ?)
・狐ヶ尾(キツヌイ)：目印地名へ)・上狐ヶ尾
(カミキツヌイ)・西迫(ニシカコ)・東迫(ヒガシカコ)・西
今堀(ニシイマボリ)・東垂(ヒガシシレ)。垂(タレ)が判
らなかったのですけど。上垂(カミタレ)・下垂(シ
モタレ)。上島(カミハタ)・山下(ヤマシタ)・東馬場(ヒ
ガシバハ)：交通地名へ)・西野中(ニシナカ)・東
野中(ヒガシナカ)・下本町(シモモトチ)・西小陳(ニシ
ショウシン)・ニショウシン：城郭地名へ)・中屋敷(カナ
シキ)。

大久保(64)：川ノ上(カワノウエ)・上前田(カミマエ
タ)・下前田(シモマエタ)・下ノ畠(シモハタ)・上ノ
原(カエハラ)・小陳ノ下(コシソノシタ)：城郭地名へ)
それから下終迫(シモキサコ)。終(クヌギ)と書い
て高尾野町では「フキ」と読むようです。また
終(ヒイロキ)なのか終(クヌギ)なのか。杉山ノ下
(スキヤマノシタ)・西焼山(ニシヤキヤマ)・東燒山(ヒガシ
ヤキヤマ)・東道上(ヒガシミチウエ)・丸岡ノ上(マルオカ
ウエ)・西道上(ニシミチウエ)・道下(ミシタ)・丸岡ノ
下(マルオカシタ)・中原(カハラ)・東原(ヒガシハラ)・
溝上(ミヅウエ)：水利地名へ)・中畠(カハタ)・甚
か下(シングサシ)：人名地名?)・上使道口(カミシド
ウチ)とルビが振っています。

平田 上使道口(シヨウシミチグチ)。

繁昌 はい。松下(マツシタ)・中島(ナカシマ)・
中岡(カガカ)・柿ノ元(カキノモト)・岡ノ下(オカシタ)
・並松ノ下(ナミマツシタ)：交通地名へ)・橋ノ元
(ハシノモト)：交通地名へ)・射場下(イバシタ)・射
場西(イバニシ)・出シ道下(ダシバシタ)と振ってあ
ります。柿田ノ上(カキタウエ)・溝西(ミヅニシ)・
橋ノ上(ハシノウエ)・射場後(イバアト?)・杉山ノ東
(スキヤマヒガシ)・杉山ノ上(スキヤマウエ)・出シ道
東(ダシミチヒガシ)・柿内ノ下(カキチノシタ)・松山西

(マツヤマニシ)・砂取山ノ西(スナトリヤマノニシ)・上使道ノ上(ショウシミチノウエ)・橋口(ハシグチ:交通地名)坂下(サカシタ)・山下(ヤマシタ)・鎮守元(チンジュモト)・上松ヶ野(カミツガノ)・西松ヶ野(ニシマツガノ)・下東原(シモヒガシハラ)・黒木ノ元(クロキノモト)。黒木という木があるのかなと思って調べたら何のことではない、「皮を剥いでない木、皮を削らない材木、皮付き丸太」。

平田 黒木という木があるんだよ。

繁昌 あゝ。そうすると、どっちになるのか判りません。それから下段(シモタソ)・西高野(ニシカノ)・野中(ノカ)・上小豆野(カミズキ)・池ノ尾(イケノオ)・中尾(カオ)・下中尾(シモカオ)・西段(セイタソ)と書いてあります。上柴山(カミシバヤマ)・内長野(ウチカガノ)・中山(ナカヤマ)・西大久保(ニシオカボ)。

下高尾野(13):道下(ミシタ)・道上(ミチエ)・西小陳(ニシヨウシン)とルビが振ってあります。上石坂(カミシザカ)・竹下(タケシタ)。樋之口(ヒノグチ?)は水利の方かなと思います。山口(ヤマグチ)・後平(アヒラ)。

平田 後平(ウシロヒラ)だろう。

繁昌 「ウシロヒラ」ですかね。野元(ノモト)・谷口(タニグチ)。

上水流(18):万田脇(マンタワキ)・供養元(クヨウゲン)とあります。

平田 それは供養元(クヨウモト)。

繁昌 供養元(クヨウモト)でしょうね。中大野(カオ)・伊豆前(イズマエ)・宮後(ミヤウシロ)・下大野(シモオ)・道下(ミシタ)・大助前(タイスクマエ)大助を人の名前とすると、人名地名の方がいいかなと思います。前後が付いたのでこちらに入れました。落ノ上(オシノウエ)。

平田 落ノ上(オシノウエ)だろう。

繁昌 落(オシ)ですよね。中溝下(カミゾシタ)

・下ノ原(シモハラ)・橋ノ下(ハシシタ)・井ノ上(イノエ)・下川原(シモカワハラ)・塚中(ツカカ)・宮ノ下(ミヤシタ)・崩本(クズモト)。

平田 「クエモト」か「クズレモト」。

繁昌 「崩(クエ)」系だと思うのですけど。それから井手元(イデモト)。

下水流(35):中境元(カキヨモト)とあります。

平田 境元(カキモト)でしょう。

繁昌 西深田(ニシカタ)というのが・・・

平田 文字通り深い田圃のことでしょう。

繁昌 ですね。田之神前(タノガミマエ)・橋口(ハシグチ)・西浜道(ニシハマミチ)・中浜道(カハマミチ)・東下山(ヒカシシモヤマ)・井手下(イテシタ)・東塩入(ヒガシオイリ)・東永城(ヒガシカガシロ)・中永城(カナガシロ)・西永城(ニシカガシロ)・西雉子山(ニシキシヤマ)・中雉子山(カキシヤマ)・東雉子山(ヒガシキシヤマ)・上永城(カミカガシロ)・石橋下(イシバシシタ)・石橋上(イシバシウエ)・東溝上(ヒガシミヅウエ)・東加世田(ヒガシカセタ)・南黒木迫(ミクロキサコ)・中水溝下(カミスミヅシタ)・中大野(カオ)・西大野(ニシオ)。嘉六ヶ下(キロカシタ)とルビが振ってあります、これは嘉六(カロ)。

平田 嘉六(カロ)だろう。

繁昌 だろうと思います。下ノ原(シモハラ)・加世田前(カセタマエ)・中出口(カゲタグチ)・西出口(ニシテグチ)・墓前(ハカマエ)・道上(ミチエ)・中ノ丸(カノマル)・東干拓(ヒガシカンタク)。

唐笠木(10):宮ノ下(ミヤシタ)・八幡下(ヤハタシタ?)・下川原(シモカワハラ)・下ノ原(シモハラ)・八幡ノ前(ヤハタノマエ?)・城ノ上(ショウノウエ)・横馬場(ヨハバ)・西の角(ニシノミ)・松ノ元(マツノモト)・諫訪下(スシタ)。

江内(48):松ノ下(マツシタ)・木ノ下(キノシタ)・尾崎(オサキ)・山野口(ヤマノグチ?)・上冷筋(ミヒヤシ)・下冷筋(シモヒヤシ)・下段(シモタソ)・上

段(カミタソ)・道下(ミシタ)・北平(キタヒラ)・南堤(ミナミドテ)

平田 堤(トテ)?

繁昌 「堤:どて・つつみ・堤防」と書いてありますけど、普通は「土手」と書くと思うのです。それから中溝(カミゾ)・川脇(カワゼ)・下町(シモマチ)・中町(カマチ)・上町(カミマチ)これは「町」が付くから集落地名の方かなと思ったのですけど、上・中・下を入れてあるのでこちらに入れました。塘内(トモチ)「塘」はさっき言った「堤・池・溜池のこと」ですから、これも水利地名の方がいいかなと思うたりしますけど。それから中道(カミヂ)・大迫尻(オオオシリ)・道上(ミチエ)・池ノ下(イケシタ)・小牟礼下(コムレシモ)・小島前(コジマエ)・上ノ原(ウエノハラ)というように、さっと見た感じでは上中下・東西南北、そういうものが多かったもんですから、これを強調させようと思って「町」とか「塘」などは別の所に当てはまるのだけど、そういうのを集めたのでちょっと数が多くなったような気がします。これで良かったのかどうか判りませんけど、兎に角これを強調したかったものですからこのように分けてあります。

11. 伝承地名はありません。12. 瑞祥地名は一応二つ考えました。下高尾野の徳光(トクミツ)徳が光るということで、そうしたのですが。先生の方は?

平田 徳光(トクコ)だ。

繁昌 はい、方言のフクロウだそうです。

上水流の持留(モトメ)。これでいいのかなと思いますけど。(後記:持留地は薩摩藩独特的の武士たちの開墾地。藩の許可を得て自費で開墾し、その所有地としたもの。天明4年以降は拘地(かけち)と呼ばれる。溝下見掛も

同類の開墾地。その他に山野・大山野・仕明など百姓の開墾地もある)。

13. 意味不明。区分けした中にもあるのですが、入れてありません。柴引(15):佐敷(サキ)・冷待(ヒヤチ)・遠矢(トオヤ)・試ノ内(タメガチ)・日添(ヒツエ)。

大久保(1):根切(ネギリ)。根切は「柱などを立てる時その下部の地面に穴を掘ること、また掘った穴」と書いてあります。その意味で正しいのかどうか、ちょっと判りません。

下高尾野(6):立聞(タキキ)・又界(マカイ)・空待(ソラマチ)・垂(タレ)・武本(タケモト)。武本というのは出水市の大字にもありますが、判りません。立添山(タツエヤマ)。

下水流(1):洗切(アラカリ)とあります。

唐笠木(1):小幡(コバタ)。これは小さな幡でいいのかなと思っているのですが。犬地(イチ)・土部(トベ)。これは「トブ」のことかなと思ったりします。松ヶ角(マツガスミ)。

江内(11):木牟礼(キムレ)。先程話題になりました木牟礼城がありました。木牟礼というのは結局何なんだろう。七ツ掛(ナツガケ)・古塘(コトモ)。古塘(フルモ)かも知れません。小牟礼(コムレ)・小股(コマタ)・脇塘(ワキモ)・犬待(イヌマチ)・木串(コシ)・大川内(オカワチ)。川内(カワチ)という地名によるのかなと思うのですが、宇都川内(ウトカワチ)も含めてですね。それから雨掛(アマガケ)。

14. 争論地名。大久保に論山(ロサン)ノウエ)

平田 論山(ロヤマ)だろうな。

繁昌 論地(ロジ)とか論迫(ロサコ)などがあるので「ロヤマ」がよいような気がします。

20. 景観地名。この景観地名と22. 目印地名は分類でどっちがどっちかなというのが判りませんでした。柴引(18):鶴田山(ツルタヤマ)・

森山(モリヤマ)・中山(カヤマ)・大谷(オタニ)・八久保(ヤクボ?)・木場段(コハタソ). 木場というのは「山で木を伐ったり木を集めておく山間の平地という意味あり」。永迫(ナガサコ)・伊良ヶ迫(イラガサコ). 伊良というのがイラクサ、全体に棘のような毛があるイラクサ科の多年草が生えている所かなと思ったのですけど。タラン段(タランソ)というのは「櫛(ケラ)の木」かなと思います。米山(ヨネヤマ)・乙木ノ段(オツキノタソ). これは意味が判りません。西迫(ニシサコ)・吹ヶ迫(フキガサコ). 「フキ」というのが、柊(ヒライギ)なのか柊(クスキ)なのか、それとも蕗(ヰ)なのか、どれか判りません。比久尼谷(ヒケニタソ).

平田 比丘尼(ヒクニ)だよ。

繁昌 はあ、読みはこう書いてあります。永尾(ナガオ)・鈴小原(スズコハラ)・松原(マツハラ)・後原(アトハラ?).

大久保(31)：道下段(ミケタソ)?・千間山(センケンヤマ)・山ノ奥(ヤマノオク)・番手山(バンテヤマ)・山添(ヤマツエ)・大迫(オサコ)・岡迫(オカサコ)・溜平(トメヒラ)と書いてあります。「トメヒラ」なのか

平田 溜(クメ)、または「タマリヒラ」だろう。

繁昌 竹添(タケツエ)・久保(クボ)・松ヶ野(マツガホ)・東段(アズマタソ)?・高野(タカノ)・檜川(ヒカリ)・不毛迫(フケサコ). 「フケ」というのは「深田：泥の深い田圃」という意味が書いてありますが、それが当たるかどうか、判りません。野平(ハヒラ)・田平(タヒラ)・白木迫(シラキサコ)・カラム迫。此處は既に調査された遺跡があるので。カラム迫というのは普通は蛇口とかを考えるのですが、禍乱騒動とか、伽藍：多くの僧侶が住んで修行する場所・寺のこととか、いろんなのがありましたけど、片仮名で書いてあるので決定出来ませんでした。不毛段(フケタソ)・堤迫(トテサコ)、堤はやっぱり「トテ」と

読んでいます。柳ヶ迫(ヤガサコ)・倉谷(クラニ)・高棚(タカナ). 柿木原(カキハラ)と読んでいます。大野原(オノハラ)・萩原(ハキワラ)・松ヶ野原(マツガノハラ)・大久保原(オカボハラ)・築原(ヤバル). 築というのは、魚を捕る仕掛けの場所だと思うのですが。

下高尾野(24)：大迫(オサコ)・船迫(フサコ)・丸尾(マルオ)・本迫(モトサコ)・火ノ迫(ヒサコ)・白見迫(シロミサコ)・長尾(ナガオ)・野添(ノゾエ)・宇迫(ウサコ)・長迫(ナガサコ)・北迫(キタサコ)・後迫(アトサコ?)・石原谷(イシハラタソ). 「タソ」と書いてあります。千石谷(センコクタソ)・焼山(ヤキヤマ)・石切迫(イシキリサコ)。一八重野(イハチシゲノ)、これは判りません。轟平(トロヒビラ)・大平(オオヒラ)

・喰原(ハヒラ)と書いてあります。「喰(ハミ)」は馬・牛・鳥などの食べ物は喰むという表現を使いますが、それかなと思います。上原(ウエハラ)・楠原(クスハラ)・砂原(スハラ)・段の原(タンハラ).

上水流(3)：野付(ノツキ)・松原(マツハラ)・星原(ホシリラ)と書いてあります。

下水流(6)：御前迫(オマエサコ?)・下山(シモヤマ)・大野塙入(オノシオイ)・ボヤ迫(ボヤサコ)・新田山(ニッタヤマ)・屋敷原(ヤシキハラ).

唐笠木(2)：園山(ソノヤマ)・狐ヶ尾(キツヌガオ)江内(32)：堤迫(トテサコ)・飯森(イモリ)・大迫(オサコ)・夏ヶ迫(ナツガサコ)・荒崎(アラキ)・荒崎山(アラキヤマ)・小牟礼山(コムレヤマ)・表迫(オモテサコ)・永良ヶ迫(カガラガサコ?)・畦浦(アゼウラ)・瓦ヶ迫(カワラガサコ)・小迫(オサコ)・野添(ノゾエ)・倉谷(クラヤ?)・連尺野(レンシヤク?)・寺獄尾(テラコクビ?)と書いてあります。肥後谷(ヒコタニ)・鈴ヶ迫(スズガサコ)・増谷(マスクニ)・横浜(ヨコハマ)・池ノ山(イケノヤマ)・宇部迫(ウツサコ)とあります、これは漢字の間違いじゃないかと思いま

ます。

平田 漢字(宇都迫)の間違いだろうね。
(後記：宇部迫・ウベサコの間違いもあり得る)
繁昌 米ノ山(ヨネヤマ)・宇都平(ウチビラ)・山野(ヤマ?)・姥ヶ崎(ウバガサキ)・川内迫(カワチサコ)・知地山(トモチヤマ).

平田 「チシヤマ」じゃないの。県知事の。

繁昌 あゝ、はい。轟山(トロヒビヤマ)・小山(コヤマ)・小島原(コジマハラ)・戸田原(トダハラ).

21. 形状地名。大久保(4)：曲迫(マガリサコ)・丸岡(マルオ)・三角(ミスミ)・坊主岡(ボウスオカ).

まるいのを考えて坊主岡を入れました。

下高尾野(4)：曲迫(マガリサコ)・宇都(ウト)・ウロ状になっているかなと思って、これを入れました。平山(ヒラヤマ)・笠山(カサヤマ).

下水流(3)：三角(ミスミ)・鍋山(ハベヤマ)・川曲(カワマカリ).

江内(2)：三ヶ月(ミカヅキ)・打塞(ウチフサギ).

22. 目印地名(58). 柴引(6)：榎山(ハシヤマ)・七本榎(ナホンバン)と書いてあります。「ハシ」なのか。

平田 榎(ハシ)だろうね.

繁昌 尾塙(オツカ)・小塙(コツカ)・岩塙(イワツカ)・生甫ヶ元(ショウブガモト).

大久保(11)：小塙(コツカ)・岩塙(イワツカ)・塙(ツカモト)・柿木丸(カキマル)・砂取山(スドリヤマ)・出水境(イズミサカイ)・樅子山(カシヤマ)・梅木林(ウメキバヤシ)・柊迫(ヰサコ)・春木(ハルキ)・楠木丸(クスノキマル).

下高尾野(5)：植松(ウエマツ)・高松(タカマツ)・榎ヶ谷(ハシガヤ?)・大崩(オオクレ：崩壊地名)

・一本松(イチボンマツ).

上水流(3)：松ヶ迫(マツガサコ)・槐木丸(カキマル)と書いてあります。崩掛(クズカケ：崩壊地名)

下水流(3)：柿木丸(カキマル)・タブノキなん

ですかね。

平田 柿木丸(カキマル)だよね.

繁昌 竹ノ内(タケノウチ)・一ノ谷(イノタニ)・アザミ原(アザミハラ)・浜松(ハマツ)・黒木迫(クキサコ)・鶴見岳(ツルミタケ)・五本松(ゴホンマツ).

唐笠木(2)：楠木丸(クスノキマル)・笠掛(カサカケ) (笠懸に由来するものだろう。伝承地名へ)

江内(23)：摺木(ナキ?)・柴山(シヤマ)・杉ノ迫(スギノサコ)・松元(マツモト)・老松(オイマツ)・小島(コシマ)・高岡(タカオカ)・芹見(アシミ?)・蔓山(カガヤマ). 蔓(ヘコ)だと思うのですけど。

平田 蔓山(ヘコヤマ)か蔓山(オロヤマ)か、どちらでしょう。

繁昌 高棚(タカナ)・鶴出山(ツルヒヤマ)・五本松(ゴホンマツ)・赤岩(アカイリ)・巒石(クツワシ)・泊(トマリ：交通地名)・涼松(リョウマツ). 「ススミマツ」かな。

平田 それは涼松(ススミマツ).

繁昌 椎山(シイヤマ)・尾ノ嶋(オノシマ)・柳ヶ森(ヤカモリ)・白石(シライシ)・知車木段(チヤキタソ)

平田 それは「チヤキ」.

繁昌 チヤキノキは「ムラサキ科の落葉高木で高さ10メートルぐらい。幹も葉も柿に似るので、カキノキダマシという名前もあるようですね」。桂ヶ平(カツラガヒラ)・下り松(カガリマツ).

23. 川原・湿地地名。柴引(5)：川原(カワハラ)・平牟田(ヒラムタ)・中須(ナカス)・高洲(タカス)・松木川(マツキガリ).

大久保(6)：古川(フルカリ)・小牟田(コムタ)・川窪(カワカボ)・川頭(カワカシラ)・大久保(オカボ)・中須(ナカス).

下高尾野(5)：平牟田(ヒラムタ)・犬渕(イヌブチ)・泥川(トロカリ)・楠木川(クスノキガリ)・鉢取川(ナトリガリ).

上水流(4)：川原(カワハラ)・除川(ヨケガリ)・

水無川原(ミカワハラ)・渕元(フチモト)。

下水流(10)：植松川原(ケマツカワハラ)・焼良渕(ヤキラフチ)・川原(カワハラ)・尾崎川原(オサキカワハラ)天神川原(テンジンカワハラ)・蛇渕(ヘビフチ?)大落(オオラク)と書いてあります。川久保(カワクボ)・窪(クボ)。

唐笠木(3)：川原(カワハラ)・小伏川原(コフシカワハラ)・平牟田(ヒラムタ)。

江内(9)：川骨(カリボネ)。これは多分コウボネだろうと思ってこちらに入れました。氷川(ヒカリ)・渕上(フチガミ)・三流(ミヅル)・矢野瀬(ヤセ)・柳ヶ水(ヤカミズ)・浦窪(ウラクボ)・山仁田(ヤマニタ)・仁田岡(ニタガ)。

24. 浸食崩壊地名。大久保・唐笠木にどちらも水洗(ミタライ)。

25. 気象地名。大久保(1)：石露(イツ'ユ)、上水流(1)：早霜(ハヤシモ)、と一応あげてみました。

時間がないのでさっとまとめをして、その後コメントを頂きたいと思います。2枚綴りの方にまとめたのがあります。地名分類表で一番多いのが◎黒の二重丸、その次に多いのが◎二重丸、全くないのがゼロで付けてありません。1~2という少ないものが◇菱形で書いてあります。そうすると一目瞭然。位置地名が多いということ。次に田畠地名が多いのがお判りだと思います。高尾野町の小字数は754。以前取り上げた野田町に比較すると近隣地域であっても小字数は大きく異なっています。それから小字数は大字によって最少は唐笠木の40字、最多は大久保の164字です。大字によって小字数の差が大きい。

特徴は位置地名が格段に多く、3割程度にも及びます。本来あった小字が、人口の増加とか小字の範囲を分けしたことから、上・

中・下、前・後などという呼称が付いたのではないかと思っています。

皆さんには配ってないのですが、この字総図も貰いました。これに基づいて簡単に説明します。例えば、此處に車道(クルマチ)という地名があります。「車道」は昔の官道の跡だと言われています。こちらの方を通るのが本来の道であったとする方がいらっしゃるのですが、実際この並木街道という道の両側が小字名が全然違っているので、これが本来の昔からの道ではなかったかな、と思っています。その証拠に鉄道が出来た所は、二つに分かれた同じ小字が続きます。こちらの方では上・下に、例えば道下(ミシク)・道上(ミチカエ)というふうに「道」が基準になって上と下とに分かれています。だから、それが本来の官道ではないのかな、と言うふうに思いました。以上です。どうも有難うございました。

〔質疑応答〕

上使道(ショウシチ)

平田 この地図を出して下さい。地図で見ましょう。此處で道が急角度に曲がります。曲がっている所に「上り立(アカリタテ)」とあります。列車の上からすぐ近くに見えます。鹿児島本線と併行している道が見えます。上り立の所から北の方に真っ直ぐ行く道があります。これが「上使道」です。江戸時代に幕府の巡見使を通した道です。これが海軍航空隊の所に真っ直ぐ行っていたのですが、戦時中飛行場が出来たために上使道は断ち切られてしまいました。此處(上り立)から真っ直ぐ米ノ津の方に向かって、こちらにある出水籠を見せなかったのです。

車道(クルマチ)と車田(クルマタ)

平田 先程「車道」は少し離れているので

古代の駅路とは離れているのではないかとのことでしたが、地名の移動ということも考えられるわけです。(後記：佐賀県・熊本県の車道が古代官道の復元に役立ったのは聞いているが、高尾野町の車道で古道が論じられたのはまだ聞かない。高尾野町の小字車道から南の方向に横座峠へ向かい高城麓に出る高尾野往還と呼ばれる道があった。それは伊能地図にも記されている。また高城郷の野町には高城駅もあったことが鹿児島県地誌に記されている。ただし高尾野往還を明治の駅馬車が走ったとの記録に接したことはまだない。車道で轍：車輪の痕跡が考古学的に検証されたら、古代の官道の可能性が考えられ、延喜式の高来駅と結びつくことになる)。

それから車田というのが出て来ましたが、これは車状にまるく植えていく田圃、まるく刈っていく田圃です。田植や稻刈を最初に行なった田圃です。それに車田という地名が付きます。

武本(タケモト)・垂(クレ)

繁昌 13. 意味不明地名について、先生のお考えを教えて頂ければと思うのですが。

平田 意味不明の地名は意味不明のものが多いわけです。佐敷(サシキ)は、肥後の佐敷がよく知られていますが、いわゆる座敷・棧敷から来ていると思います。冷待(ヒヤマチ)は判りません。遠矢(トヤ)は遠矢(遠くにある的を弓矢でねらう行事)をやった場所でしょう。試ノ内(タシノウチ)も矢を放った所でしょう。日添(ヒソエ)は何でしょうか。根切(ホリカ)も判りません。武本(タケモト)は岳の麓という意味でしょう。出水の武本も同じだと思います。立添山(タチツイマ)。立(タテ・タチ)は信仰地名に多く付きますが、意味の判らないものが多いよう

です。垂(クレ)は、水が垂れる場所、それから特別に商売を許可した所：野町などで縄暖簾を垂れる所です。垂之口(クレノグチ)とか垂門(クレド)などの地名は結構多い。そのどちらかでしょう。水がしたたり落ちる所と縄ノレンを垂れる所の二通りがあります。

木牟礼・小牟礼。牟礼は古代朝鮮語系統のものでしょうね。「村」と見る考え方が一般的です。古塘(コトモ)じゃなくて「フルモ」でしょうね。

繁昌 川内(カワチ)は川が狭くなった所？

平田 狹くなった所でしょう。大雨が降った時、水が漲って河道となる所、いわゆる川の内になる所。雨掛(アマガケ)は何ですかね。

「掛」地名も信仰地名が多いようです。養掛(ミカケ)とか沓掛(クツカケ)とか。判らないのは無理して解釈しない方がよいでしょう。

繁昌 今回は位置地名が非常に多かったので、先に分けてしまい、それ以外を分類したのですけど、そういうやり方でいいですか。それとも、それは後の作業で、例えば信仰地名とか集落地名とかを先ず分ける方がいいですか。

平田 先ず分ける。その後での方がよいでしょう。

繁昌 はい。

平田 何かありませんか？

納 田畠地名の中で、下水流・上水流に焼山(ヤキヤマ)・焼畑(ヤキハタ)というのがあるのですが、これは焼畑農業をやったという所じゃないでしょうね。

平田 それは判りません。可能性もあるでしょう。

納 焼き払うことで手間を省いて、ソバなどをばら蒔く。何年かして、また他の所へ

移って行く、そういう農法。

平田 その可能性はあるでしょう。焼山(ヤッキヤマ)という地名は多いですよ。日焼田(ヒヤケ)は乾燥する田圃という意味で付けられたのでしょう。

黒木(クヨキ) 「十カリ換地で飯田や黒木の納

木」ちょっと気付いたのが黒木。黒木というのは人の姓で、宮崎県に多いですね。宮崎県からこっちへ移住して来た人たちじやなかろうかと思つたのですよ。

平田 それはあるでしょうね。黒木というの何か特別な呼び名。白木・黒木は、皮を剥いだの剥がないのをいうのじゃなくて、黒木という地名は多いので、そのように呼ばれる木があるのですね。(後記:『草木名彙辞典』には黒木は柵(マキ)・白檜曾(シラビツ)の別称、白木は「ほるとの木」の別称とある)。

日添(ヒザエ)

西田 意味不明のところ、「柴引」に日添とあります。

平田 それは意味が判りません。

西田 これこれはは判らないですか。吹上町にも日添という地名があるのです。

繁昌 出水にもありますね。

西田 あっちこっちにありますね。これは語源的には開発地名ですか?

平田 うーん。よく判りません。

桑水流・底水道・柵木

上野 意味不明の欄、大久保に桑水流(クワヅル)ナガレ)とありますが、桑水流じゃないでしょうか?

平田 文字・読みともに桑水流(クワヅル)の間違いでしょうね。

上野 もともとは桑水流。

平田 桑水流だと思います。その上の先程

問題になった底水道(ヨコストワ)。地面の下に水路を通している所があるんじゃないの? それから、おやつと思ったのは、目印地名: 上水流の真ん中。

繁昌 槐丸(カキマル)とルビがあります。槐は「えんじゅ」のこと。そんな木があるみたい

です。それを槐丸と呼んでいるのか?

平田 これは類例を集めたらいいでしょうね。それから江内の一一番最初のもの、何と読んだ?

繁昌 摺木(けたき)と読んでありました。

平田 摺(けたき)? 摺木(スルキ)とか、そういうのじゃないの?

繁昌 木ヘンであればいいのですけど。確

かルビは摺木(けたき)です。

平田 これは手ヘン?

繁昌 手ヘンで載っています。(後記: 手摺・摺粉木などは手ヘン)

三斗蒔

納 この表の8. 田畠地名。柴引の一番最初に「三斗蒔」と書いてありますね。これは相当広か所ですね。

平田 そうですね。

納 一升蒔とか二升蒔ぐらいしか聞かんもんですから。

平田 三斗蒔は広いでしょう。

納 相当広かなあ。

平田 そのうち一升蒔はどれくらい、五升

蒔はどれくらいと、例を調べて何反歩・何町歩になるか、まとめてもらいましょうね。

それもテーマになるでしょう。

前回、担当を決めましたが、どなたでも。

永坂さん、樋脇あたりを12月に。

永坂 はい。

平田 次回は永坂さんにお願いします。

高尾野町の地名 (その1)

大字		大久保		ゴシック体は明らかな誤読を訂正したもの。	
1	桑水流	くわづる	36	丸岡の下	まるおかのした
2	新田	しんでん	37	中原	なかはら
3	小塚	こつか	38	溝上	みぞうえ
4	川ノ上	かわのうえ	39	番手山	ばんてやま
5	東町	ひがしまち	40	中畠	なかはた
6	上前田	かみまえだ	41	山添	やまそえ
7	下前田	しもまえだ	42	丸岡	まるおか
8	下ノ畠	しものはたけ	43	論山の上	ろんやまのうえ
9	原畠	はらはた	44	上使道	じょうしみち
10	上ノ原	うえのはら	45	三角	みすみ
11	小陣ノ下	こじんのもと	46	甚力下	じんがした
12	畠田	はただ	47	甚力屋敷	じんがやしき
13	曲迫	まがりさこ	48	上使道口	じょうしみちぐち
14	木ノ法	きのぼう	49	小牟田	こむた
15	古川	ふるかわ	50	坊主岡	ぼうずおか
16	麦田	むぎた	51	松下	まつした
17	口ノ坪	くちのつぼ	52	中島	なかしま
18	岩塚	いわづか	53	中岡	なかおか
19	寺田	てらだ	54	柿ノ元	かきのもと
20	樋掛	ひがけ	55	岡ノ下	おかのした
21	柿木原	かきはら	56	柿木丸	かきまる
22	下終迫	しもふきさこ	57	並松ノ下	なみまつのした
23	井手の角	いでのすみ	58	橋ノ元	はしのもと
24	道下段	みちげだん?	59	射場下	いばした
25	五兵衛山	ごへいやま	60	射場西	いばにし
26	杉山ノ下	すぎやまのした	61	出し道下	だしみちした
27	千間山	せんげんやま	62	下樺子山	しもかしやま
28	西焼山	にしやきやま	63	柿田	かきた
29	東焼山	ひがしやきやま	64	柿田ノ上	かきたのうえ
30	東道上	ひがしみちうえ	65	大野原	おおのばら?
31	丸岡の上	まるおかのうえ	66	溝西	みぞにし
32	西道上	にしみちうえ	67	橋の上	はしのうえ
33	塚ノ元	つかのもと	68	射場	いば
34	道下	みちした	69	並松ノ上	なみまつのうえ
35	山の奥	やまのおく	70	射場後	いばうしろ
71	砂取山	すなとりやま	72	砂取	すなとり
73	萩原	はぎわら	74	射場屋敷	いばやしき
75	出水境	いづみざかい	76	杉山ノ東	すぎやまのひがし
77	清王岡	きよおおか	78	大迫	おおさこ
79	杉山ノ上	すぎやまのうえ	80	車道	くるまみち
81	出シ道東	だしみちひがし	82	出シ道	だしみち
83	柿内	かきうち	84	岡迫	おかさこ
85	道添	みちぞえ	86	樺子山	かしやま
87	溜平	とめひら?	88	柿内ノ下	かきうちのもと
89	松山西	まつやまにし	90	上り立の上	あがりたてのうえ
91	砂取山/西	すなとりやまにし	92	上使道/上	じょうしみちのうえ
93	陳ノ平	じんのひら	94	橋口	はしごち
95	矢房	やぶさ	96	坂下	さかした
97	竹添	たけぞえ	98	山下	やました
99	鎮守丸	ちんじゅまる	100	五反田	ごたんだ
101	水洗	みたらい?	102	井手ノ口	いでのくち
103	梅木林	うめきばやし	104	鎮守元	ちんじゅもと
105	山川	やまかわ			

大字 大久保					大字 柴引	
106	松ヶ野原	まつがのはら	143	出原	ではら	1 町口 まちぐち
107	上松ヶ野	かみまつがの	144	堤迫	どてさこ?	2 三斗蒔 さんとまき
108	西松ヶ野	にしまつがの	145	柳ヶ迫	やながさこ	3 鈴小原 すずこはら
109	下東原	しもひがしら	146	倉谷	くらたに	4 田の下 たのした
110	久保	くぼ	147	石露	いしづゆ	5 上ノ川 うえのかわ
111	松ヶ野	まつがの	148	中尾	なかお	6 松原 まつばら
112	東段	ひがしだん	149	下中尾	しもなかお	7 堂前 どうまえ
113	黒木ノ元	くろきのもと	150	西段	せいだん?	8 羽山 はやま
114	大久保原	おおくぼはら	151	上柴山	かみしばやま	9 国料 こくりょう
115	下段	しもだん	152	柴山	しばやま	10 中野 なかの
116	西高野	にしたかの	153	内長野	うちながの	11 樋掛 ひがけ
117	尾立	おだて	154	中山	なかやま	12 上大野 かみおおの
118	山ノ田	やまとた	155	本町	もとまち	13 東大野 ひがしおおの
119	高棚	たかだな	156	上村	うえむら	14 中大野 なかおおの
120	高野	たかの	157	西大久保	にしおおくぼ	15 西大野 にしおおの
121	狩集	かりあつまり	158	楠木丸	くすのきまる	16 井料 いりょう
122	築原	やなばる	159	今村	いまむら	17 大永田 おおながた
123	川窪	かわくぼ	160	中須	なかす	18 柳田 やなぎた
124	野中	のなか				19 宮ノ下 みやのした
125	堂山	どうやま				20 平牟田 ひらむた
126	終迫	ふきさこ				21 寺園 てらぞの
127	小豆野	あずきの				22 柴引 しばひき
128	上小豆野	かみあずきの				23 陳之内 じんのうち
129	檜川	ひかわ				24 下小路 しもしょうじ
130	内木場	うちこば				25 横馬場 よこばば
131	春木	はるき				26 中馬場 なかばば
132	平木場	ひらこば				27 上馬場 かみばば
133	不毛迫	ふけさこ				28 西前原 にしまえばら
134	野平	のひら				29 下前原 しもえべら
135	田平	たひら				30 上前原 かみえべら
136	太田	おおた				31 佐敷 さしき
137	白木迫	しらきざこ				32 萩尾 はぎお
138	池ノ尾	いけのお				33 中須 なかす
139	カラソ迫	からんざこ				34 踊場 おどりば
140	川頭	かわがしら				35 立山 たてやま
141	不毛段	ふけだん				36 後原 あとばら?
142	根切	ねぎり				37 下ノ松山 しものまつやま

大字 案引					
38	諫訪坊	すわぼう	75	東野中	ひがしのなか
39	下後山	しもあとやま?	76	加治屋町	かじやちょう?
40	中ノ松山	なかのまつやま	77	本町	もとまち
41	上ノ松山	かみのまつやま	78	七ツ割	ななつわり
42	道下上原	みちしたうへはら	79	大樋口	おおひぐち
43	花立	はなたて	80	下本町	しももとまち
44	桜山	はしやま	81	下永忠庵	しもえいちゅうあん
45	馬子せ場	まごせば	82	中永忠庵	なかえいちゅうあん
46	中迫	なかさこ	83	上永忠庵	かみえいちゅうあん
47	上砂取	かみすなとり	84	中山	なかやま
48	西馬場	にしばば	85	砂入道	すないりみち
49	東全寺	とうぜんじ	86	小陳	こじん
50	後の迫	あとのかこ?	87	平田	ひらた
51	狐ヶ尾	きつねがお	88	榎田	えのきだ
52	上狐ヶ尾	かみきつねがお	89	屋敷田	やしきだ
53	芋畑	いもばたけ	90	西小陳	にしこじん
54	鶴田山	つるだやま	91	城内	しろうち?
55	高州	たかす	92	遠矢	とおや
56	西迫	にしさこ	93	大谷	おおたに
57	東迫	ひがしさこ	94	八久保	はちくぼ
58	七本桟	ななほんばし	95	木場段	こばだん
59	今堀	いまほり	96	山神	やまがみ
60	西今堀	にしいまほり	97	鳥越	とりごえ
61	上今堀	かみいまほり	98	永迫	ながさこ
62	冷待	ひやまち	99	伊良ヶ迫	いらがさこ
63	東垂	ひがしたれ	100	タラン段	たらんだん
64	上垂	かみたれ	101	試ノ内	ためのうち
65	中垂	なかたれ	102	米山	よねやま
66	下垂	しもたれ	103	後田	うしろだ
67	出口	でぐち	104	中屋敷	なかやしき
68	迫田	さこだ	105	尾塚	おつか
69	上畠	かみばた	106	段平木場	だんひらこば
70	松木川	まつきがわ	107	乙木ノ段	おつきのだん
71	森山	もりやま	108	藤吉山神	ふじよしやまがみ
72	山下	やました	109	孫宗	まごむね
73	東馬場	ひがしばば	110	源六	げんろく
74	西野中	にしのなか	111	生甫ケ元	しょうぶがもと

大字 下高尾野					
1	平牟田	ひらむた	38	石坂	いしさか
2	国料	こくりょう	39	柳田	やなぎだ
3	下村	しもむら	40	喰原	はみはら
4	東畑	ひがしばた	41	空待	そらまち
5	出口	でぐち	42	芥田	あくた?
6	松ヶ角	まつがすみ	43	本城	ほんじょう
7	植松	うえまつ	44	上原	うえはら
8	徳光	とっこう	45	本迫	もとさこ
9	灰塚	はいづか	46	火ノ迫	ひのさこ
10	寺園	てらぞの	47	楠原	くすはら
11	中園	なかぞの	48	道上	みちうえ
12	馬場園	ばばぞの	49	水天原	すいてんばら
13	大迫	おおさこ	50	白見迫	しろみざこ
14	諫訪	すわ	51	曲迫	まがりさこ
15	市園	いちぞの	52	南郷堀	なんごうぼり
16	放光寺	ほうこうじ	53	桜堀	さくらぼり
17	宮脇	みやわき	54	建具堀	たてぐぼり
18	犬渕	いぬぶち	55	垂	たれ
19	立聞	たちぎぎ	56	鈴見町	すずみまち
20	山下	やました	57	西小陳	にしこじん
21	道添	みちぞえ	58	砂原	すなはら
22	久保畠	くぼはた	59	古寺	ふるでら
23	諫訪上	すわかみ	60	長尾	ながお
24	花立	はなたて	61	楠木川	くすのきがわ
25	立野	たての	62	榎ヶ谷	はしがや?
26	高松	たかまつ	63	野添	のぞえ
27	船迫	ふなさこ	64	宇迫	うさこ
28	新城	しんじょう	65	長迫	ながさこ
29	又界	またかい?	66	北迫	きたさこ
30	矢倉堀	やぐらぼり	67	高城	たかじょう
31	如意庵	によいあん	68	鉢取川	なたとりがわ
32	道下	みちした	69	火之丸	ひのまる
33	立添山	たちそえやま	70	上石坂	かみいしさか
34	泥川	どろかわ	71	前田	まえだ
35	丸尾	まるお	72	竹下	たけした
36	城戸口	きどぐち	73	樋之口	ひのくち
37	宮田	みやた	74	山口	やまぐち

大字 磐 笠 木			大字 上 水 流		
1 楠木丸 くすのきまる	38 七曲 ななまがり		1 壱町畠 いっちょうばたけ		
2 宮ノ下 みやのした	39 出し道 だしみち		2 松ヶ迫 まつがさこ		
3 木の法 きののり			3 川原 かわはら		
4 八幡下 やはたした?			4 番城田 ばんじょうだ		
5 川原 かわはら			5 丁後田 ちようごだ		
6 水洗 みたらい?			6 堀田 ほりた?		
7 下川原 しもかわはら			7 墓 はか		
8 小伏川原 こふしかわはら			8 城ノ上田 しろのうえだ		
9 下ノ原 しものはら			9 六反田 ろくたんだ		
10 徳田 とくだ			10 垣内 つねうち?		
11 和田 わだ			11 山畠 やまはた		
12 笠懸 かさがけ			12 燃山 やきやま		
13 外菌 ほかぞの			13 杉迫 すぎさこ		
14 宮脇 みやわき			14 万田脇 まんだわき		
15 八幡ノ前 やはたのまえ?			15 供養元 くようもと?		
16 永田 ながた			16 中大野 なかおの		
17 宮園 みやぞの			17 野付 のつけ		
18 城ノ上 じょうのうえ			18 伊豆前 いづまえ		
19 寺園 てらぞの			19 屋敷丸 やしきまる		
20 横馬場 よこばば			20 出口 でぐち		
21 出口 でぐち			21 小路 しょうじ		
22 謙訪坊 すわぼう			22 除川 よけがわ		
23 中村 なかむら			23 中ノ道 なかのみち		
24 園山 そのやま			24 伊勢屋敷 いせやしき		
25 謙訪山 すわやま			25 新屋敷 しんやしき		
26 謙訪脇 すわわき			26 宮後 みやうしろ		
27 小幡 こばた			27 今寺 いまでら		
28 西の角 にしのすみ			28 早霜 はやしも		
29 松ノ元 まつのもと			29 下大野 しもおおの		
30 狐ヶ尾 きつねがお			30 道下 みちした		
31 犬地 いぬち			31 底水道 そこすいどう		
32 平牟田 ひらむた			32 大助橋 だいすけばし		
33 土部 どべ			33 大助前 だいすけまえ		
34 松ヶ角 まつがすみ			34 松原 まつばら		
35 大通 おおどおり			35 落ノ上 おとしのうえ		
36 法来 ほうらい			36 横口 ひぐち		
37 謙訪下 すわした			37 中溝下 なかみぞした		

上 水 流			大字 下 水 流		
38 下ノ原 しものはら	1 中境元 なかさかいもと	38 東下山 ひがししもやま			
39 橋ノ下 はしのした	2 榛木丸 たぶのきまる	39 大開 おおひらき			
40 石橋 いしばし	3 植松川原 うえまつかわはら	40 酒屋田 さかやだ			
41 前畠 まえはた	4 竹ノ内 たけのうち	41 寺島 てらしま			
42 前田 まえだ	5 霧島 きりしま	42 洗切 あらぎり			
43 井ノ上 いのうえ	6 燃良渕 やきらふち	43 井手下 いでした			
44 永田 ながた	7 屋根添 やねそえ	44 浜松 はままつ			
45 新田 しんでん	8 永田 ながた	45 堂前 どうのまえ			
46 榎園丸 えのきぞのまる	9 勝門 かつかど	46 東塩入 ひがしおいり			
47 梶溝 すてみぞ	10 田神丸 たのかみまる	47 屋敷原 やしきはら			
48 梶木丸 かきまる?	11 川原 かわはら	48 屋敷迫 やしきさこ			
49 水無川原 みなかわはら	12 尾崎川原 おざきかわはら	49 ボヤ迫 ぼやさこ			
50 柳別府 やなぎべっぷ	13 寺田 てらだ	50 東永城 ひがしながしろ			
51 持留 もちどめ	14 西ノ丸 にしのまる	51 中永城 なかながしろ			
52 火の丸 ひのまる	15 一ノ谷 いちのたに	52 西永城 にしながしろ			
53 下川原 しもかわはら	16 西深田 にしふかだ	53 西雄子山 にしきじやま			
54 広門 ひろかど	17 名護崎 なござき	54 石橋 いしばし			
55 渕元 ふちもと	18 御前迫 おまえざこ	55 中雄子山 なかきじやま			
56 崩掛 くずかけ?	19 山王丸 さんのうまる	56 東雄子山 ひがしきじやま			
57 塚中 つかなか	20 天神川原 てんじんかわはら	57 上永城 かみながしろ			
58 宮ノ下 みやのした	21 浜道 はまみち	58 蔵道 くらみち			
59 崩本 くずもと	22 三角 みすみ	59 新田山 につたやま			
60 角力場 すもうば	23 浜畠 はまはた	60 蛇渕 へびふち			
61 井手本 いでもと	24 下山 しもやま	61 石橋下 いしばししも			
62 星原 ほしわら	25 鎮ノ丸 じんのまる	62 大野田神前 おおのたのかみまえ			
63 羽山 はやま	26 アザミ原 あざみはら	63 石橋上 いしばしかみ			
	27 水天丸 すいてんまる	64 鍋山 なべやま			
	28 軸園 じくぞの	65 東溝上 ひがしみぞうえ			
	29 田之神前 たのかみまえ	66 東加世田 ひがしかせだ			
	30 道荒 みちあらい?	67 堂ノ丸 どうのまる			
	31 新田 しんでん	68 西加世田 にしかせだ			
	32 日焼田 ひやけだ	69 桜田屋敷 さくらだやしき			
	33 橋口 はしぎち	70 黒木迫 くろきさこ			
	34 西浜道 にしはまみち	71 南黒木迫 みなみくろきさこ			
	35 大野塩入 おおのしおいり	72 中水溝下 なかみずみぞした			
	36 中浜道 なかはまみち	73 大落 おおおとし			
	37 東浜道 ひがしまみち	74 掛越 かけごし			

下 水 流		大 字 江 内		
75	鶴見岳 つるみだけ	1	松ノ下 まつのした	38 古塘 ふるとも
76	中大野 なかおおの	2	木ノ下 きのした	39 塙内 ともうち
77	西大野 にしおおの	3	尾崎 おざき	40 新溝 しんみぞ
78	嘉六ヶ下 からくがもと	4	山野口 やまのぐち	41 老松 おいまつ
79	下ノ原 しものはら	5	川骨 かわぼね	42 中道 なかみち
80	峠畠 とうげばたけ	6	木牟礼 きのむれ	43 縦割 たてわり
81	五本松 ごほんまつ	7	七ツ掛 ななつがけ	44 大迫尻 おおさこじり
82	加世田前 かせだまえ	8	摺木 するき	45 道上 みちうえ
83	法心原 ほうじんばら	9	柴山 しばやま	46 池ノ下 いけのした
84	中出口 なかでぐち	10	堤迫 どてさこ?	47 小牟礼 こむれ
85	川曲 かわまがり	11	諫訪迫 すわざこ	48 小牟礼下 こむれしも
86	三文路 さんもんじ	12	諫訪山 すわやま	49 小牟礼山 こむれやま
87	西池 にしいけ	13	飯森 いいもり	50 小島前 こじままえ
88	車田 くるまだ	14	上冷筋 かみひやすじ	51 小島 こじま
89	西出口 にしでぐち	15	下冷筋 しもひやすじ	52 表迫 おもてざこ
90	川久保 かわくぼ	16	大迫 おおさこ	53 小島原 こじまはら
91	桜畠 さくらばた	17	下段 しもだん	54 戸田原 とだはら
92	墓前 はかまえ	18	上段 かみだん	55 戸田 とだ
93	七高跡 ひちこうあと	19	夏ヶ迫 なつがさこ	56 永良ヶ迫 えらがさこ
94	加世田 かせだ	20	道下 みちした	57 小股 こまた
95	久保川 くぼかわ	21	荒崎 あらさき	58 三町塘 さんちょうども
96	窪 くぼ	22	荒崎山 あらさきやま	59 諫訪田 すわでん
97	道上 みちうえ	23	杉ノ迫 すぎのさこ	60 小島後 こじまとあと?
98	道添 みちぞえ	24	大明神 だいみょうじん	61 中割 なかわり
99	畠田 はただ	25	北平 きたひら	62 下割 しもわり
100	南田 みなみだ	26	天神 てんじん	63 十九割 ちゅうきゅうわり
101	宮脇 みやわき	27	南町 みなみまち	64 畈割 あぜわり
102	宮ノ丸 みやのまる	28	南堤 みなみどて?	65 浦窪下 うらくぼしも
103	荒田 あらた	29	中溝 なかみぞ	66 下り さがり
104	中ノ丸 なかのまる	30	溝末 みぞすえ	67 馬溜 まどめ
105	東干拓 ひがしかんたく	31	溝下 みぞした	68 井手ノ下 いでのした
		32	溝口 みぞぐち	69 脇塘 わきとも
		33	川脇 かわわき	70 八反田 はったんだ
		34	下町 しもまち	71 平田 ひらた
		35	中町 なかまち	72 瓦ヶ迫 かわらがさこ
		36	上町 かみまち	73 犬待 いぬまち
		37	松元 まつもと	74 高岡 たかおか

大 字 江 内				
75	坂ノ下 さかのした	112	横浜 よこはま	149 古外戸 ふるけど
76	板地田 いたちだ	113	轡石 くつわいし	150 知地山 ちじやま
77	木串 このし	114	宮崎 みやざき	151 外畠 そとばたけ
78	今村 いまむら	115	泊 とまり	152 平畠 ひらはたけ
79	小迫 おさこ	116	池ノ山 いけのやま	153 浦窪 うらんくぼ
80	馬込 まこみ?	117	堂平 どうひら	154 外戸口 けどぐち
81	氷川 ひかわ	118	涼松 すずみまつ	155 藤山 とどろやま
82	下岡 しもおか	119	野口 のぐち	156 小山 こやま
83	東氷川 ひがしひかわ	120	椎山 しいのやま	157 下り松 さがりまつ
84	新海道 しんかいどう	121	堂山 どうやま	
85	井手上 いでうえ	122	尾ノ嶋 おのしま	
86	芹見 あしみ?	123	宇部迫 うとさこ?	
87	淵上 ふちがみ	124	宇都川内 うとかわうち	
88	丸畠 まるはた	125	志奈尻 しなじり	
89	野添 のぞえ	126	米ノ山 よねのやま	
90	上岡 かみおか	127	山ノ口 やまのくち	
91	蓑山 へごやま	128	上宇都 かみうと	
92	山仁田 やまにた	129	西宇都 にしうと	
93	高棚 たかだな	130	宇都平 うとびら	
94	山下 やました	131	畠田 はただ	
95	東畠 ひがしばた	132	平坊 ひらぼう	
96	倉谷 くらたに	133	池ノ上 いけのうえ	
97	三流 みつる?	134	山野 やまの?	
98	連尺野 れんじやくの	135	姥ヶ崎 うばがさき	
99	寺嶽尾 てらごくび?	136	上迫 かみさこ	
100	鶴出山 つるでやま	137	柳ヶ森 やながもり	
101	三ヶ月 みかづき	138	中迫 なかさこ	
102	矢野瀬 やのせ	139	柳ヶ水 やながみず	
103	五本松 ごほんまつ	140	下迫 しもさこ	
104	肥後谷 ひごたに	141	下原 しもはら	
105	木屋太郎 このやたろう?	142	白石 しらいし	
106	鈴ヶ迫 すずがさこ	143	上ノ原 うえのはら	
107	大川内 おおかわうち	144	川内迫 かわうちざこ	
108	打塞 うちふさぎ	145	知車木段 ちしゃきだん	
109	赤岩 あかいわ	146	雨掛 あまがけ	
110	増谷 ますたに	147	桂ヶ平 かつらがびら	
111	油田 あぶらだ	148	仁田岡 にたおか	

高尾野町の地名（その2）

1 信仰地名 (59)

柴引 (12) —— 堂前・踊場・花立・東全寺・藤吉山神・山神・中永忠庵・下永忠庵・上永忠庵・羽山・立山
大久保 (6) —— 木ノ法・鎮守丸・堂山・矢房・上り立の上・尾立・（小塚・岩塚）
下高尾野 (11) —— 諏訪・放光寺・宮脇・諏訪上・花立・如意庵・水天原・古寺・灰塚・立野・羽山
上水流 (3) —— 今寺・角力場・羽山・（墓）
下水流 (11) —— 霧島・田神丸・山王丸・水天丸・寺島・堂前・大野田神前・堂ノ丸・法心原・宮脇・宮ノ丸
唐笠木 (6) —— 木の法・宮脇・諏訪坊・諏訪山・諏訪脇・法來
江内 (10) —— 諏訪迫・諏訪山・大明神・天神・諏訪田・宮崎・堂平・堂山・平坊・下り・（油田）

2 館・城郭・集落地名 (25)

柴引 (3) —— 陣之内・小陣・城内・（中屋敷）
大久保 (5) —— 甚ヶ屋敷・射場・射場屋敷・柿内・陣ノ平
下高尾野 (5) —— 新城・矢倉堀・城戸口・本城・高城
上水流 (6) —— （墓）・垣内・屋敷丸・伊勢屋敷・新屋敷・広門
下水流 (6) —— 勝門・西ノ丸・鎮ノ丸・屋敷迫・桜田屋敷・七高跡

3 条里・土地区画地名 (4)

柴引 (1) —— 七つ割
大久保 (1) —— 口ノ坪
江内 (2) —— 縦割・十九割

4 市・町・交通地名 (43)

柴引 (6) —— 町口・出口・加治屋町・本町・砂入道・鳥越・（上小路・横馬場）
大久保 (8) —— 東町・町口・車道・出シ道・本町・上村・今村・上使道・（東道上）
下高尾野 (7) —— 下村・出口・道添・石坂・鈴見町・内村・滑坂
上水流 (5) —— 出口・小路・中ノ道・底水道・石橋
下水流 (7) —— 浜道・道荒・石橋・藏道・掛越・三文字・道添
唐笠木 (4) —— 出口・中村・大通・出シ道
江内 (6) —— 南町・馬溜・今村・新海道・古外戸・外戸口・（泊）

5 水利地名 (13)

柴引 (2) —— 橋掛・大橋口
大久保 (5) —— 桑木流・橋掛・井手の角・井手ノ口・山川
下高尾野 (2) —— 古溜・井手原

上水流 (2) —— 橋口・捨溝

下水流 (1) —— 西池

江内 (1) —— 新溝

6 人名地名 (9)

柴引 (2) —— 孫宗・源六
大久保 (2) —— 五兵衛山・清王岡
下高尾野 (2) —— 覚珍・火之丸
上水流 (2) —— 大助橋・火之丸
江内 (1) —— 木屋太郎

7 開発地名 (20)

柴引 (3) —— 寺園・道下上原・今堀・（平八重）
大久保 (1) —— 道添・（新田・五反田）
下高尾野 (7) —— 寺園・中國・馬場園・市園・南郷堀・桜堀・建具堀
上水流 (3) —— 屋根添・榎園丸・柳別府・（壱町田・六反田・新田）
下水流 (3) —— 屋根添・軸園・大開・（新田）
唐笠木 (3) —— 外園・宮園・寺園
江内 (0) —— なし・（八反田）

8 田畠地名 (69)

柴引 (10) —— 三斗蒔・大永田・柳田・芋畠・迫田・平田・榎田・屋敷田・後田・（平八重）
大久保 (10) —— 新田・原畠・畠田・麦田・寺田・柿田・平田・五反田・山ノ田・太田
下高尾野 (8) —— 東畠・久保畠・宮田・柳田・芥田・前田・千束田・池田
上水流 (12) —— 壱町田・番城田・丁後田・堀田・城ノ上田・六反田・山畠・焼山・前畠・前田・永田・新田
下水流 (14) —— 永田・寺田・浜畠・新田・日焼田・日焼田・酒屋田・峠畠・車田・桜畠・加世田・畠田・南田・荒田
唐笠木 (4) —— 徳田・和田・迫田・永田
江内 (11) —— 戸田・三町塘・八反田・平田・板地田・丸畠・東畠・油田・畠田・外畠・平畠

9 職掌・産業地名 (16)

柴引 (5) —— 国料・井料・柴引・馬子せ場・段平木場
大久保 (6) —— 砂取・狩集・小豆野・柴山・内木場・平木場
下高尾野 (3) —— 国料・坪屋・木場
下水流 (1) —— 名護崎
江内 (1) —— 馬込

10 位置地名 (231)

- 柴引 (43) —— 上小路・田の下・上ノ川・中野・上大野・東大野・中大野・西大野・
宮ノ下・下小路・横馬場・中馬場・上馬場・西前原・下前原・上前原
・萩尾・下ノ松山・下後山・中ノ松山・上ノ松山・中迫・上砂取・
西馬場・後の迫・狐ヶ尾・上狐ヶ尾・西迫・東迫・西今堀・上今堀・
東垂・上垂・中垂・下垂・上畠・山下・東馬場・西野中・東野中・
下本町・西小陳・中屋敷
- 大久保 (64) —— 川ノ上・上前田・下前田・下ノ烟・上ノ原・小陳ノ下・下終迫・杉山
ノ下・西焼山・東焼山・東道上・丸岡の上・西道上・道下・丸岡の下
・中原・東原・溝上・中畠・甚力下・上使道口・松下・中島・中岡・
柿ノ元・岡ノ下・並松ノ下・橋ノ元・射場下・射場西・出シ道下・
下樺子山・柿田ノ上・溝西・橋の上・並松ノ上・射場後・杉山ノ東・
杉山ノ上・出シ道東・柿内ノ下・松山西・砂取山ノ西・上使道ノ上・
橋口・坂下・山下・鎮守元・上松ヶ野・西松ヶ野・下東原・黒木ノ元
・下段・西高野・野中・上小豆野・池ノ尾・中尾・下中尾・西段・
上柴山・内長野・中山・西大久保・(塚ノ元)
- 下高尾野 (13) —— 松ヶ角・山下・諫訪上・道下・道上・西小陳・上石坂・竹下・樋之
口・山口・後平・野元・谷口
- 上水流 (18) —— 万田脇・供養元・中大野・伊豆前・宮後・下大野・道下・大助前・
落ノ上・中溝下・下ノ原・橋ノ下・井ノ上・下川原・塚中・宮ノ下・
崩本・井手本
- 下水流 (35) —— 中境元・西深田・田之神前・橋口・西浜道・中浜道・東浜道・東下山
・井手下・東塩入・東永城・中永城・西永城・西雉子山・中雉子山・
東雉子山・上永城・石橋下・石橋上・東溝上・東加世田・西加世田・
南黒木迫・中水溝下・中大野・西大野・嘉六ヶ下・下ノ原・加世田前
・中出口・西出口・墓前・道上・中ノ丸・東干拓
- 唐笠木 (10) —— 宮ノ下・八幡下・下川原・下ノ原・八幡ノ前・城ノ上・横馬場・西の
角・松ノ元・諫訪下
- 江内 (48) —— 松ノ下・木ノ下・尾崎・山野口・上冷筋・下冷筋・下段・上段・道下
・北平・南堤・中溝・溝末・溝下・溝口・川脇・下町・中町・上町・
塘内・中道・大迫尻・道上・池ノ下・小牟礼下・小島前・小島後・中
割・下割・浦窪下・井手ノ下・坂ノ下・下岡・東氷川・井手上・上岡
・山下・野口・志奈尻・山ノ口・上宇都・西宇都・池ノ上・上迫・中
迫・下迫・下原・上ノ原・(松元・横浜)

11 伝承地名 (2)

- 大久保 (1) —— 論山ノ上 (原案は争論地名となっている)
- 唐笠木 (1) —— (笠掛)

12 瑞祥地名 (2)

下高尾野 (1) —— 徳光

上水流 (1) —— 持留・(万田前)

13 意味不明 (28)

- 柴引 (5) —— 佐敷・冷待・遠矢・試ノ内・日添
- 大久保 (1) —— 根切
- 下高尾野 (6) —— 立聞・又界・空待・垂・武本・立添山
- 下水流 (1) —— 洗切
- 唐笠木 (4) —— 小幡・犬地・土部・松ヶ角
- 江内 (1) —— 木牟礼・七ツ掛・古塘・小牟礼・小股・脇塘・犬待・木串・大川内
・宇都川内・雨掛

20 景観地名 (116)

- 柴引 (18) —— 鶴田山・森山・中山・大谷・八久保・木場段・永迫・伊良ヶ迫・
タラン迫・米山・乙木ノ段・西迫・吹ヶ迫・比久尼谷・長尾・
鈴小原・松原・後原
- 大久保 (31) —— 道下段・千間山・山ノ奥・番手山・山添・大迫・岡迫・溜平・竹添
・久保・松ヶ野・東段・高野・檜川・不毛迫・野平・田平・白木迫
・カラム迫・不毛段・堤迫・柳ヶ迫・倉谷・高棚・柿木原・大野原
・萩原・松ヶ野原・大久保原・築原・出原
- 下高尾野 (24) —— 大迫・船迫・丸尾・本迫・火ノ迫・白見迫・長尾・野添・宇迫・
長迫・北迫・後迫・石原谷・千石谷・焼山・石切迫・一八重野・
轟平・大平・喰原・上原・上原・楠原・砂原・段の原
- 上水流 (3) —— 野付・松原・星原
- 下水流 (6) —— 御前迫・下山・大野塩入・ボヤ迫・新田山・屋敷原
- 唐笠木 (2) —— 園山・狐ヶ尾
- 江内 (32) —— 堤迫・飯森・大迫・夏ヶ迫・荒崎・荒崎山・小牟礼山・表迫・永良
ヶ迫・畦浦・瓦ヶ迫・小迫・野添・倉谷・連尺野・寺嶽尾・肥後谷
・鈴ヶ迫・増谷・横浜・池ノ山・宇部迫・米ノ山・宇都平・山野・
姥ヶ崎・川内迫・知地山・轟山・小山・小島原・戸田原

21 形状地名 (14)

- 大久保 (4) —— 曲迫・丸岡・三角・坊主岡
- 下高尾野 (4) —— 曲迫・宇都・平山・笠山
- 下水流 (3) —— 三角・鍋山・川曲
- 唐笠木 (1) —— 七曲
- 江内 (2) —— 三ヶ月・打塞

22 目印地名 (58)

- 柴引 (6) —— 柴山・七本柴・尾塚・角株・岩塚・生甫ヶ元・(伊良ヶ迫・狐ヶ尾)

・吹ヶ迫)

- 大久保 (11) —— 小塚・岩塚・塚ノ元・柿木丸・砂取山・出水境・櫻子山・梅木林・
終迫・春木・楠木丸
- 下高尾野 (5) —— 植松・高松・榎ヶ谷・大崩・一本松
- 上水流 (3) —— 松ヶ迫・槐木丸・崩掛
- 下水流 (8) —— 檜木丸・竹ノ内・一ノ谷・アザミ原・浜松・黒木迫・鶴見岳・五本松
- 唐笠木 (2) —— 楠木丸・笠掛・(狐ヶ尾)
- 江内 (23) —— 摺木・柴山・杉ノ迫・松元・老松・小島・芹見・蔓山・高棚・
鶴出山・五本松・赤岩・巒石・泊・涼松・椎山・尾ノ嶋・柳ヶ森・
白石・知車木段・桂ヶ平・下り松・(宇部迫・永良ヶ迫)

23 川原・湿地地名 (42)

- 柴引 (5) —— 川原・平牟田・中須・高州・松木川
- 大久保 (6) —— 古川・小牟田・川窪・川頭・大久保・中須
- 下高尾野 (5) —— 平牟田・犬渕・泥川・楠木川・鉈取川
- 上水流 (4) —— 川原・除川・水無川原・渕元
- 下水流 (10) —— 植松川原・焼良渕・川原・尾崎川原・天神川原・蛇渕・大落・窪・
川久保・久保川
- 唐笠木 (3) —— 川原・小伏川原・平牟田
- 江内 (9) —— 川骨・氷川・渕上・三流れ・矢野瀬・柳ヶ水・浦窪・山仁田・仁田山

24 浸食・崩壊地名 (3)

- 大久保 (1) —— 水洗
- 下高尾野 (1) —— 噉原
- 唐笠木 (1) —— 水洗

25 気象地名 (2)

- 大久保 (1) —— 石露
- 上水流 (1) —— 早霜

高尾野町の地名 (まとめ)

1 字数について

- 前回行った野田町の字数よりも格段に多い754もの字があり、近隣地域であっても字数は大きく異なっている。
- 大字によって字数も異なっている。最少は唐笠木の40字、最大は大久保の164字でこれに江内の156字がほぼ同数で続き、その中間には柴引の121字と下水流の106字、下高尾野の103字があり、上水流が63字となる。大字によって非常に字数の差が大き

いと言える。

2 高尾野町の字名の特徴について

- 何れの大字でも位置地名が格段に多く、3割程度にも及ぶ。上中下、東西南北、頭前後などで位置を表しているということは、本来あった字が人口の増加や字の範囲が広いことなどからより小さく区分したことが想定される。小さく分けた際に、上中下や前後などという呼称がついたのではないか。
- 位置地名に次ぐものは、景観地名であり、目印地名と合わせるとある程度の数になる。特定の場所を表すのにこのようなどうしても必要だったことの証と考えられる。
- 信仰地名も多い部類に入る。唐笠木ではほかの大字に比して突出して多い傾向にある。信仰心の篤い地域と言えるかも知れない。
- 交通地名もそれらとほぼ童謡に多い部類に入りそうである。これも唐笠木が他に抜きん出ている。
- 人文系の地名の中で、どの大字にも全く見られないのが伝承地名である。また、少數しか見られないものが区画地名と瑞祥地名と争論地名である。
- このように、地名の数に極端な差異が見られることが、本町の特徴と考えられる。
- 自然系の地名では、景観地名が極めて多く、特に下高尾野では人文地名も含めても最多である。これに目印地名と湿地地名が次ぐ。擬音地名は全くなく、崩壊地名と気象地名もほとんどないに等しい。
- 自然の中で、景観に注意を払い、特徴的なものに目印として捉えていた結果ではないかと考えられる。また、湿地地名は日常生活を送るについて、そのような場所には留意しておく必要から付けられたのではないかと思われる。

3 それぞれの大字の特徴について

柴引：位置地名が4割近く、景観地名・信仰地名がそれに次ぎ、田畠地名・交通地名・目印地名・産業地名・湿地地名と続く。伝承・瑞祥・争論。形状・崩壊・気象・擬音の各地名はない。意味不明の地名も割合に多い。

大久保：位置地名が4割に近く、これに景観地名が続く。目印地名・田畠地名が来て、交通・信仰・産業・湿地地名等が次ぐ。伝承・瑞祥・擬音の各地名はない。

下高尾野：景観地名が2割強と最も多く、位置地名・信仰地名が続き、田畠地名・交通地名・開発地名、さらに集落地名・目印地名・湿地地名とつながる。区画・伝承・争論・崩壊・気象・擬音の各地名はない。意味不明の地名も割合に多い。

上水流：位置地名が3割弱で、それに田畠地名が続く。そのあとは、集落地名・交通地名・湿地地名と続く。区画・産業・伝承・争論・形状・崩壊・擬音の各地名はない。

下水流：位置地名が3割を越え、これに田畠・深耕・湿地・目印地名へとつながる。区画・人名・伝承・瑞祥・争論・崩壊・気象・擬音地名はない。

唐笠木：位置地名が2割強で最も多く、信仰地名・交通地名・田畠地名と続く。集落・区画・水利・人名・産業・伝承・瑞祥・争論・気象・擬音の各地名はない。意味不明の地名も割と多い。

江内：位置地名が3割を越し、これに景観地名・目印地名・田畠地名が続く。信仰地名・湿地地名も多い。集落・開発・伝承・瑞祥・争論・崩壊・気象・擬音の各地名はない。意味不明の地名も割合に多い。

高尾野町地名分類表

[凡例 : ◎ 最多 ◎ 多数 ◇ 1~2]

大字 分類	柴 1 2 1	引	大 1 6 4	久 保	下 高尾野 1 0 3	上 水 流 6 3	下 水 流 1 0 6	唐 笠 木 4 0	江 内 1 5 7	計 7 5 4							
1 信仰地名	◎12	9.9	%	6	3.7	◎11	10.7	3	4.8	◎11	10.4	◎6	15.0	◎10	6.4	◎59	7.8
2 集落地名	3	2.5		5	3.0	5	4.9	◎6	9.5	6	5.7	0	0.0	0	0.0	25	3.3
3 区画地名	◇1	0.8	◇1	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.3	4	0.5	
4 交通地名	6	5.0	8	4.9	7	6.8	◎5	7.9	7	6.6	◎4	10.0	6	3.8	◎43	5.7	
5 水利地名	◇2	1.7	5	3.0	◇2	1.0	◇2	3.2	◇1	0.9	0	0.0	◇1	0.6	13	1.7	
6 人名地名	◇2	1.7	◇2	1.2	◇2	1.0	◇2	3.2	0	0.0	0	0.0	◇1	0.6	9	1.2	
7 開発地名	3	2.5	◇1	0.6	7	6.8	3	4.8	3	2.8	3	7.5	0	0.0	20	2.7	
8 田畠地名	◎10	8.3	◎10	6.1	◎8	7.8	◎12	19.0	◎14	13.2	◎4	10.0	◎11	7.0	◎69	9.2	
9 産業地名	5	4.1	6	3.7	3	2.9	0	0.0	◇1	0.9	0	0.0	◇1	0.6	16	2.1	
10 位置地名	◎43	35.5	◎64	39.0	◎13	12.6	◎18	28.6	◎35	33.0	◎10	25.0	◎48	30.6	◎231	30.6	
11 伝承地名	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
12 瑞祥地名	0	0.0	0	0.0	◇1	1.0	◇1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	◇2	0.3	
13 意味不明	5	4.1	◇1	0.6	6	5.8	0	0.0	◇1	0.9	◎4	10.0	◎11	7.0	28	3.7	
14 爭論地名	0	0.0	◇1	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	◇1	0.1	
小計	94	77.7	116	70.7	66	64.1	53	84.1	79	74.5	31	77.5	94	59.9	533	70.7	
20 景観地名	◎18	14.9	◎31	18.9	◎24	22.3	3	4.8	6	5.7	◇2	5.0	◎32	20.4	◎116	15.4	
21 形状地名	0	0.0	4	2.4	4	3.9	0	0.0	3	2.8	◇1	2.5	◇2	1.3	14	1.9	
22 目印地名	6	5.0	◎11	6.7	5	4.9	3	4.8	8	7.5	◇2	5.0	◎23	14.6	◎58	7.7	
23 湿地地名	5	4.1	6	3.7	5	4.9	4	6.3	◎10	9.4	3	7.5	9	5.7	◎42	5.6	
24 崩壊地名	0	0.0	◇1	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	◇1	2.5	0	0.0	◇2	0.3	
25 気象地名	0	0.0	◇1	0.6	0	0.0	◇1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	◇2	0.3	
26 擬音地名	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
小計	27	22.3	48	29.3	37	35.9	10	15.9	27	25.5	9	22.5	63	40.1	221	29.3	

地名研究会報

第83号

平成16年3月7日

鹿児島地名研究会

I. 第83回例会 平成15年12月7日(日) 於西郷南洲顕彰館研修室
(出席者) 今村誠一・大田照夫・納栄藏・小山田稔・上野堯史・川野雄一・
築地成郎・永坂芳彦・繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・松浪由安・
三善喜一朗(計13名)

II. 大日本地名辞書読会 P.548~P.549 太良・曾木滝・栗野・大水郷・桑原郡

III. 横脇町の地名

[問題となった地名および事項] 文禄慶長の役と島津勢、朝鮮渡来の陶工たち、大水郷
馬口、野付、伊勢、大完、土器屋、風呂、阿母と養母、櫻野駅、鹿倉(狩
倉)、札元・札立、豆漬、桜島、宇都、ホキ、高城、大前氏、田後駅

文禄・慶長の役と島津勢

平田 今日読んだ所で、何か。なければ気付いたことを話します。前回新納忠元が関白陣を訪れた云々との話がありました。今日の箇所にそれが出ています。秀吉が大口に入らなかった理由は、大雨が降った後で水かさが増していくて大口へ入れなかつたのです。それで新納忠元も遡回りをして挨拶に行ったというのが実情のようです。そのことは会報82号にも書いておきました。

548ページの下段に泗川の戦のことが書いてあります。島津勢がどこで戦ったか、ということですが(朝鮮半島の略図を板書)、泗川はこの辺になります。これは慶長の役の時。文禄の役の時は、38度線のすぐ南側の所になります。春川ヒュンツエンと読むようですが、此處に島津勢が腰を据えます。こちらの方(日本海岸の北側)に攻め入って朝鮮の二王子を捕えるのが加藤清正です。その後方を守ったのが島津勢です。此處(春川)に陣取るのが佐土原城主の島津豊久です。義弘父子は東海岸を南の方に下つて行きます。文禄の役の時

は島津勢は東海岸の方を支配していた。このことは2002年9月、観光旅行に出かけた時に気付きました。春川のすぐ北側が38度線になります。春川は江原道の首都です。こちらで言えば大隅国の大分とか薩摩国の川内のような都市です。此處には38度線を守る韓国軍の師団駐屯地があり、いわゆる要害の地です。すぐ北側の金剛山は観光客が訪れる紅葉の綺麗な所です。そういう所で島津勢は戦ったのです。

慶長の役の時の戦いは、ほとんど南の方に限定されます。島津勢が武名をあげたのは南原(ナモン)城の攻防戦です。日本軍は南原城を容易に攻め落とせなかつたのです。何日も攻めて不眠不休で守らせる。そして退却の真似をするのです。日本軍がさつと引き揚げたので守備兵は安心して眠るわけです。もう眠つた頃だと引き返して攻め落とす戦術を探ります。(後記:南原城攻撃に当たつて、諸将はクジを引き後詰を決める。加藤嘉明と島津義弘は後詰のクジを引き、全州から南下の気配を見せる明の増援軍を牽制。南原城を脱出し

た明軍を迎撃って島津勢は四百余の首級をあげた。義弘自ら三首級をあげたという。もう一つは晋州城攻撃。それから大邱北方の分水嶺を島津勢が守ったとの記録もある。

有名な戦いが泗川新寨の戦になりますが、こちらあまり言われていないことがあります。泗川新寨を守るためにいくつかの支城があります。普通泗川の戦と言えば泗川新寨の戦になる。新寨は新しい城のことです。みれば泗川新城の感じですが、旧寨もあったのです。泗川の島津勢に対して董一元が率いる20万の大軍が攻めて来ました。20万対島津勢5千人です。40人対1人の戦争ですから、どう考えても敵わないのです。島津義弘はどういう戦術を探ったかというと、周囲の支城に新寨へ帰れと命令するのですが、旧寨への連絡は遅れてしまった。旧寨の連中が新寨へ引き揚げようとした時は明軍が迫ってきて新寨には帰れないわけです。旧寨守備の約300名は討つて出ますが、半数は討ち取られます。結局、島津義弘は旧寨の部下150名を餌として与えた形になります。明の大軍は旧寨の守備隊を血祭りにあげたので、すっかり気分をよくしてなめて掛かって来るわけです。明軍を油断させ十分に引きつけて一斉に鉄炮を放ったのです。そこで、20万の大軍がパニック状態になります。そういう中で決死隊が明軍の火薬庫に火を付けた。狐に化けた勇士、赤狐・白狐と云われている勇士が火を付けて爆発させた。いうなれば特攻隊の始まりです。それではパニック状態に陥るわけですから、切りまくって行った。そして38,777人を斬ったことになるのです。

泗川新寨の戦で島津勢の戦死者は4名ということになっていますが、実は旧寨の戦いの

150余名の犠牲者があったのです。犠牲者という餌を与えなければ勝てなかったのです。

(後記：当日は犠牲者50余名と話をしたが、『征韓錄』に基づいて150余名に訂正する)

それからもう一つ。朝鮮側に亀甲艦を造り日本軍を苦しめた名将李舜臣がいた。救国の英雄として銅像が建っている人です。李舜臣の率いる水軍がこの近くにいたわけですが、明の董一元が手柄をあげようと思って李舜臣には連絡をせずに攻めて来ました。もし水陸連携をとりながら陸の大軍が正面から攻め朝鮮の水軍が城の背後に回って攻めたら島津勢は勝てなかっただろう。全滅したに違いない。何故かというと、5千人が城を空っぽにして出たわけですから、その間に城を占領されて島津勢は袋の鼠になったと思うのです。歴史というものを探っていくと、そういう裏があるのです。

この後、島津勢は最後に孤立した小西行長勢を助けるために総力をあげて李舜臣と戦う露梁の海戦になります。その時に李舜臣は島津勢の放った銃弾に当って戦死しますが、島津勢の損害も大きかった。しかし、その損害がどれだけであったのか記録がないのです。どうも日本の歴史というのは勝ったことばかりを記録して、悲惨な面を残していない。

なお平凡社の東洋文庫という息の長い文庫があります。もう40年近く続いている、現在900冊ぐらいになっています。一昨年出したのに李舜臣の『乱中日記』というのがあります。李舜臣が戦死する直前まで、ずっと日記を書いています。その日記を読むと、日本の水軍がこてんぱーにやられる模様が書いてあります。読みながらびっくりするのは日本人の降伏者が多かったことです。李舜臣の日

記には「降倭」という表現で出て来ます。降倭の名前は音読みで写されているのですが、ごますりが多く、降倭同志の仲が悪く喧嘩をして、あいつは憎いから斬らせてくれとかいうと、許可を与えて斬らせている。そういう面もあります。そう云ったこともあって日本人は読みたがらないのかも知れません。

朝鮮渡來の陶工たち

平田 事はついでに。鹿児島には朝鮮からの陶工たちが来ているわけですが、この陶工たちがどこから来たかという問題があります。春川にいた時代に連れて帰るような状況ではないわけです。南原・晋州付近の陶工がこちらに連れ帰られたと云われています。

それから島津勢は出て行く時には、大きな船を持っていなかった。金がなくてやっと小船を借りて朝鮮に赴きます。大きな船を持たなかっただけですから、どのようにして連れて来たのか、捕虜として強制的に連れて来たのか、そこがちょっと謎になります。相当数連れて来たと云われますが、日本軍が撤退するとそこに残っていれば日本軍に加勢したとの理由で朝鮮側からやられますから、それを怖れて逃げて来た人たちが多いのじゃないかと思います。島津勢は1万人以上の捕虜を連れて来たということを書いてあるのもありますが、どれだけの船に乗せて帰って来たのかとの疑問が出て来ます。

強制的でなかったにしても陶工たちが難を避け、故郷を棄てて日本に来たということはやはり戦争の悲劇・犠牲者だったことを意味します。

松浪 陶工を連れ帰った問題。鹿児島だけじゃありませんよね。朝鮮から陶工を連れ帰ったのは。全国的にあっちこっちにある。そ

の頃からなんでしょうか。それとも、もっと後、あるいは以前というもともと考えられないこともない。

平田 以前はないですね。

松浪 以前はない。はい。例えば佐賀県とか山口県の萩とか、あっちこっちに。

平田 連れて来た人物名も大抵判っていますから、年代はきちんと押さえられると思うのですが。

松浪 連れて帰る人数とか、船の大きさとか、いろいろ条件がありましょうけど。

平田 その他に捕虜はいくら連れて来たという話も沢山あるわけです。

松浪 先生は先程捕虜じやなかったというような解釈をしましたけど、その辺はそれぞれ異なる・・・。

平田 小さな船だったら、それ以上の人間がいなければ、暴動が起きたら抑えられないと。そんなに沢山乗せて来れないわけですね。

大水郷と大水駅

納 こここの真ん中の大水郷ですか。そこに大水駅五疋と書いてありますね。これは馬が五疋おったということですか。

平田 そういうことです。

納 そして伊佐郡の大口ではないか。その次の行では横川院であるというふうに書いてありますね。これについて平家物語の長門本に俊寛たちが流されて来た時のこと、島津庄まではまだいいのです。この先が大水郷に廻って行ったように書いてあるのですね。島津庄から真っ直ぐ国分に出て来れば、まだ判るので。

平田 国分に出て来ているのですよ。

納 国分の、あそこは止上(とがみ)か。

平田 はい。
納 止上に来て、それから国分駅裏にある、あれは何という所か。

平田 気色の森(けしきのもり)。
納 気色の森に来て、あれから海岸下りる。

平田 そうですよ。
納 これだったら判るんですよ。これですね、島津庄から大水郷に出て行ったように書いてあるのですね。

平田 それはないですよ。大水郷というのは出て来ない。長門本平家門語には。

納 何かで見た。
平田 「俊寛が流されて来た道が昔の駅路ではないか」と言ったのは小園さんです。その中で大隅大川原を大水駅に比定したのです。その話とごっちゃになってるのじやないですか。

納 ごっちゃ混ぜ。

平田 はい。

納 おかしいと思っていたのです。都城から北へ行って、また南に下りたのじやろかいと思って。

平田 此處のところが核心になると思います。大水郷がどこになるかというのは大きな問題なんです。日向国真幸、飯野、加久藤とか、そういう所に駅路が來ていたことは確かです。この駅路が北に行って人吉に抜けるのか。宮崎県の歴史家たちはこっちの道(人吉への道)を考えます。日向国府から綾→野尻→真幸と通って來たことは事実なんですが、

それから肥後国とどう関わるのか。肥後国の駅として確実なのは佐職(佐敷)駅です。その次ぎは仁王(仁主)駅。この仁王を久木野村(水俣市)仁王木(におうぎ)に比定する説を

古代交通研究会長の木下良氏はとります。そして仁王駅と真研駅の間に大水駅があったと見るのです。そうすると大口がちょうど真ん中にになるわけですから。これをどのように考えるかというと、真研駅から吉松に来て、般若寺の所で川内川を渡り、山越えで菱刈の市山辺りに出て来る道になります。そうすると真研(真幸)と仁王・佐職の間に大水駅があれば都合がいいわけですね。

それからもう一つは、真研駅より南の方に夷守駅・島津駅があります。島津駅から大隅国府に来る道、これがどの道を来たのかまだよく判っていませんが、島津駅=大隅国府をつなぐ道を考えられるわけです。さらにその先はどうなるのか。大隅国府の次は蒲生駅になって、その次は蒲生から薩摩国府へ向かう(略図を板書)。大隅国府と薩摩国府を結ぶ道が、これまた完全に解けていないのですけど、蒲生駅と田後駅との間があまりに遠すぎて困っているから真ん中に一駅を置いて欲しいということで櫟野駅が置かれる。櫟野駅については樋脇町市比野(いちひの)説が有力なんですが、入来町の人たちは入来町市野々(いちの)説を唱えます。市比野説と市野々説がありますが、市比野説が有力でしょう。市野々は通過点にすぎないと思います。

そして駅路は網津(おうづ)駅・英祢(阿久根)駅を経て、その次に順番として市来駅が書いてあり肥後国につながって行きます。市来駅には問題がありますが省略します。

納 そんなら私の勘違いかな、それとも読み違いか。

平田 それでね。
納 それとも書き違いかな。というのが私が感じたのはこうです。宮崎の海岸に上っ

て、宮崎の海岸はどこか憶えていませんが、島津庄に來てるのですね。これから国分の方に来れば判るのですが、これが真幸に出るのです。地名の順番は真幸に来て、次が大水、そして国分に下つて來ると書いてあるのです。

平田 それは、おかしい。

納 おかしいことが書いてあると思って
平田 ちょっと説明しますからね。島津庄から夏木、赤坂。赤坂という地名は財部町にあります。それから「とかみ(止上)」「けしきのもり」を通って鳩脇(はとわき)から船に乗って出て行ったという記事があるのです。このルートに小園さんが着目して、これが官道(駅路)だと説を唱える。それと、ごっちゃになったのじやないですか。

納 それに書いてあるのは、下つて来て止上から気色の森。此處から鳩脇に出る場合に、この辺にオサッテ様:石軸神社。鹿児島神宮裏の。あそこに無事帰れるように。

平田 祈った。

納 途中でお祈りをした、と。

平田 此處から祈ってるのですよ(黒板の略図を指す)。

納 はい、此處から。

平田 八幡宮に祈ってるのです。

納 祈るというのは判るのです。回り道になるから。道もなかったのじやないかと思います。

平田 いや、大隅国府を出て北上し、肥後国・日向国につながる道があったのです。

納 ははあ、なるほど。

平田 それは石軸神社について「往古の大路、宮坂の麓の石軸に八幡の文字が現れた」との文書があるのです。

納 現在残っている浜之市(はまんち)から

あれはどこけな、隼人塚。あそこまで一直線の道があるでしょう。あれは昔からの道ですか。

平田 そうです。

納 あれから真っ直ぐ行けば、鹿児島神宮の前に出て来ますからね。

平田 そうです。その道に通じる所で渡っているのですよ。それで、これに書いてあることを整理してみると、大口も交通の要所。

栗野も要所、もう一つ此處に横川という要所がある。大口・栗野・横川のどれかに大水駅がなければならないと思うのです。そして、いつから「大口」というようになったかは判らないけれども、昔は牛屎(うしくそ)と言っていた。それから牟田口(むたぐち)城とも言っていた。「口」を崩して書けば「水」の崩し字に近いので読み間違ったのじやないかという説が一つあります。「横」を音読すれば「オウ」ですね。「川」の崩し字も「水」の崩し字に間違い易いのです。これも「大水」になる可能性がある。(後記:栗野にも大水堀という地名がある)。そうすると交通の要衝として大口・栗野・横川のどれが歴史的に見て重要なことになる。それから考えると難しい問題があるということです。だから、

どこかで「大水」と書いた墨書き土器がまとまって出て来れば決まるわけです。発掘調査で出て来るのを待たなきやならないということです。

納 何故上って行ったたーろかいと今までおかしいなと思って。

平田 いろんな説を聞いておられるから、そういうことになるのでしょうか。大隅国から最も大宰府に近い道は、これです。これが一番近いのです。こちらに回って人吉に回る

と遠回りになる。薩摩国を回れば、二日余計にかかるということ。

納 参勤交代も、時には、そこを通ってますね。

平田 どこですか？

納 真ん中の道。

平田 ほとんど通っていません。

納 海岸地帯じやなくて。

平田 参勤交代は、こっち（日向の方）に行きます。

納 そっちに行く道もあります。

平田 細島に出ます。

上野 国分からと考える時には、今までいうと、どの道に当たりますか。空港前の道ですか、それとも隼人の方？

平田 それが判らない。初めは此処に「往古の大路、宮坂麓」とありますからね。往古の大路ということは昔の駅路ということですからね。石躰神社の所から真っ直ぐ上の道が最も古い道。その後、どこへ行ったのかが問題です。これが廃れたとなると、桑原郡の国府が帖佐あたりに移動していたと考えなけれ

樋脇町

の 地 名

永坂 芳彦

準備した資料は(1)小字地名の読み(2)分類(3)地図が1枚(4)樋脇町の地名のまとめ。ありましたでしょうか。

まず最初に困ったのは小字地名の数が違うことでした。角川辞典の載っている数、『樋脇町の文化財』に記されている地名の数、それと小字地図が手に入りましたので、併せてチェックしてみたのですが、数が違います。

角川の辞書に載っている樋脇町の小字地名は

ばならない、という説を私は立てたのです。

上野 じゃ一、此処（大隅国府）から横川までの道はよく判らない。横川から先は見当が付く。

平田 横川から先は大体そうだけど、溝辺を通らなければ横川には行けないでしょう。一方、国分から北上して踊：牧園を通って横川に抜けるということも考えられるけど、これが主たる道路になるというのはいささか難問。まだよく判りません。

上野 それと、大水ですが、大水がまさに洪水が出るというふうに解釈するならば、横川が、しょっちゅう、そういうのに見舞われている。

平田 洪水が出ている？

上野 あそこはよく洪水が出ています。栗野・大口はあまり、そういう記事はない。広いということもあるでしょうけど。横川はちょっと雨が降ると溢れるようです。

平田 まあ、将来の問題にしておきましょう。時間オーバーしました。ちょっと休憩しましょう。

650でした。『樋脇町の文化財第2集』に地名の振り仮名と小字地図が載っているのですが、これは661あったのです。小字地図で数えてみたら、734あります。

困ってどうしようかなと思いましたが、一応抜けたり新しく生まれたりしたものがあったのではなかろうかと思って、小字地図にある734を参考にして分類しました。また今までの会報を読みますと、明治に公称地名として一律に採択されたんだろうということを書いてありましたので、一応そういうものであろうと思って出してあります。

それから分類に当たって平田先生の指導を受けたのですが、二つの分野にまたがるのがあるのですね。例えば宇都口・上宇都。こういう二つのジャンルにまたがる地名の処理についてどうしたものだろうかと思って指導を受けたわけですが、次のような指導を受けました。これを読んでみます。

①二つのジャンルにまたがる地名の処理。
ア. 主体は「宇都」であるから、景観地名。
イ. 宇都口=景観地名、（宇都口）=位置地名とし、副次的意味あいのものを重出として（ ）で示す方法。

ウ. 複数例であれば、一つは景観地名（宇都口）一つは位置地名（上宇都）に分ける方法。

※ 处理としては、イ. が望ましいとの指摘を受けました。

そのつもりでやって行ったのですが、私自身が未熟なため相当数この趣旨に添った分け方が出来ずに残っている場合があると思います。皆さんの指摘を受けながら今後訂正していくたいと思います。

小字地名の読み方ですが、※印がついた

ものがあります。これは集落地名と言われていたものと思いますが、現在は公民館地名と言っているようです。これは全部掲げてみました。これは分類には入れてありません。小字で出て来るのもありますので。例えば倉野では公民館地名として小字地名がそのまま残って使われているのがあります。塔之原は公民館地名が47あるとのことです、小字地名から採ったのは30しかないです。17が消えています。市比野になると49のうち29しか小字地名が公民館地名として残っていないのです。そのようにして消えたりしてるものもありますし、また小字地図になくて公民館地名として出て来るものもあります。その逆もあります。

此処では公民館地名は税務課に問い合わせて整理し、一応新しい地名とみなしました。そういうことを前提にしながら分類して行きたいと思います。

まず訂正があります。小字地名のルビで、塔之原130. 篠目山ささめやまと書いてありますが「しのめやま」です。市比野の欄外（大字、市比野、総数331）とありますが、332です。一つ増えたのはどこに入れるかというと、一番最後に入れました。332. 逆瀬さかせです。

分類にしたがって説明していきます。

まず信仰地名。68カウントされました。

倉野(10)：石塚(イツカ)、鬼ノ元(エノモト)、観音迫(カンノンザコ)、諫訪上(スリウエ)、立迫(タケザコ)、八幡山(ハチマンヤマ)、羽山(ハネヤマ)と読むようです。宮田下(ミヤタシ)、湯ノ神(ユガミ)、宮之脇(ミヤノヨキ)。羽山は牛馬神の信仰とか聞いています。（編集者後記：羽山はやま、県下各地に見られる地名）。

塔之原(23)：岩塚(イツカ)、諫訪腰(スリコシ)

諏訪原(スバノ)、寺川(テラカリ)、寺堀(テラボリ)、天神馬場(テンジンバウ)、鳥居堂(トリトウ)、鳥居ヶ迫(トリイガサコ)、錢龜(セニガメ)。これは今まで会報に出ていましたので此處に入れました。堂立(ドウタテ)、二月田(ニガツテン)、灰ヶ嶺(ハイガミネ)、八幡迫(ハチマンサコ)、弁天・弁天ノ前(ヘンテンノマエ)。これは位置地名でいいのじやないかな、カッコして、自分としてはそうするつもりです。宮ノ迫(ミヤノサコ)、宮ノ前(ミヤノマエ)山神前(ヤマカミマエ)、修理田(シュウリタ)。寺とか社などの修理をするために確保された田とかそのように聞いています(編集者後記: シュウリテンが正しいだろう)。現王(ケンノウ)。鹿児島県ではそういう祭神があるそうです。ただ、神様の実体は分からぬということでした。

末寺原(スエテラハラ)、次米田(ツキメタ?)。これも粢田(シタテン)と別名いうそうですが、祭りに粢餅を供するための田圃だとか聞いています(編集者後記: 粢を次米と二字に分解してしまいツギメと勝手な読みをしたもの)。妙甘ヶ宇都(ヨウガマガウ?)。これは妙見(ヨウケン)菩薩から来た名前じやないかとのご指導を受けました。

市比野(85): 天ヶ野(アマカノ)。次は荒神ノ元(アラカシノモト)と読むそうです。阿弥陀ヶ段(アミタガダン)、庵ノ迫(アンサコ)、庵ノ宇都(アンウト)石塚(イシツカ)、一ノ宮脇(イハヤキ)、尾塚(オツカ)尾塚元(オツカモト)、王子ノ下(オシノシタ)。これは迷ったのですが、クボ地じやないかと思ったりしたのですけど、王子・王様の子・王子の子・王の子、何か宗教的な意味合いがあるのかなと思って入れました(編集者後記: 王子信仰にもとづく。御子神・若宮など熊野權現の末社によく名付けられる。八王子・王子製紙などよく知られた地名もある)。鬼ヶ瀬戸

(オニガセト)、神ノ原(カミノハラ)、胡麻迫(ゴマサコ)、權現原(コンケンバル)、里宮脇(サトヤキ)、三方塚(サンボウツカ)、諏訪脇(スワキ)、高寺(タカテラ)田神前(タノカミマエ)、塚山(ツカヤマ)、天神原(テンジンバル)、鳥居ヶ迫(トリイガサコ)、猫塚(ねツカ)、八幡迫(ハチマンサコ)、宮前(ミヤマエ)、宮元(ミヤモト)、宮下(ミヤシタ)、宮之城戸。近くに宮之城があるので「ミヤシヨウト」かと思っていたら「ミヤノキト」と読むそうです。山神迫(ヤマカミサコ)、片蓋(カタフタ)、山神下(ヤマカミシタ)、山神ノ原(ヤマカミハラ)現王(ケンオウ)、鞘本(サヤモト)、鞘下(サヤシタ)。鞘本・鞘下は塞神(サヤカミ・サエカミ)信仰に関係があるのじやないかということでした。

(2) 城・館・集落地名。これは○○屋敷・○○丸、そういうものをまとめました。桙(カコイ)、城ヶ迫(シロガサコ)、西野丸(ニシマル)、橋ヶ丸(ハシマル)、野久尾(ノクオ)。これ(ノクビ)は搦め手を指すそうです。狩集(カリアツマリ)、口ノ町(クノマチ)、限之城段(クモノシヨウダン)、陣ノ平(ジンノヒラ)、城内(シヨウナイ)、庄内(ショウナイ)、惣陣(ソウジン)、高城(タカシヨウ)、高屋(タカヤ)、古屋敷(フヰシキ)、本古屋(モゴヤ)。牟礼(ムレ)、これは古代朝鮮語で村を指すそうです。そういうことで此處に入れました。桙ノ下(カコインタ)、桂丸(カツラマル)。門貫(カドヌキ)、これはちょっと意味が分からぬのですが、一応「門」ということで入れてみました。久留主城(クルシヨウ)、大丸(オマル)、野中丸(ノナカマル)、札元(フタモト)、札建(フタケ)、古屋敷下(ウルヤシキシタ)、柳丸(ヤキマル)、野久尾(ノクオ・本来はノクビ)、鹿栗山(カクリヤマ)、牟礼(ムレ)。

(3) 条里・区画地名。倉野(2): 上四拾田(カミシジュウテン)、下四拾田(シモシジュウテン)。塔之原(6): 上・下・東・西・南・中大坪と統けてあります。分類した場合は位置地名でいいの

じやないかと思ったのですけど、はつきりしていますので此處に入れました。上大坪(カミオオツカ)、下(シモ)大坪、東(ヒガシ)大坪、南(ヒミ)大坪、中(カ)大坪。五反田(ゴンダン)。

(4) 市・町・交通地名(48)。倉野(7): 濑戸口(セトグチ)、谷口(タニグチ)、辰口(タツグチ)、辻(ツジ)、掛橋(カケシ)、鳥越(トリコエ)、船戸口(フナグチ)。塔之原(14): 井川道(イガリミチ)、岩下道(イシタミチ)、坂下(サカシタ)、十文字(ジュウモンジ)瀬戸口(セトグチ)、中坂(カカハ)、中渡(カカリ)、野町(ノマチ)、乱坂(ミタレカ)、乱橋(ミタレハシ)、茶屋ヶ迫(チャヤガサコ)、茶屋堀(チャヤボリ)、新道迫(シンドウサコ)、小市原(コイハラ)。

市比野(27): 阿母ノ口(アボノグチ)、阿母峠(アボトウゲ)、石坂(イシザカ)、芋渡瀬(イモワタセ)、後小路(ウシロコジ)、小坂(コサカ)、熊越(クマコエ)、下馬渡(シモマワタリ)、辻(ツジ)、辻迫(ツジサコ)、瀬戸口(セトグチ)、大道迫(ダイトウサコ)、瀬戸下(セトシタ)出口(テグチ)、鳥越(トリコエ)、徳利道(トリミチ)中園道(カゾノミチ)、中道(カヂ)、中渡瀬(カカワタセ)、馬渡(マワタリ)、道違(ミチガイ)、橋ノ口(ハシグチ)・渡瀬口(ワタセグチ)、坂ノ上(サカヌエ)、坂ノ下(サカシタ)、上坂元(カミカモト)、下坂元(シモカモト)

(5) 水利地名(36)。倉野(4): 井手元(イデモト)水流(ツル)。これは龍水(リュウスイ)と読むそうです。樋渡(ヒワシ)。塔之原(16): 井手元(イデモト)落水(オミズ)、落ヶ免(オチガメン)、里樋脇(サトヒキ)、上高樋(ミタヒ)、中高樋(カナヒ)、水流(ツル)、中岳堀(ナカダケボリ)、今度は樋之口(ヒノクチ)と読みます。樋(ヒ)と樋(テ)を使い分けています。樋ノ本(ヒノモト)・樋掛(ヒカヒ)・樋脇水流(ヒワキツル)、風呂ノ元(フロモト)、溝添(ミヅソエ)、山ノ堀(ヤマノホリ)、平瀬(ヒセ)。

市比野(16): 井川元(イガリモト)、井手上(イデウエ)井手口(イデグチ)、井手段(イデダン)、十合水

(ジュウコウミズ)、下井手(シモヒデ)、垂水(タリミズ)樋ノ口(ヒノクチ)、樋之元(ヒノモト)、樋掛ケ段(ヒカヒタダン)、水無(ミズナシ)、水引(ミズヒキ)、溝段(ミヅダン)、溝下(ミヅシタ)、樋ノ下(ヒノシタ)、上井手段(ヒメダン)。

(6) 人名・職掌地名(9)。塔之原(7): 小丸(コマル)・幸桑丸(コウツカガマル)、大丸(オマル)、六郎丸(ロクロウマル)、矢太郎(ヤタロ)、早稻田丸(ワセタマル)、伊勢ヶ迫(イセガサコ)。これは二つ考えられると思うのです。女性の名前あるいは〇〇伊勢守が関係して開墾された土地あるいは伊勢信仰に関する地名。迷っています。市比野(2): 九郎迫(クロウサコ)・藤九郎(トウクウ)

(7) 開発地名(18)。「添」とか「園」とか「開」とか、そういうものを考えました。塔之原(8): 川添(カワツエ)、上川添(ガミカワツエ)、白和園(シワリツ)、田代耕地(タシロコウチ)、大堀(オホリ)、村子田耕地(ムラコタコウチ)、祢礼北耕地(ネレキタコウチ)、諏訪園(スワゾノ)。

市比野(10): 上園(ウツツノ)、川添(カワツエ)、楠八重(クスバエ)、下園(シモツツノ)、下開(シモヒタキ)、新開(シカイ)、新開前(シカイマエ)、中園(カツツノ)開(ヒタキ)、西園(ニシツツノ)。

(8) 職業・産業地名(41)。倉野(5): 上器屋(カミキヤ)、上木場(カミバ)、中木場田(カカバタ)これは文字が脱けています。次も「田」が付きます。上木場田(カミバタ)、下木場田(シモバタ)。塔之原(14): 石ノ迫(イシノサコ)、石切り場(イシキリバ)、石切ケ平(イシキリカヒラ)、芋洗(イモアライ)金具(カナケ)と読みます。金具下(カナケシタ)、金具尻(カナケシリ)、金竹元(カネケモト)、上木場(カミバ)、下木場(シモバ)、木場田(コバタ)、平木場(ヒラコバ)、土取(ツチリ)、金具谷(カナケタニ)。市比野(22): 漆添(ウルシツエ)、上木場(カミバ)木場田(コバタ)、木場山(コバヤマ)、木場原(コバハ)

）、平木場（ヒコバ）、木場迫（コバサコ）、金床石（カトコシ）、金吹ヶ段（カネキガタソ）、鉄山（テツヤマ）土取（ツトリ）、集ヶ段（ツミリガタソ）、豆漬（マツケ）中木屋（ナカヤ）、棚場平（ハシバヒラ）、棚場（ハセバ）萩木場（ハギコバ）、熊鹿倉（クマカラ）、大鹿倉（オカラ）、小鹿倉（コカラ）、片鹿倉（カタカラ）、小鹿倉平（コガカラヒラ）。鹿倉（狩倉）は狩猟区じやないかなと思っています。

（9）田畠地名（42）。倉野（8）：魚田（ウオタ）、兎田（ウサギタ）、牛畠（ウシタ）、大田（オオタ）、迫田（サコタ）、包田（ツミタ）、平畠（ヒラタ）、間伏田（マフシタ）。塔之原（17）：饅田（ウナギタ）、小田（コタ）、上苗代田（ガニエシタ）、楠田（クヌタ）、後藤畠（コトウバタケ）、蘭田（ソノタ）、園畠（ソノタ）、羽子田（ハネタ）、平畠（ヒラタ）、平田（ヒラタ）、畠田（ハタケタ）、深田（フカタ）、藤田（フジタ）、掘田（ホリタ）、前田（マエタ）、村子田（ムラコタ）、山畠（ヤマタ）。市比野（17）：池田（イケタ）、兎田（ウサギタ）、入田（イタ）、帶田（ヒビタ）、小良田（ウルシタ？・コラタ？）、柿木田（カキタ）、迫田（サコタ）、迫畠（サコハタケ）、砂田（スダ）、蘭田（ソノタ）、鶴田（ツルタ）、鍋田（ハベタ）、中麦田（ナムギタ）、原田（ハラタ）、平田（ヒラタ）、深田（フカタ）、前田（マエタ）

（10）瑞祥地名（2）。塔之原の幸光（ココウ）、意味は判りません。吉原（ヨシハラ）。

（11）景観地名（120）。【原】とか「迫」とか「山」、そういうのが出て来ます。倉野（13）：小原（コバル）、大田崎（オオタザキ）、大毛野（オカノ）、小毛野（オカノ）、大山口（オオマグチ）上原（ウエハラ）、要目山（カメヤマ）、志野目山（シメヤマ）、奈良ヶ迫（ナラカサコ）、永田山（カタヤマ）、井手平（イヒタ）、宇都（ウト）、片久見（カタミ？）。塔之原（45）：池ノ迫（イケサコ）、池ノ段（イケノタソ）、押ヶ迫（オシカサコ）、上ノ原（ウエハラ）、井手段（イヒタ）、片久見（カタミ？）、内野々（ウチノ）、小原

（コバラ）、釜迫（カマカサコ）、貫ノ迫（スキサコ）、倉谷（クラタニ）、小ヶ嶺（コガミネ）、小森（コモリ）、栗ヶ迫（クリカサコ）、篠目山（シメヤマ）、大瀬戸（オオセト）、杉ノ迫（スギサコ）、園田迫（ソノタサコ）、下原（シモハラ）、茶目山（チャメヤマ）、長迫（カサコ）、西ノ迫（シノサコ）、野稻原（ノイハラ）、萩窪（ハギクボ）、平ヶ谷（ヒラカタニ）、杉ヶ迫（スギカサコ）、前床（マエコ）、前段（マエタソ）、前平（マエヒラ）、豆迫（マメサコ）、目山（メヤマ）、向井原（ムカヒラ）、百木野段（モモキタソ）、餅ノ迫（モチサコ）、山中迫（ヤマカサコ）、湯ノ迫（ユサコ）、横山（ヨコヤマ）、笹ヶ迫（ササカサコ）、小竹ヶ迫（コタカサコ）、小野原（オハラ）、大原（オオハラ）、迫原（サコハラ）、宇都（ウト）、菅野（スゲノ）。

市比野（62）：穴原（アナハラ）、荒田迫（アラタサコ）、穴川（アカガタ）、阿母谷（アボタニ）、池野迫（イケサコ）、井川谷（イカワタニ）、飯田迫（イイタサコ）、宇都（ウト）、宇都口（ウトクチ）、宇都前（ウタエ）、上ノ段（ウエノタソ）、小野（オノ）、大平原（オオヒラバル）久留主（クルス）、尻無（シリナシ）、小嶺（コミネ）、小原（オバラ）、小西俣（コニシマタ）、小永山（コナカヤマ）、小道迫（コミサコ）、小野段（オタソ）、久平（ヒヒラ）差迫（サシコ）、下湯迫（シモユサコ）、白樺ヶ段（シラカシカタソ）、新ヶ倉（シンカケラ）、草木段（クサキタソ）、仙名原（センミヨウハル）、上城原（カミシヨウハル）、須田迫（スタサコ）、須田牟礼（スタムレ）、白坂（シラサカ）高原（タカハラ）、白石（シライ）、竹山（タケヤマ）、妻ヶ迫（ツマカサコ）、田平（タヒタ）、常迫（ツネサコ）、竹狭間（タケハサマ）、鍋（ハベ）、鍋田原（ハベタハラ）、中ノ段（カノタソ）、中手段（ナヘタソ）、田中田間（タカタマ）、田中平（タヒヒラ）、永尾（カガオ）、鍋田平（ハベタヒラ）、鍋田迫（ハベタサコ）、長迫（カサコ）、永野（カガノ）、永山（カガヤマ）、長谷（カガタニ）、野久平（ノヒヒラ）、野中（ノナカ）、深迫（フカサコ）、古迫（フルサコ）、船迫（フナサコ）、前迫（マエサコ）、三俣迫（ミタサコ）、湯平（ヒヒラ）、山瀬戸（ヤマセト）、菅野（スゲノ）

（12）位置地名（167）。倉野（34）：宇都口（ウトクチ）、上永田（カミカタ）、上馬渡（カミマツリ）、上大島（カミオシマ）、上浦田（カミウタ）、上岩戸（カミイド）、木下（キシタ）、久住原下（クシユウバカルタ）、迫脇（サコキ）、下永田（シモカタ）、下馬渡（シモマツリ）、下大島（シモオシマ）、下岩戸（シモイド）、下浦田（シモウタ）、下原（シモハラ）、西ノ川（シノカリ）、野中（ノナカ）、中宇都（カウト）、西小原（ニコバル）、東小原（ヒガシコバル）、松ノ元（マツノモト）、山口（ヤマグチ）、山尻（ヤマシリ）、山内（ヤマウチ）、後藤（コトク）、山下（ヤシタ）、上手（カヒテ）、上手元（カヒテモト）、中原（ナカハラ）、内菅（ウチスカ）、外菅（ソトスカ）、高菅（タカスカ）、菅宇都（スカウト）、大住原（オオスミバル）、塔之原（72）：池頭（イケカシラ）、池尻（イケシリ）、池ノ尻（イケノシリ）、岩元（イモト）、岩元原（イモトバル）、岩平（ヒヒラ）、岩下（イリシタ）、岩下尻（イリシタシリ）、内水地上（ウチミズチカミ）、上水地（カミミズチ）、下水地（シモミズチ）、中水地（ナガミズチ）、上ノ迫（ウエノサコ）、上之原元（ウエハラモト）、上祢地原（カミネシバ尔）、後原（ウシロバル）、後迫（ウシロサコ）、大丸上（オオマルウエ）、上修理田（カミシュウリタ）、上中（カミカ）、上三島（カミシマ）、下三島（シモシマ）、田代宇都（タシロウト）、上樋ノ口（カヒノチ）、下高樋（シモタヒ）、上山之口（カミヤマノチ）、諏訪下（スリシタ）、諏訪園下（スリツノシタ）、上長田（カミカタ）、下長田（シモカタ）、巣垣迫（スカキサコ）、北迫（キタサコ）、現王下（ケンオウシタ）、境谷（サカイタニ）、迫下（サコシタ）、猿喰尻（サルクイシリ）、坂下尻（サカシシリ）、下白毛（シモシラゲ）、下溝（シモジ）、白毛宇都（シラゲウト）、台尾（タイオ）、竹下（タケシタ）、田ノ上（タノエ）、竹下尻（タケシシリ）、竹下ノ湯（タケシタユ）、中島（カシマ）、鍋下（ハベシタ）、中野原（カノハラ）、西ノ原（ニシハラ）、西迫尻（ニシサコシリ）、西木原（ニシキハラ）、東木原（ヒガシキハラ）、南木原（ミツキハラ）、野中（ノカ）、棚ヶ下（ハセカシタ）、平田尻（ヒラシリ）、前田下（マエシタ）、溝下（シモシタ）、南原（ミナハル）、山尻（ヤマシリ）、山中（ヤマカ）、山下（ヤシタ）、山下尻（ヤシタシリ）、前段尻（マエンタシシリ）、向原（ムカヒラ）、前迫（マエサコ）、山之口（ヤマノチ）、山口（ヤマグチ）、山口下（ヤマグチタ）、下山口（シモヤマグチ）、市比野（61）：石脇（イシキ）、岩下（イリシタ）、内田下（ウチシタ）、上原（ウエハラ）、牛鼻（ウシバナ）、小川本（オカリモト）、置石（オキシ）、上湯之元（カミユモト）、湯ノ元（ユモト）、湯ノ上（ユウエ）、上湯原（カミユハラ）、湯ノ道（ユハシ）、湯ノ迫（ユサコ）、湯ノ牟礼（ユムレ）、下ノ湯（シモユ）、下湯原（シモユハラ）、上宇津良（カミツラ）、上牟田（カミムタ）、前牟田（マエムタ）、小永山（コナカヤマ）、上逆瀬（カミカセ）、下逆瀬（シモカセ）、上小原（カミコバル）、上鶴田（カミルタ）、下鶴田（シモルタ）、北ノ鼻（キタハナ）、越ノ下（コシシタ）、前田尻（マエシシリ）、迫尻（サコシリ）、下田代田（シモタシロタ）、下前田（シモマエタ）、下下野（シモシモ）、下ノ段（シモタソ）、竹下（タケシタ）、田尻（タジリ）、田中（タカ）、長迫尻（カカサコシリ）、中尾（ナカオ）、中深田（ナカカタ）、西ノ迫（ニシサコ）。西ノ平は西平（ニシヒラ）の間違いです。野平（ヒヒラ）、西ノ俣（ニシマタ）、下馬渡迫（シモマツリサコ）、道下（ミシタ）、向湯（ムカユ）、平野（ヒヒラ）、平田下（ヒラタシタ）、向迫（ムコウサコ）、平ノ下（ヒラシタ）、松ノ下（マツシタ）、山下（ヤシタ）、小山下（コヤシタ）、山ノ口（ヤマノチ）、山ノ上（ヤマノエ）、山口（ヤマグチ）、山中（ヤマカ）、下山中（シモヤマカ）、山ノ上原（ヤマノエハラ）、上山中（カミヤマカ）、和田脇（ワタキタ）、（13）形状地名（15）。倉野（4）：深迫（フカサコ）、割石（リイシ）、鞍岡（クレオカ）、船ヶ迫（フナカサコ）、塔之原（6）：鍋原（ハベハラ）、野石（ノイシ）、狭間（ハサマ）、丸岡（マルオカ）、丸山（マルヤマ）、鍋（ハベ）、市比野（5）：戸板野（トイタ）、丸山（マルヤマ）、三角（ミスミ）、横石（ヨコシ）、石島（イシシマ）。

(14) 目印地名(47)。倉野(6)：松原(マツハラ)
柳原(ヤナギハラ)、笛嶺(ササミネ)、笛ノ脇(ササノワキ)
松ヶ迫(マツガサコ)、鶴ノ瀬(ウノセ)。

塔之原(25)：榎水流(エノキツル)、栗山(クリヤマ)、
桜木(サクラギ)，桜島(サクラシマ)，桜馬場(サクラバハ)
白坂(シラカ)、鷹ノ巣(タカノス)、萩ノ尾(ハギノオ)
萩原(ハギハラ)、柳原(ヤナギハラ)、躑躅ヶ迫(ツツジ
ガサコ)、五本松(ゴボンマツ)、笛平(ササヒラ)、白岩(シ
ロイ)、黒岩(クロイ)、松ヶ岳(マツガタケ)、柚木谷
(ユノキタニ)、杉馬場(スギバハ)、菖蒲ヶ段(ショウブ
ガダン)、大完(タイカン)、「オシシ」とかいうよう
で後で話があると思います。奈木野(ナキ)、
久見迫(クミコ)、蛇山(ヘビヤマ)、飛(トビ)、飛
川地(トビカケ)。「飛」が判っていないのですが、
「鳶」かなと思っています。信仰地名かな
なと思ったりします。

市比野(16)：榎本(エモト)、五本松(ゴボンマツ)、
笛原(サハラ)、タビノ木(タビノキ)。これは意味
不明なんですが一応「木」がありましたので
あげてあります。飛松(トビマツ)、飛野(トビノ)
島廻(シマタケリ)、梅木(ウメ)、松山(マツヤマ)、松ヶ
平(マツカヒラ)、柳迫(ヤナギサコ)、櫻ヶ迫(サクラガサコ)
松ヶ迫(マツガサコ)、菖蒲ヶ段(ショウブガダン)、小
椎中尾(コシケカオ)、須田ノ木(スダノキ)。

(15) 浸食・崩壊地名(6)。塔之原(3)：猿喰
(サルクイ)、水洗(ミズアライ)、鶴飯(ツルメシ・ツルバミ)。
この辺はちょっと判りませんが、「ツルメシ」で
一応振り仮名が打ってありました。

市比野(3)：ホキノ下(ホキナシ)、ホキ山(ホキヤマ)
石踊(シオトリ)。ホキは崩壊地名かなとちょっ
と迷っています。

(16) 川原・湿地地名(42)。倉野(1)：水久保
(ミズクボ)。塔之原(21)：板井川(イタイカワ)、
池取(イクトリ)、池平(イケヒラ)、岩頭(イガシラ)、内
水地(チミズチ)、釜牟田(カマムタ)、桑池(クイケ)、

黒瀬(クロセ)、沢渡原(ザワタリハル)、沢牟田(ザワムタ)
谷川(タニガワ)、田代(タシロ)、知浦川(チウカワ)、
滑(カメリ)、無田(ムタ)、牟田平(ムタヒラ)、赤仁田
(アカニタ)、上奥牟田(カミオクムタ)、下奥牟田(シモオクムタ)
上手水地(カミテミズチ)。

市比野(20)：宇津良(ウツラ)、池宇津良(イケウツラ)
大川地(オカワチ)、大川地谷(オカワチタニ)、蘭牟田
川地(ラムカワチ)、狩川(カツカワ)、借水(カリミズ)、
桑水流(クワツル)、川洗(カワラライ)、小野田間(オノタマ)
白奈目利(シロメリ)、水流(ツル)、水流口(ツルゲチ)
中田間(ナタマ)、中須(ナス)、野川(ノガワ)、牟田
(ムタ)、山川(ヤマガワ)、山仁田(ヤマニタ)、吉牟田
(ヨシムタ)。

(17) 伝承地名(7)。塔之原(5)：貉ヶ段(ムジ
カガダン)、貉ヶ原(ムジナガハラ)、蘚ヶ原(サンガハ
ラ)、上山御子(ウエノコ?)と読むそうです。下山
御子(シモヤマコ)。御子というのは神社に仕える
巫女か?というような指摘もあります。

市比野(2)：姥ヶ段(ウバカガダン)、馬口迫(マグチ
サコ)。

(18) 意味不明(23)。倉野(1)：江鳴(エカキ)。
崩壊地名かなと思ったのですが。

塔之原(6)：樅目(カバメ)、子田形(コタカタ)、反
ヶ嶺(タンガミネ)、祢礼北(レキタ)、祢地山(ネジヤマ)
鳥口(トリゲチ)。

市比野(16)：叶原(カエハル)、当別戸(トウベット?)
火打小野(ヒカオ)、子これ(コレ?)、光桑次(コ
クリツキ?)、午除(コヨケ?)、差寄(サシヨリ)、仙名
(センヨウ)、タコラ、知石(チシ)、当別迫(トハツ
サコ)、仁当地(ニトウチ)、野付(ノツケ)、ノマト原(ノ
マトハラ)、平玉(ヒラタマ)、山新ヶ原(ヤマシカハラ)。

(19) 擬音地名(3)。倉野(1)：轟(トロロ)。

市比野(2)：轟上(トロウエ)、轟元(トロモト)。

【質疑応答】

馬口・野付

平田 何か質問があつたら出して下さい。
うーん、後から行きましょうね。野付(ノツケ)
というのは沢山出て来るのですが、よく判り
ません。あちこちで出て来ます。ご存知の方
はないですか。

永坂 地名の数はやっぱり小字地名を探
た方がいいですか。

平田 数が多い方がよいでしょう。

永坂 ああ、そうですか。

平田 えーと、17. 伝承地名で、市比野の
馬口は「バケチ」ですよ。

永坂 バクチ?

平田 あちこちで博打を隠れてやってるよ
うです。吉野にも馬口川があります。馬口は
当て字です。

伊勢・大完・土器屋

永坂 伊勢ヶ迫というの?

平田 判りません。人の名前から来たもの
でしきれけど。伊勢神社であれば、当然その
ようになるでしょう。14. 目印地名、塔之原
の下から2行目。大完(オシシ)。「タイカン」と
読みましたか。

永坂 ダイカン。

平田 「完(シ)」でしょう。大きな猪(イシ
シ)とか鹿(カシシ)のこと。大宍(オシシ)の誤写。

完解(シトキ)という地名があります。大きな
猪がいるということでしょうから。それから
12. 人文地名とされました。人文地名とい
うのは1~12の全体が人文地名になるのですが。

永坂 これは位置地名とした方がよいですか?

平田 その方がいいのじゃないですか。

永坂 決まった分類があるのですか。

平田 まだはっきりは決めていません。

永坂 このような番号の分類でやつていが
れますか。

平田 このような形で押さえていこうと思
っています。それから、8. 職業・産業地名。

倉野の上器屋と読まれましたが、これは土器
屋のミスじゃないでしょうか。土器屋とい
う地名は多いです。

風呂

平田 5. 水利地名、塔之原の最後の行に
風呂ノ元とあります。風呂」というのは
風呂のような形の盆地状になつていて
蒸し暑い所です。これは水利地名じやなくで
何になりますかね。自然の景観地名の方が
よいでしょうね。風呂のような形の地形。
景観地名に入れた方がよいでしょう。これは
私の指導ミスです。他にありませんか。

永坂 景観地名とする場合、ダブったのは
景観地名とする。例えば、宇都口とい
うのは景観地名で出しておいて、また別にこちら
の位置地名として出す時は・・・。

平田 二度出す時は、二度出したことを示
すためにカッコに入れた方がいいのじゃない
ですか。

永坂 ああ、カッコで。

平田 そうでなければ、前回繁昌君が位置
地名として分類した上・中・、下とか東・西
・南・、北。これらは考え方によつては面倒
くさいからそのように分けた分割地名にすぎ
ない。そういうような地名が多いという指摘
は構わないのだけど。

永坂 最初の方に出しておいてもいいわけ
ですね。

平田 分割地名として整理した方がいいか
もね。位置地名よりは。

永坂 「タビノ木」というのは何か意味が

あるのですか。

平田 私も判らないで聞こうと思っていましたが。これ「分類に当たって」は説明されるのですか？

永坂 それは読んで頂ければよいのです。説明資料として、地名の分類で迷ったことが書いてあるのです。

平田 ああ、そうですか。判りました。

阿母と養母

三善 横脇町の位置や地名から見て、横脇町には古代の文化の流れというものはどっちから最初入って来たのか？西の川内、東の市来、南は冠嶽のそばを通って串木野、北は入来・蒲生、その辺は考えられませんか。

永坂 先程、櫟野駅のことが出てきましたね。私は勉強していないんですけど、櫟野駅についての二つの説、あれどどっちが川内につながるのか。古代に関係があるような地名を探したのですけど手がかりがないのです。

平田 横脇の歴史を言えば、入来院の中に含まれていて、後に横脇郷として独立するの江戸時代（万治2年：1659）になってからです。

三善 阿母峠（アボトウケ）がありますね。阿母峠にまつわる伝説とか、そういうものはありませんか。それと、地名からみて東市来町に養母（ヤボ）という所がありますね。養母と阿母は、つながりはありますか。

永坂 阿母については「崖（カケ）」と見たのです。串木野から行けば、もの凄く険しい所です。今はそのように考えています。養母については考えたことがありません。

平田 阿母は判りません。「アボ」という古い言葉がありますか？

三善 分類すれば地形的なものですか？

平田 さあ、ヤボは「藪（ヤボ）」に近いのじやないですか。

永坂 そのヒントは地名辞典があります。それを書いたのが小幡という人ですか、あの人が書いた『鹿児島の地名』（『鹿児島地名考』）。先日その地名辞典をみたのですが、そのようなことを書いてありました。

平田 小幡さんもそうですけど、いろんな地名辞典が出ています。いろんな解釈があってそれぞれ難しい解釈をしています。

永坂 あの方の意見というのは「ア」とか「ボ」とか離して説明しているのです。アは何だ、ボは何だ、と。それで参考にはならんと思って一応置いているのです。「アボ」は何だという意味はないのです。

平田 そういう「ア」とか「ボ」に分けてそれを解釈したら、皆勝手な解釈になるので反って地名研究のマイナスになっていると思うのです。地名辞典と銘打ったものは、沢山あります。何か他にありませんか。

櫟野駅
繁昌 先程の櫟野駅ということで考えるのですが、またこの資料にもありますけど、平田先生はこの中で、川内の薩摩国府との道はどの道だと、どういうふうに考えられるのですか。山の中を通るのか畑の中を通るのか

平田 うーん、何というかな。そこまでは辿ったことはありませんけど。川内に石神神社というのがありますね。「オガタマの木」で有名な所。あそこに出で来る道は中世文書に出て来るのじやないの。五味先生があの辺のことを考証されていたと思う。市比野を通って石神神社に出で来る道。そして平佐の方に抜ける道というものが直線的になるのじやないですか。そうすると市比野の町を通って

いるということになりますね。それから蒲生と市比野の間を結ぶのは、あれは何峠だったかな？

繁昌 新留。

平田 新留峠を通っている。新留峠の上には「堀切」が残っています。薩摩国府と大隅国府の間の駅路について現段階で確かなことは田後駅が未だ判らないということ。石神神社辺りを通ったということは中世文書から見当が付く。それから市比野という集落の存在を考えたら、市比野を通っているでしょう。市野々説はまあ「市」が開かれた場所かも知れないけど、あまり痕跡がない。今後の発掘調査によって新しいデーターが出て来れば、また解釈が違つて来るでしょうけど。市野々の場合は市比野に比べて他に抜ける道というのがあまり発達していない。それから新留峠を通ったことは間違いない。蒲生に出て来て、船津での発掘調査の結果、道路跡が検出されています。船津までは経路がはっきりしているが、加治木からどこへ抜けるのか。これも発掘調査によって確かめなければならないと思います。以上述べた道が地図の上で、大体直線的になるのじやないですか。

鹿倉（狩倉）

肱岡 一番上の右側、職業・産業地名のところ、鹿倉（カクラ）でしょうか。

平田 鹿倉（カクラ）です。

肱岡 これは何の職業でしょうか。

平田 殿様が狩の時に泊まった場所。そういう所に鹿倉・狩倉があるのです。そして、殿様が「狩」をするということで禁猣区になっている場合が多いのです。そういう「狩」ということから職業というふうにとらえたのです。

肱岡 「狩倉」と書いたものもある。

平田 同じです。鹿倉と狩倉は。狩倉山というのは沢山あります。

札元・札立

繁昌 2.集落地名。市比野の所に札元・札立というのがありますが、これはどの辺ですか。多分、距離を測る基点になると思うのです。場所はどの辺になるのですか。そこら辺に「駅」とかいうことを考えることも出来るのでは。

平田 なるほど。札立の場所はどの辺になるかということ。これは字総図を見なければ判らないね。役場が持っているものでなければ判らないと思う。

永坂 この地図は大字は四角で囲ってあります。小字で出て来たのは、線（サド・ライン・アンダーライン）を引いてあります。

豆漬・桜島

納 8.産業地名、市比野の下から2番目豆漬（マツケ）とありますね。これは正月のオヤシを漬けた所と解釈してよいですか。

平田 オヤシ漬場です。

納 それから「桜島」というのがどこかあったですね。桜島は此處の桜島と関わりがあるのですかね。

平田 移ったかも知れません。

納 移って来た、と。

永坂 ちょっと珍しいですね。

納 その前後に桜馬場とか桜木とあったもんだから。

永坂 ずっと探したのですが、何も書いてないのです。文化財審議委員にも聞いたのですけど。

納 最後のページ、14.のところに桜木・

桜島・桜馬場とあります。此處と関係させていいですね。

平田 桜島の人たちはあちらこちらに移っていますからね。

宇都・ホキ

三善 宇都というのは地形的なものですか

平田 地形的なものです。分布的に見るとシラス台地が浸食されて、上の方が「宇都」下の方が「迫」につながってきますから。狭い部分が「宇都」、広い部分が「迫」と考えていいのじゃないか。

永坂 「ホキ」はどう解釈するのですか。

平田 ホキというのは、シラス台地が抉られて出来る深い谷があります。大隅の方では「ホキ突っ込んだ」という言葉があります。酒の席で「お前はそげん事を云うと、ホキ突っ込んだね」と、にらみつけられます。そんな所に突っ込まれたら一人じゃ上がって来れませんからね。そういう怖い所です。浸食されたシラスの深い谷が「ホキ」です。

三善 濑戸内は?

平田 濑戸内。それはちょっと違う。屋敷の後にある狭い地形を瀬戸といふのでしょうか?

高城・大前氏・田後駅

大田 2.に高城(タカシヨウ)という所がありますが、高城はやっぱり城跡として理解されているのですか。

永坂 そうですね。

大田 そうすると、いつ頃の城跡ということになりますか。

平田 大体、16世紀頃でしょうね。城が造られるのは戦国時代でしょうから。

大田 戦国時代? 鶴田の三百年前に書かれた藏持帳? の中に、湯田との境に高城という

のが出て來るのです。その近くに湯田城があるのですが湯田城よりも少し高いのです。そこは祇答院に入るのですかね。それで湯田城が最初は高城じゃないかと思うのです。

平田 ああ、そうですか。高城というのは各地にありますよね。

大田 高城は大前氏の城じゃないかと思うのです。大前氏が時吉城を造る以前に造ったのじゃないかと思うのです。

平田 大前氏が出て來るのは15世紀後半でしょうからね。戦乱に巻き込まれるわけですから、南北朝から戦国時代ですね。南北朝になれば14世紀でしょうけれども(後記:大前氏は14世紀半ばに史料上から姿を消す)。その頃、南九州は足利尊氏に巻き込まれたのかな。

大田 大前氏は祇答院とやり合ったのではないか。

平田 大前氏の時代のことは、なかなか文献的にも確かめられないのです。地元の人たちの言い伝えをどこまで収集するかということなんでしょうけど。

大田 横脇町にはいろんな流れの話があるんですから。田後駅から平佐の方に来て薩摩国府の方に行ったという。市比野から横脇に出て田後の方に行った、と。

平田 色々あるでしょうが、田後駅はどこか、まだ決め手はないのですけど。

大田 此処だということで、何回も集団で行ったことがあるのですけど。

平田 どこへ連れて行かれたのですか。

大田 空港道路の近くでちょっと山に入ります。倉野を出て塔之原へ行く・・・

平田 倉野に出るのですか。

大田 司野(ツカノ)を通って倉野。司野と

いう地名も、国府にいた人たちから來ているのじゃないかと云われている。

平田 判りました。今、話されたことは薩摩国府の有力な在庁官人であった大前(おおくま)氏についてです。大前氏が東郷の斧渕に移って、その一帯に司野という地名が出来るのです。その時は川内にあった国府という形じゃなくて東郷に在庁官人が移って土着豪族となり、司野一体で勢力を振るっていた。当然それと倉野を結ぶ道路はあったでしょう。だからと言って、そのルートが元々からの駅路であったという証明にはならないと思うのです。

時間が来たようですが、次回は上野さん、入来町はO.K.? 3月例会。

上野 3月まではスケジュールが詰まっています。

平田 誰かいないかな。大隅より薩摩の方をまず片づけましょう。

上野 例えば宗教地名とかありますけど。この地名が出て来れば宗教地名という辞典が

あればですね、パソコンにインプットするの楽なんんですけど。

平田 肱岡さん、宮之城はやれますか。肱岡 3月は、ちょっと。

永坂 ついでですから鶴田をしましょう。

平田 時間が来ましたが、紹介しておきます。2月7日(土)、鹿大史学会で私が多祢国府を発表します。その次は3月例会の時でもよいのですが、新人物往来社が『地名を語る』というのを出します。その原稿を求められ「国府」というテーマを与えられました。それで「薩摩と大隅と種子島の場合」ということで原稿を出しました。3月20日発売される予定です。地名で全時代を取扱うのです。

最初が「藤原京・平城京」、その次が「長岡京・平安京」、そして「国府」で南九州の薩摩・大隅・種子島が日本全国の国府を代表することになります。種子島の国府は南の方に落ち着きそうです。

次回も永坂さんに「鶴田の地名」をお願いします。今日はこれで終ります。

樋脇町の地名 (その1)

大字 倉野		※は集落、他は小字。ゴシック体は明らかな誤読を修正したもの。			
※ 木下	きした	32 上岩戸	かみいわと	67 西ノ川	にしかわ
※ 上手	かみで	33 摺橋	かけはし	68 野中	のなか
※ 笹嶺	ささみね	34 木下	きした	69 奈良ヶ迫	ならがさこ
※ 山口	やまぐち	35 久住原下	くじゅうばらした	70 中宇都	なかうと
1 石塚	いしづか	36 鞍岡	くらおか	71 永田山	ながたやま
2 井手平	いでひら	37 小原	こばら	72 中原	なかはら
3 井手元	いでもと	38 小毛野	こげの	73 中木場田	なかこばた
4 魚田	うおた	39 後藤	ごとう	74 西ノ丸	にしのまる
5 宇都	うと	40 迫田	さこだ	75 西小原	にしこばる
6 宇都口	うとぐち	41 迫脇	さこわき	76 野久尾	のくお?
7 鶴ノ瀬	うのせ	42 笹嶺	ささみね	77 橋ヶ丸	はしがまる
8 兎田	うさぎた	43 笹ノ脇	ささのわき	78 羽山	はやま
9 牛畠	うしはた	44 下永田	しもながた	79 八幡山	はちまんやま
10 上原	うえはら	45 下馬渡	しもまわたり	80 平瀬	ひらせ
11 内菅	うちすが	46 下大島	しもおおしま	81 平畠	ひらはた
12 江鳴	えなき	47 下四拾田	しもしじゅうでん	82 東小原	ひがしこばる
13 大田	おおた	48 下岩戸	しもいわと	83 樋渡	ひわたし
14 大田崎	おおたざき	49 下浦田	しもうらた	84 船ヶ迫	ふながさこ
15 大毛野	おおけの	50 志野目山	しのめやま	85 深迫	ふかざこ
16 大山口	おおやまぐち	51 城ヶ迫	しろがさこ?	86 船戸口	ふなとぐち
17 鬼ノ元	おににもと	52 下原	しもはら	87 水久保	みずくぼ
18 土器屋	どきや	53 下木場田	しもこばた	88 松原	まつばら
19 振(囲)かこい		54 菅宇都	すがうと	89 松ヶ迫	まつがさこ
20 上永田	かみながた	55 諏訪上	すわうえ	90 松ノ元	まつのもと
21 上馬渡	かみまわたり	56 瀬戸口	せとぐち	91 間伏田	まぶしだ
22 上手	かみで	57 外菅	そとすが?	92 宮ノ脇	みやのわき
23 上手元	かみでもと	58 谷口	たにぐち	93 宮田下	みやたした
24 片久美	かたくみ	59 辰口	たつぐち	94 山口	やまぐち
25 上大島	かみおおしま	60 高菅	たかすが?	95 山尻	やまじり
26 上四拾田	かみしじゅうでん	61 立迫	たつさこ	96 山下	やました
27 上浦田	かみうらた	62 辻	つじ	97 山内	やまうち
28 上木場田	かみこばた	63 水流	つる	98 柳原	やなぎはら
29 観音迫	かんのんざこ	64 包田	つつみた	99 湯ノ神	ゆのかみ
30 要目山	かなめやま	65 薩	とどろ	100 龍水	りゅうすい
31 上木場	かんこば	66 鳥越	とりごえ	101 割石	わりいし

大字 塔之原		(総数 301)			
※ 永田	ながた	※ 旭	あさひ	28 後迫	うしろざこ
※ 鍋原	なべはら	※ 岩元	いわもと	29 後原	うしろばら
※ 卍礼	むれ	※ 本庵	もとあん	30 鰐田	うなぎた
※ 下牟礼	しもむれ	※ 下祢地山	しもねじやま	31 内野々	うちのの
※ 平田	ひらた	※ 祢地山	ねじやま	32 檜水流	えのきづる
※ 上金具	かみかなげ	※ 笹ヶ迫	ささがさこ	33 押ヶ迫	おしがさこ
※ 丸山	まるやま	※ 村子田	むらこだ	34 大堀	おおほり
※ 金具	かなげ	※ 上岩下	かみいわした	35 大迫	おおさこ
※ 下金具	しもかなげ	※ 岩下	いわした	36 小田	おだ
※ 木場	こば	※ 八幡	はちまん	37 大原	おおはら
※ 祢礼北	ねれきた	1 赤仁田	あかにた	38 大丸	おおまる
※ 小野原	おのはら	2 板井川	いたいがわ	39 大住原	おおすみばら
※ 田代	たしろ	3 池尻	いけじり	40 落水	おちみず?
※ 向田	むかえた	4 池取	いけとり	41 大丸上	おおまるうえ
※ 沢牟田	さわむた	5 池平	いけひら	42 大瀬戸	おおせど
※ 田代ニュータウン		6 池ノ尻	いけのしり	43 小野原	おのはら
※ 大原	おおはら	7 池頭	いけがしら	44 落ヶ免	おちがめん?
※ 狩集	かりあつまり	8 石ノ迫	いしのさこ	45 上祢地原	かみねじばら
※ 前床	まえとこ	9 石切り場下	いしきりばした	46 上修理田	かみしゅうりだ?
※ 西之原	にしのはら	10 井川道	いがわみち	47 植目	かばめ
※ 中島	なかしま	11 池ノ迫	いけのさこ	48 川添	かわそえ
※ 上之原	うえのはら	12 岩元	いわもと	49 上川添	かみかわそえ
※ 樋掛	ひかけ	13 岩元原	いわもとばる	50 上中	かみなか
※ 諏訪越団地	すわごしんだんち	14 井手段	いでだん	51 金具	かなげ
※ 本町	もとまち	15 岩下道	いわしたみち	52 金具下	かなげした
※ 三島	みしま	16 岩塚	いわつか	53 金具谷	かなげだに
※ 天神	てんじん	17 岩平	いわひら	54 金竹元	かねたけもと
※ 駅前	えきまえ	18 岩瀬	いわせ	55 上手川池	かみてかわいけ
※ 田間田	たまだ	19 伊穴口	いあなぐち	56 上水地	かみみずち
※ 水流	つる	20 池ノ段	いけのだん	57 上三島	かみみしま
※ 下村	しもむら	21 芦洗	いもあらい	58 上山御子	かみやまみこ
※ 庄内	しょうない	22 宇都	うと	59 上奥牟田	かみおくむた
※ 城内	じょうない	23 内水地	うちみずち	60 上樋ノ口	かみひのぐち
※ 上杉馬場	うえすぎばば	24 内水地上	うちみずちかみ	61 上高樋	かみたかひ
※ 杉馬場	すぎばば	25 上ノ迫	うえのさこ	62 上大坪	かみおおつぼ
※ 子田形	こたがた	26 上ノ原元	うえのはらもと	63 上木場	かみこば
※ 富本	とみもと	27 上之原	うえのはら	64 上山之口	かみやまのくち

大字 塔之原					
65	釜牟田	かまむた	102	笹平	ささひら
66	釜迫	かまさこ	103	迫原	さこはら
67	上長田	かみながた	104	迫下	さこした
68	北田間田	きたたまだ	105	坂下	さかした
69	切石ヶ平	きりいしがひら	106	沢渡原	さわたりはら
70	北迫	きたざこ	107	猿喰尻	さるくいしり
71	久美迫	ぐみざこ	108	沢牟田	さわむた
72	口之町	くちのまち	109	坂下尻	さかしたじり
73	桑池	くわいけ	110	桜木	さくらき
74	倉谷	くらたに	111	桜島	さくらじま
75	黒岩	くろいわ	112	修理田	しゅうりだ
76	栗山	くりやま	113	白坂	しらさか
77	栗ヶ迫	くりがさこ	114	陣ノ平	じんのひら
78	隈之城段	くまのじょうだん	115	城内	じょうない
79	黒瀬	くろせ	116	下山御子	しもやまみこ
80	楠田	くすだ	117	下水地	しもみずち
81	現王	げんのう	118	下三島	しもみしま
82	現王下	げんのうした	119	十文字	じゅうもんじ
83	幸光	こうこう	120	庄内	しょうない
84	梅ヶ迫	かこいがさこ	121	白和園	しらわその
85	子田形	こたがた	122	下高樋	しもたかひ
86	木場田	こばた	123	菖蒲ヶ迫	しょうぶがさこ
87	小丸	こまる	124	下長田	しもながた
88	小ヶ嶺	こがみね	125	新道迫	しんどうざこ
89	後藤畠	ごとうばたけ	126	下原	しもはら
90	小原	こばる	127	下大坪	しもおおつぼ
91	五反田	ごたんだ	128	下木場	しもこば
92	小市原	こいちばら	129	下山口	しもやまぐち
93	高屋	たかや	130	篠目山	しのめやま
94	小祢ヶ迫	こねがさこ	131	下白毛	しもしらげ
95	五本松	ごほんまつ	132	下溝	しもみぞ
96	幸桑丸	こうくわがまる	133	下奥牟田	しもおくむた
97	小森	こもり	134	白毛宇都	しらげうと
98	境谷	さかいだに	135	白岩	しろいわ
99	里樋脇	さとひわき	136	諏訪腰	すわごし
100	笹ヶ迫	ささがさこ	137	杉馬場	すぎばば
101	猿喰	さるくい (さるばみ)	138	菅野	すがの
			139	杉ノ迫	すぎのさこ
			140	諏訪園下	すわぞのした
			141	巣垣迫	すがきさこ
			142	末寺原	すえてらはら
			143	諏訪原	すわばる
			144	諏訪園	すわぞの
			145	瀬戸口	せとぐち
			146	銭亀	ぜにがめ
			147	園田迫	そのださこ
			148	惣陣	そうじん
			149	薙田	そのだ
			150	園畠	そのばた
			151	台尾	だいお
			152	高城	たかじょう
			153	谷川	たにがわ
			154	竹下	たけした
			155	田ノ上	たのうえ
			156	鷹ノ巣	たかのす
			157	竹下尻	たけしたじり
			158	大完	おおしし
			159	竹下ノ湯	たけしたのゆ
			160	田代	たしろ
			161	田代宇都	たしろうと
			162	茶屋堀	ぢゃばり?
			163	茶屋ヶ迫	ぢゃがさこ?
			164	茶目山	ぢゃめやま
			165	反ヶ嶺	たんがみね
			166	知浦川	ちうらかわ
			167	水流	つる
			168	土取	つちとり
			169	糜田	しときでん
			170	寺堀	てらぼり
			171	寺川	てらかわ
			172	天神馬場	てんじんばば
			173	飛	とび
			174	飛川地	とびかわち
			175	堂立	どうたて

大字 塔之原					
176	鳥井堂	とりいどう	213	平田	ひらた
177	鳥井ヶ迫	とりいがさこ	214	平木場	ひらこば
178	鳥口	とりぐち	215	横掛	ひかけ
179	奈木野	なきの	216	横之口	てのくち
180	中坂	なかさか	217	平田尻	ひらたじり
181	中岳堀	なかだけほり	218	横脇水流	ひわきつる
182	長迫	ながさこ	219	平畑	ひらはた
183	中高樋	なかたかひ	220	畠田	はたけた
184	中島	なかしま	221	平ヶ谷	ひらげたに
185	鍋原	なべはら	222	東木原	ひがしきはら
186	鍋下	なべした	223	東大坪	ひがしおおつぼ
187	中野原	なかのはら	224	横ノ本	てのもと
188	中大坪	なかおおつぼ	225	風呂元	ふろもと
189	滑	なめり	226	深田	ふかだ
190	中渡	なかわたり	227	藤田	ふじた
191	中水地	なかみずち	228	古屋敷	ふるやしき
192	二月田	にがつでん	229	弁天	べんてん
193	西ノ迫	にしのさこ	230	蛇山	へびやま
194	西之原	にしのはら	231	掘田	ほった
195	西迫尻	にしさこじり	232	松ヶ迫	まつながさこ
196	西田間田	にしたまだ	233	前田下	まえだした
197	貫ノ迫	ぬきのさこ	234	前田	まえだ
198	西木原	にしきはら	235	丸岡	まるおか
199	祢地山	ねじやま	236	丸山	まるやま
200	祢礼北	ねれきた	237	前床	まえとこ
201	野石	のいし	238	豆迫	まめさこ
202	野町	のまち	239	前平	まえひら
203	野稻原	のいねばら	240	宮ノ迫	みやのさこ
204	野中	のなか	241	溝添	みぞぞえ
205	八幡迫	はちまんさこ	242	宮ノ前	みやのまえ
206	羽子田	はねだ	243	溝下	みぞした
207	萩窪	はぎくぼ	244	亂橋	みだればし
208	戻ヶ下	はしがした	245	南原	みなみびらる
209	狭間	はざま	246	水洗	みずあらい
210	灰ヶ嶺	はいがみね	247	南大坪	みなみおおつぼ
211	萩ノ尾	はぎのお	248	妙甘ヶ宇都	
212	萩原	はぎはら			みょうけんがうと

大字 塔之原		大字 市比野		(総数 332)
286	桜馬場 さくらばば	※ 大平 おおひら	※ 第一下之湯	
287	諫訪下 すわした	※ 上藤本 かみふじもと	※ 小野 おの	
288	田代耕地 たしろこうち	※ 菖蒲ヶ段 しょうぶがだん	※ 小野天神 おのてんじん	
289	躑躅ヶ迫 つつじがさこ	※ 草木段 くさきだん	※ 椿团地 つばきだんち	
290	鶴飯 つるばん	※ 上牛鼻 かみうしばな	1 荒田迫 あらたざこ	
291	鍋 なべ	※ 下牛鼻 しもうしばな	2 穴原 あなはら	
292	祢礼北耕地 ねれきたこうち	※ 上野下 かみのした	3 穴川 あなかわ	
293	弁天ノ前 べんてんのまえ	※ 上段前 うえんだんまえ	4 天ヶ野 あまがの	
		※ 上段後 うえんだんうしろ	5 阿母ノ口 あぼのくち	
294	前段 まえだん	※ 阿母 あぼ	6 阿母谷 あぼだに	
295	前段尻 まえだんじり	※ 山中 やまなか	8 阿弥陀段 あみだん	
296	松ヶ岳 まつがさこ?	※ 原 はる	9 荒神ノ元 あらがんのもと	
297	南木原 みなみきはら	※ 上野久平 かみのくびら	10 庵ノ迫 あんのさこ	
298	村子田耕地 むらこだこうち	※ 下野久平 しものくびら	11 庵ノ宇都 あんのうと	
		※ 松山团地 まつやまだんち	12 集ヶ段 あつまりがだん	
299	向原 むかいはら	※ 新開 しんかい	13 蘭牟田川地 いむたかわち	
300	牟礼 むれ	※ 宇都 うと	14 石脇 いしわき	
301	牟田 むた	※ 城後 じょうのうしろ	15 石坂 いしさか	
		※ 城之下 じょうのした	16 池田 いけだ	
		※ 和田 わだ	17 石塚 いしづか	
		※ 大和 やまと	18 池ノ迫 いけのさこ	
		※ 指月苑	19 石踊 いしおどり	
		※ 指月ハイツ しづき?	20 池宇津良 いけうつら	
		※ サンビレッジ	21 井川谷 いがわだに	
		※ 竹山 たけやま	22 飯田迫 いいださこ	
		※ 矢筈野 やはずの	23 芋渡瀬 いもわたせ	
		※ 宮元 みやもと	24 岩下 いわした	
		※ 市比野60 いちひの60	25 石島 いしじま	
		※ 武田 たけだ	26 井川元 いがわもと	
		※ 笹原 ささはら	27 井手上 いでうえ	
		※ 向湯 むかいゆ	28 井手口 いでぐち	
		※ 向湯团地	29 一ノ宮脇 いちのみやわき	
		※ 上之湯 かみのゆ	30 宇都 うと	
		※ 中之湯 なかのゆ	31 宇都口 うとぐち	
		※ 下之湯 しものゆ	32 後小路 うしろこじ	
		※ 湯之元 ゆのもと	33 上ノ段 うえのだん	

大字 市比野					
34	内田下 うちだした	71	鹿栗山 かぐりやま	108	小道迫 こみちざこ
35	上原 うえはら	72	川添 かわそえ	109	小永山 こながやま
36	梅木 うめき	73	上城原 かんじょうばる	110	小山下 こやました
37	宇都良 うつら	74	上井手段 かみいでだん	111	井手段 いでだん
38	牛鼻 うしばな	75	片蓋 かたふた	112	宇都前 うとまえ
39	漆迫 うるしざこ	76	柿木田 かきのきだ	113	馬口迫 ばくちざこ
40	兎田 うさぎた	77	上坂元 かみさかもと	114	小野田間 おのだま
41	榎本 えのもと	78	借水 かりみず	115	辻迫 つじざこ
42	尾塚 おづか	79	上園 かみぞの	116	当別戸 とうべつと?
43	大鹿倉 おおかぐら	80	門貫 かどぬき	117	鍋田迫 なべたさこ
44	帶田 おびた	81	上小原 かみこばる	118	鍋田平 なべたひら
45	王子ノ下 おおじのした	82	上鶴田 かみつるだ	119	中手段 なかでだん
46	老ヶ段 おいがだん	83	上小永山 かみこながやま	120	下馬渡 しもまわたり
47	小川本 おがわもと	84	木屋ヶ迫 きやがさこ?	121	火打小野 ひうちおの
48	尾塚元 おつかもと	85	北ノ鼻 きたのはな	122	宮前 みやまえ
49	鬼ヶ瀬戸 おにがせと	86	久平 くびら	123	子これ ここれ
50	置石 おきいし	87	黒宮脇 くろみやわき	124	木葉山 こばやま
51	大平原 おおひらはら	88	熊越 くまごえ	125	胡麻迫 ごまざこ
52	大丸 おおまる	89	久留主 くるす	126	小野段 おのだん
53	大道迫 おおみちさこ	90	草木段 くさきだん	127	小鹿倉平 こがくらひら
54	大川地 おおかわち	91	桑水流 くわづる	128	光桑次 こうかつぎ
55	大川地谷 おおかわちだに	92	九郎迫 くろうさこ	129	小鹿倉 こかくら
56	上湯原 かみゆはら	93	久留主城 くるすじょう	130	権現原 ごんげんばら
57	上湯之元 かみゆのもと	94	熊鹿倉 くまかくら	131	小椎中尾 こじいなかお
58	神ノ原 かんのはら	95	楠八重 くすばえ	132	午除 こよけ
59	椿ノ下 かこいのした	96	川洗 かわあらい	133	小良田 こよしだ?
60	上山中 かみやまなか	97	現王 げんおう	134	鞘本 さやもと
61	金床石 かなとこいし	98	小野 この?	135	鞘下 さやした
62	桂丸 かつらまる	99	小嶺 こみね	136	桜ヶ迫 さくらがさこ
63	金吹段 かなぶきだん	100	古屋敷下 ふるやしきした	137	笹原 ささはら
64	上宇都良 かみうつら	101	小坂 こさか	138	差迫 さしさこ
65	叶原 かないばら	102	越ノ下 こしのした	139	迫尻 さこじり
66	上牟田 かみむた	103	小原 こばら	140	迫田 さこだ
67	上木場 かんのこば	104	五本松 ごほんまつ	141	三方塙 さんばうづか
68	片鹿倉 かたかくら	105	木場原 こばばる	142	迫畑 さこはた
69	狩川 かりかわ	106	木場田 こばた	143	坂ノ下 さかのした
70	上逆瀬 かみさかせ	107	小西俣 こにしました	144	坂ノ上 さかのうえ

大字 市 比 野					
145	差寄	さしより	182	仙名原	せんみょうばる
146	新ヶ倉	しんかぐら	183	薙田	そのだ
147	下之湯	しものゆ	184	竹下	たけした
148	下湯原	しもゆはら	185	竹山	たけやま
149	下園	しもぞの	186	タコラ	たこら
150	島廻	しまめぐり	187	田尻	たじり
151	白坂	しらさか	188	田中	たなか
152	尻無	しりなし	189	高寺	たかでら
153	下湯迫	しもゆさこ	190	田平	たびら
154	十合水	じゅうごうみず	191	田神前	たのかみまえ
155	新開	しんかい	192	高原	たかはら
156	下山中	しもやまなか	193	タビノ木	たびのき
157	白石	しらいし	194	竹狭間	たけはざま
158	新開前	しんかいまえ	195	垂水	たるみず
159	下田代田	しもたしろだ	196	田中平	たなかひら
160	下前田	しもまえだ	197	田中田間	たなかたま
161	下井手	しもいで	198	知石	ちいし
162	白樺ヶ段	しもかしがだん	199	塚山	つかやま
163	下下野	しもしもの	200	土取	つちとり
164	下逆瀬	しもさかせ	201	辻	つじ
165	下鶴田	しもつるだ	202	妻ヶ迫	つまがさこ
166	菖蒲ヶ谷	しょうぶがだに	203	水流	つる
167	下ノ段	しものだん	204	(番号飛び?)	
168	下馬渡迫	しもまわたりざこ	205	常迫	つねざこ
169	下奈目利	しもなめり	206	鶴田	つるだ
170	下開	しもびらき	207	天神原	てんじんばら
171	開	ひらき	208	出口	でのくち
172	下坂元	しもさかもと	209	鉄山	てつやま
173	須田迫	すださこ	210	鳥井ヶ迫	とりいがさこ
174	砂田	すなだ	211	飛野	とびの
175	須田ノ木	すだのき	212	飛松	とびまつ
176	須田牟礼	すだむれ	213	戸板野	といたの
177	牟礼	むれ	214	藤九郎	とうくろう
178	諫訪脇	すわわき	215	当弁迫	とうべんざこ
179	瀬戸下	せとした	216	鳥越	とりごえ
180	瀬戸口	せとぐち	217	轟上	とどろうえ
181	仙名	せんみょう	218	轟元	とどろもと
			219	徳利道	とくりみち
			220	中園	なかぞの
			221	中園道	なかぞのみち
			222	長迫尻	ながさこじり
			223	長迫	ながさこ
			224	鍋	なべ
			225	鍋田	なべた
			226	鍋田原	なべたばら
			227	中ノ段	なかのだん
			228	長谷	ながたに
			229	中道	なかみち
			230	永山	ながやま
			231	永尾	ながお
			232	中田間	なかたま
			233	中深田	なかふかだ
			234	中須	なかす
			235	中木屋	なかきや?
			236	中尾	なかお
			237	永野	ながの
			238	中渡瀬	なかわたせ
			239	中麦田	なかむぎた
			240	西ノ俣	にしのまた
			241	西平	にしひら
			242	西ノ迫	にしのさこ
			243	仁当地	にとうじ
			244	入田	いりた
			245	西園	にしその
			246	猫塚	ねこづか
			247	野久尾	のくお?
			248	野付	のつけ
			249	野中	のなか
			250	野久平	のくびら
			251	野平	のびら
			252	ノマト原	のまとばら
			253	野川	のがわ
			254	野中丸	のなかまる
			255	炉場	はせば

大字 市 比 野					
256	炉場平	はせばひら	293	水引	みずひき
257	八幡迫	はちまんざこ	294	三角	みすみ
258	橋ノ口	はしのくち	295	宮元	みやもと
259	原田	はらだ	296	宮下	みやした
260	萩木場	はぎこば	297	三俣迫	みまたざこ
261	樋ノ口	てのくち	298	溝下	みぞした
262	平玉	ひらだま	299	宮之城戸	みやのきど
263	平田下	ひらたした	300	道違	みちちがい
264	平ノ下	ひらのした	301	道下	みちした
265	平田	ひらた	302	水洗	みずあらい
266	平木場	ひらこば	303	向湯	むかえゆ
267	平野	ひらの	304	牟田	むた
268	樋掛段	ひかけだん	305	向迫	むこうざこ
269	樋ノ下	てのした	306	屋敷脇	やしきわき
270	樋ノ元	てのもと	307	柳丸	やなぎまる
271	深迫	ふかざこ	308	山川	やまがわ
272	札元	ふだもと	309	山下	やました
273	札建	ふだたて	310	山神迫	やまかみざこ
274	古迫	ふるさこ	311	山神下	やまんかんした
275	船迫	ふなざこ	312	山神ノ原	やまんかんはら
276	古屋敷	ふるやしき	313	柳迫	やなぎざこ
277	深田	ふかだ	314	山瀬戸	やませど
278	ホキノ下	ほきのした	315	山ノ口	やまのくち
279	ホキ山	ほきやま	316	山ノ上	やまのうえ
280	前迫	まえざこ	317	山ノ上原	やまんうえはら
281	豆漬	まめつけ	318	山口	やまぐち
282	松ノ下	まつのした	319	山中	やまなか
283	馬渡	まわたり	320	山仁田	やまにた
284	松ヶ迫	まつがざこ	321	山新ヶ原	やましんがはら
285	前田	まえだ	322	湯ノ上	ゆのうえ
286	前田尻	まえだしり	323	湯平	ゆびら
287	松山	まつやま	324	湯ノ元	ゆのもと
288	松ヶ平	まつがひら	325	湯ノ道	ゆのみち
289	丸山	まるやま	326	湯ノ迫	ゆのさこ
290	前牟田	まえむた	327	湯ノ牟礼	ゆのむれ
291	木無	みずなし	328	横石	よこいし
292	溝段		329	吉牟田	よしむた

権脇町の小字 総数(733)
『1』 信仰地名 68

倉野(10)	石塚	鬼ノ元	觀音迫	諏訪上	立迫	八幡山
	羽山	宮田下	湯ノ神	宮之脇		
塔之原(23)	岩塚	諏訪腰	諏訪原	寺川	寺堀	天神馬場
	鳥居堂	鳥居ヶ迫	銭龜	堂立	二月田	灰ヶ嶺
	八幡迫	弁天	弁天ノ前	宮ノ迫	宮ノ前	山神前
	修理田	現王	末寺原	次米田	妙甘ヶ宇都	
市比野(35)	天ヶ野	荒神ノ元	阿弥陀ヶ庵	庵ノ迫	庵ノ宇都	石塚
	一ノ宮脇	尾塚	尾塚元	王子ノ下	鬼ヶ瀬戸	神ノ原
	胡麻迫	権現原	里宮脇	三方塚	諏訪脇	高寺
	田神前	塚山	天神原	鳥居ヶ迫	猫塚	八幡迫
	宮前	宮元	宮下	宮之城戸	山神迫	片蓋
	山神下	山神ノ原	現王	鞘本	鞘下	

『2』 城・館・集落 32

倉野(5)	椿(囲)	城ヶ迫	西野丸	橋ヶ丸	野久尾	
塔之原(12)	狩集	口ノ町	隈之城段	陣ノ平	城内	庄内
	惣陣	高城	高尾	古屋敷	本古屋	牟礼
市比野(15)	椿ノ下	桂丸	門貫	久留主城	大丸	野中丸
	札元	札建	古屋敷下	古屋敷	屋敷脇	柳丸
	野久尾	鹿栗山	牟礼			

『3』 条理・区画 8

倉野(2)	上四拾田	下四拾田				
塔之原(6)	上大坪	下大坪	東大坪	南大坪	中大坪	五反田
市比野(0)						

『4』 市・町・交通 48

倉野(7)	瀬戸口	谷口	辰口	辻	掛橋	鳥越
	船戸口					
塔之原(14)	井川道	岩下道	坂下	十文字	瀬戸口	中坂
	中渡	野町	乱坂	乱橋	茶屋ヶ迫	茶屋堀
	新道迫	小市原				
市比野(27)	阿母ノ口	阿母峠	石坂	芋渡瀬	後小路	小坂
	熊越	下馬渡	辻	辻追道	瀬戸口	大道迫
	瀬戸下	出口	鳥越	徳利道	中園道	中道
	中渡瀬	馬渡	道達	橋ノ口	渡瀬口	坂ノ上
	坂ノ下	上坂元	下坂元			

『5』 水利 36

倉野(4)	井出元	水流	龍水	樋渡	上高樋	中高樋
塔之原(16)	井出元	落水	落ヶ免	里樋脇	樋ノ口	
	水流	中岳堀	樋之口	樋ノ本	樋掛	樋脇水流
	風呂ノ元	溝添	山ノ堀	平瀬		
市比野(16)	井川元	井出上	井出口	井出段	十合水	下井手
	垂水	樋ノ口	樋ノ元	樋掛ヶ段	水無	水引
	溝段	溝下	樋ノ下	上井手段		

『6』 人名・職掌 9

倉野(0)						
塔之原(7)	小丸	幸桑丸	大丸	六郎丸	矢太郎	早稻田丸
	伊勢ヶ迫					
市比野(2)	九郎迫	藤九郎				

『7』 開発 18

倉野(0)						
塔之原(8)	川添	上川添	白和園	田代耕地	大堀	村子田耕
	祐礼北耕地	諏訪園				
市比野(10)	上園	川添	楠八重	下園	下開	新開
	新開前	中園	開	西園		

『8』 職業・産業 41

倉野(5)	上器屋	上木場	中木場	上木場	下木場	
塔之原(14)	石ノ迫	石切り場	石切ヶ平	芋洗	金具尻	金具下
	金具尻	金竹元	上木場	下木場	木場田	平木場
	土取	金具谷	木場田	木場山	木場原	平木場
市比野(22)	漆添	漆添	木場山	木場山	木場原	集ヶ段
	木屋迫	金床石	金吹き段	鉄山	土取	熊鹿倉
	豆漬	中木屋	桺場平	桺場	萩木場	
	大鹿倉	小鹿倉	片鹿倉	小鹿倉平		

『9』 田畠 42

倉野(8)	魚田	兎田	牛畠	大田	迫田	包田
	平畠	間伏田	鰻田			
		小田	園畠			
塔之原(17)	平畠	羽子田	園畠			
		藤田	堀田			
市比野(17)	前田	堀田	入田	村子田	山畠	小良田
	追畠	中麦田	砂田	蒂田	鶴田	柿木田
			平田	深田	前田	鍋田

『10』 瑞祥 2

倉野(0)	幸光	吉原				
塔之原(2)						
市比野(0)						

『11』 景観(自然) 120

倉野(13)	小原	大田崎	大毛野	小毛野	大山口	上原
	要目山	志野目山	奈良ヶ迫	永田山	井手平	宇都
	片久見					
塔之原(45)	池ノ迫	池ノ段	押ヶ迫	上ノ原	井手段	片久見
	内野々	小原	釜迫	椿ヶ迫	貢ノ迫	倉谷
	小ヶ嶺	小森	栗ヶ迫	篠目山	大瀬戸	杉ノ迫
	園田迫	下原	茶目山	長迫	西ノ迫	野稻原
	萩窪	平ヶ谷	杉ヶ迫	前床	前段	前平
	豆追	豆追	向井原	百木野段	餅ノ迫	山中迫
	湯ノ迫	横山	笹ヶ迫	小袴ヶ迫	小野原	大原
	迫原	宇都	菅野			
	穴原	荒田迫	穴川	阿母谷	池野迫	井川谷
	飯田迫	飯田迫	宇都口	宇都前	上段	小野
	大平原	大平原	尻無	小嶺	小原	西俣
	小永山	小永山	小段	久平	差迫	下湯迫
	白櫻ヶ段	白櫻ヶ段	小野段	久平	上城原	須田迫
	須田牟礼	須田牟礼	仙名原	白石	竹山	妻ヶ迫
	田平	田平	草木段		鍋田原	中ノ段
	中手段	中手段	高原	鍋	鍋田平	鍋田迫
	長迫	常追	竹狭間	永尾	野久平	野中
	深迫	田中間	田中平	永山	三侯迫	湯平
	山瀬戸	永野	古迫	長谷		
		菅野	船迫	前追		

『12』 人文 167

倉野(34)	宇都口	上永田	上馬渡	上大島	上浦田	上岩戸
	木下	久住原下	追脇	下永田	下馬渡	下大島
	下岩戸					中宇都
	西小原	東小原	下原	西ノ川	野中	山内
	後藤	松ノ元		山口	山尻	内菅
	高苔	山下	上手	上手元	中原	
	池頭	高苔	菅宇都	大住原		
	岩下	池尻	池ノ尻	岩元		
	上ノ迫	岩下尻	内水地上	上水地		
		上ノ原元	上水地	後原		

上修理田	上中	上三島	下三島	田代宇都	上樋ノ口
下高樋	上山之口	諏訪下	諏訪園下	上長田	下長田
巣垣迫	北田間田	西田間田	北迫	現王下	境谷
迫下	猿喰尻	坂下尻	下白毛	下溝	白毛宇都
台尾	竹下	田ノ上	竹下尻	竹下ノ湯	中島
鍋下	中野原	西ノ原	西迫尻	西木原	東木原
南木原	野中	榎ヶ下	平田尻	前田下	溝下
南原	山尻	山中	山下	山下尻	前段尻
向原	前迫	山之口	山口	山口下	下山口
石脇	岩下	内田下	上原	牛鼻	小川本
置石	上湯之元	湯ノ元	湯ノ上	上湯原	湯ノ道
湯ノ迫	湯ノ牟礼	下ノ湯	下湯原	上宇津良	上牟田
前牟田	小永山	上逆瀬	下逆瀬	上小原	上鶴田
下鶴田	北ノ鼻	越ノ下	前田尻	迫尻	下田代田
下前田	下下野	下ノ段	竹下	田尻	田中
長迫尻	中尾	中深田	西ノ迫	西ノ平	野平
西ノ俣	下馬渡	追道下	向湯	平野	平田下
向迫	平ノ下	松ノ下	山下	小山下	山ノ口
山ノ上	山口	山中	下山中	山ノ上原	上山中
和田脇					

『13』 形状 15

倉野(4)	深迫
塔之原(6)	鍋原
市比野(5)	戸板野

『14』 目印 47

倉野(6)	松原
塔之原(25)	棲水流
		鷹ノ巣
		笹平
		菖蒲ヶ段
		飛川地
市比野(16)	棲本
		島廻
		松ヶ迫
市比野(16)	五本松
		桜木
		松山
		松ヶ平
		菖蒲ヶ段
		小椎中尾須田ノ木

『15』 崩壊 6

倉野(0)	
塔之原(3)	猿喰
市比野(3)	木キノ下

『16』 川原・湿地 42

倉野(1)	水久保
塔之原(21)	板井川
		桑池
		知浦川
		滑
		上奥牟田
市比野(20)	下奥牟田
		上手水地
		宇津良
		借水
		水流口
		山仁田
		吉牟田

『17』 伝承 6

倉野(0)	
塔之原(4)	猪ヶ原
市比野(2)	老ヶ段

『18』 意味不明 23

倉野(1)	江鳴
塔之原(6)	桃目
市比野(16)	叶原

『19』	擬音	3	差寄野付	仙名ノマト原	タコラ平玉	知石山新ヶ原	当別迫仁当地
	蒼野(1)	轟				
	塔之原(0)						
	市比野(2)	轟上			轟元	

樋脇町の地名(数値)分析

大字	倉野(%)	塔之原(%)	市比野(%)	合計(%)				
1)信仰地名	10	10%	23	8	35	10.6	68	9.3
2)集落地名	5	5%	11	3.7	15	4.5	31	4.2
3)区画地名	2	2%	6	2	0	0	8	0.1
4)交通地名	7	7%	15	5	27	8.2	49	6.7
5)水利地名	4	4%	16	5	16	4.8	36	4.9
6)人名地名	0	0%	7	2	2	0.6	9	1.2
7)開発地名	0	0%	8	3	10	3	18	2.5
8)産業地名	5	5%	14	4.7	22	6.6	41	5.6
9)田畠地名	8	8%	17	5.6	17	5.1	42	5.7
10)瑞祥地名	0	0%	2	0.7	0	0	2	0.3
11)自然地名	13	13%	45	20	62	18.7	120	16.4
12)人文地名	34	34%	72	23.9	61	18.4	167	22.8
13)形状地名	4	4%	6	2	5	1.5	15	2
14)目印地名	6	6%	25	8.3	16	4.8	47	6.4
15)崩壊地名	0	0%	3	0.9	3	0.9	6	0.8
16)侵食地名	1	1%	21	7	20	6	42	5.7
17)伝承地名	0	0%	4	1.3	2	0.6	6	0.8
18)擬音地名	1	1%	0	0	2	0.6	3	0.4
19)意味不明	1	1%	6	2	16	4.8	23	3.1

桶脇町の地名

1、小字地名について

	辞書	文化財	小字地図
倉野	86	88	101
塔之原	263	265	301
市比野	301	308	332
合計	650	661	734

2、分類にあたって

- ① 『宇都口』 『上宇都』など二つのジャンルにまたがる地名の処理について
 ア、主体は、『宇都』であるから、景観地名
 イ、宇都口～景観地名 (宇都口)～位置地名として、副次的意味あいのものを重出したとして () で示す方法
 ウ、複数例あれば、一つは景観地名 (宇都口)、一つは位置地名 (上宇都) に分ける方法
 * 処理としては、イが望ましいと指摘を受ける。
- ② *印は地区公民館名 (旧集落)、分類は、小字名のみ
 ア、小字地名が地区公民館名として使われている所～倉野4／4、
 塔之原 30／47 市比野 29／42
 イ、地区公民館名として使われているが、小字地名にないもの
 塔之原～旭 富本 本庵 など
 市比野～大和 矢筈野 和田など

3、小字地名の分類

地名分類を全体的にみると、人文地名が22.8%、なかでも倉野が34.4%と突出している。以下自然地名16.4%、信仰地名9.3%と続く。

『1』 信仰地名

塔之原～錢龜～錢瓶、錢神に由来?
 現王→信仰地名 妙甘ヶ宇都→妙見菩薩に由来?
 修理田→社寺の修理捻出のための田
 次米田→シトキ田～祭りに餅などを供するための田
 市比野～精本→塞ノ神? 片蓋→方ふたがりからきた宗教用語?

『2』 城・館・集落地名～屋敷、～丸、

倉野～野久尾→野首、納首、喉首などと同義語、城の搦め手、城山に繞く地名
 塔之原～牟礼→集落 (朝鮮の古語)
 市比野～鹿栗～囲、椿からくる地名?

『3』 条理地名

五反田以外、上・中・下とつく地名が多い。→位置地名か?

『4』 市・町・交通地名～辻、馬場、渡し、～坂、～越、～口・・・・

市比野～上馬渡 渡瀬口など位置地名か?

『5』 水利地名～溝、掘、井手 (井出)、落とし、池・・・・

市比野～井出上など位置地名か?

『6』 人名・職掌地名～～丸、～郎・・・・

塔之原～伊瀬ヶ迫→伊勢 (女人の名)

『7』 開発地名～添、園、開、八重、～堀・・・・

塔之原～上川添→位置地名?

市比野～新開前→位置地名?

『8』 職業・産業地名～木場、～倉、馬・・・

塔之原～金具→金物を扱う?

市比野～集ヶ段→狩のために人を集めれる? 豆漬→おやし

鹿倉→狩猟区?

『9』 田畠地名～田、畠・・・・

倉野～兎田→渥田? 間伏田→崖の所にある?

『11』 景観 (自然) 地名～山、～原、平、谷、段、迫、宇都・・・・

倉野～片久見→久見 (狭い、開墾地?) 毛野→毛 (不毛の地?)

塔之原～宇都→小さな谷? 苗野→苗 (砂地?)

市比野～阿母→崖? 須田→すだじい (椎の木の一つ?)

『12』 人文地名～東・西・南・北、上・中・下、横、脇、尻、尾、口・・・

『13』 形状地名～鍋、～矢、枕・・・・

『14』 目印地名～色、植物、動物・・・・

塔之原～大完→おおじん? (大きな鹿・猪がいた所)

奈木野→櫟木の植生? 飛→鶏?、鳥 or 蛇などの信仰地名?

市比野～島廻→白鷺?

『15』 崩壊地名～

市比野～ホキ→険しい崖、侵食谷 鶴飯→つるばみ?

『16』 川原・湿地地名～

ついひえ～へ～鷹ヶ原をオムテナシ?

塔之原～滑→滑りやすい

市比野～奈目利→滑りやすい

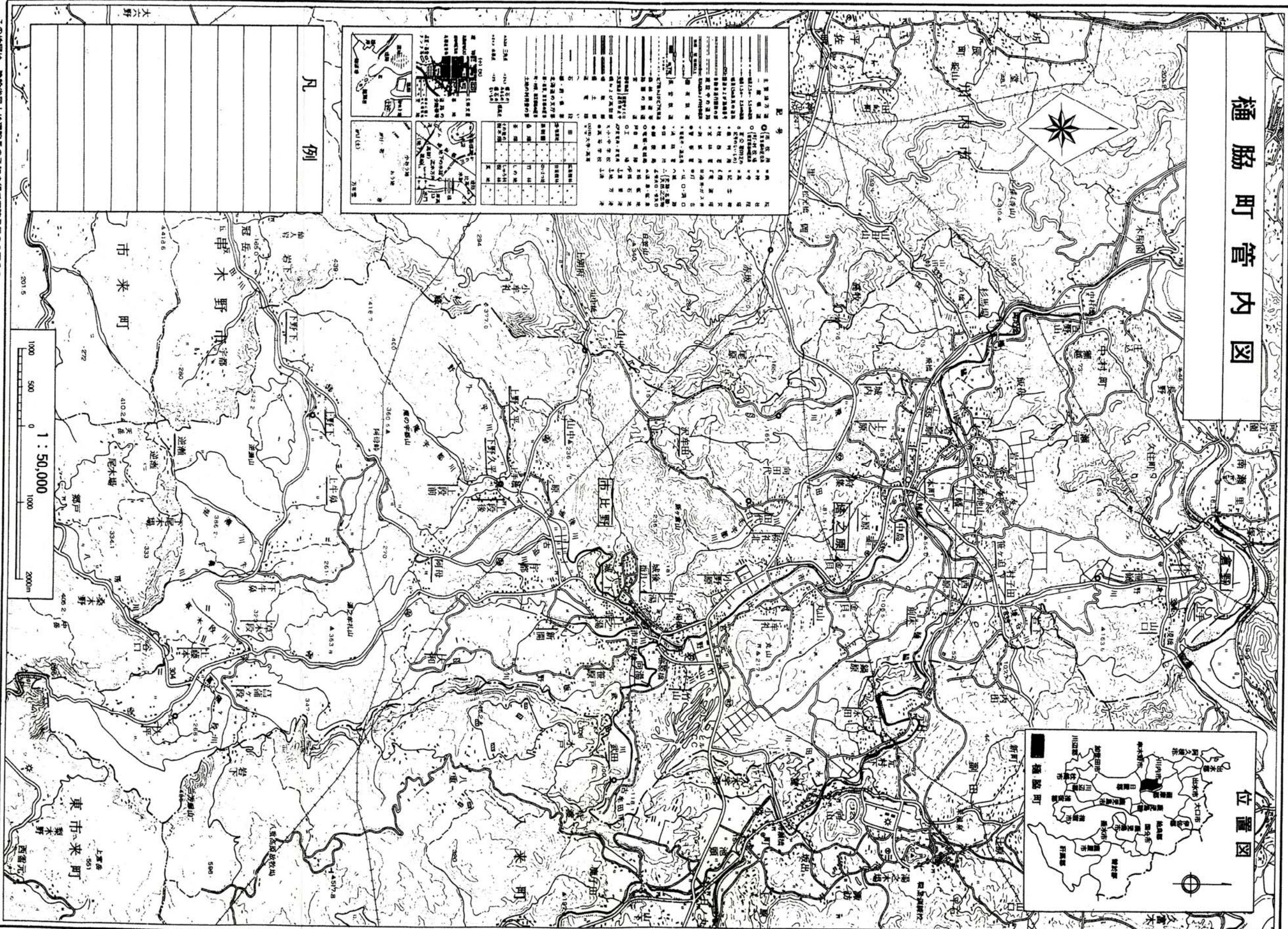
『17』 伝承地名～

塔之原～御子→巫女?

市比野～馬口迫→ばくち迫?

樋脇町管内図

位置圖



この地図は、建設省國土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1

地名研究会報

第 84 号

平成16年6月6日

鹿児島地名研究会

I. 第84回例会 平成16年3月7日(日) 於西郷南洲顕彰館研修室
(出会者) 安楽芳久・今村誠一・上野堯史・内山憲一・大田照夫・納 荣藏・
小山 更・川野雄一・坂本 誠・築地成郎・永坂芳彦・西田春人・
繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・福元忠良・米原正晃(計17名)

II. 大日本地名辞書読会 P.550~P.551 帖佐郡・答西郷・大分郷・蒲生・加治木

III. 横脇町の地名

[問題となった地名および事項] 答西郷・帖佐郡・広田郷・納屋・地名と万葉仮名・
地名の変更・市町村合併・頬娃(衣と江)・薩摩大隅の牧・吐合・
樋(ヒ・トイ)・小山(オヤマ・コヤマ)・先入観による地名誤記

答西郷

平田 先ず『大日本地名辞書』自体の間違
いを指摘しておきます。左側上段「答西郷」
とありますが、この「答」という文字はクサカン
ムリです。これは帖佐(チヨウサ)が訛ったのでは
ないと思います。私の読み方も強引ですが、
タケンムリにして「竹+合+西」と解釈すれば
竹子(タケザ)と読めるのです。そうしたら比定
地は溝辺になります。

帖佐郡

平田 右側の二段目、ほぼ真ん中辺り、建
久図田帳を引用して「帖佐郡」とあります。
昔から帖佐が勝手に「郡」を称したとの解釈
をしていますが、私は桑原郡の郡衙(郡家)
が帖佐に移っていた時期があるのではないか
と思うのです。これは郡衙の所在を示した意
味だと解釈すればよい。勝手に「郡」を名乗
ったと解釈しなくてもよいと思うのです。とい
うのは建久図田帳を見ても桑原郡とは書いて
ないのです。桑原郡に属する郷名をあげて
あって、一つだけ「帖佐郡」というのが出現
するのです。

広田郷

平田 左側の真ん中に「広田郷」というの
があります。「広田」であれば栗野町に広田
という地名があります。「広西」と読めば、
国分市に広瀬という地名があります。私が気
付いたのは以上のようなことです。

納屋

納 右のページの「帖佐」の2行目。納
屋とありますね。これは物置の納屋になっ
ていますが、江戸時代に書かれた『物類称呼』
だったと思いますが、全国の方言を集めた本
があります。その中で物置の納屋はおかしい
のじゃないかと指摘されています。山形屋裏
の「納屋」、私が知っている範囲内では昭和
十年頃、セリをする魚市場があったのです。
その前は上町の恵比須町辺りにあったらしく
江戸時代の町並み整理で山形屋の裏に移り、
昭和十年頃だったと思いますが、海岸の中央
市場に移ったのです。それで私が知っている
範囲内では「ナヤ」は魚屋なんです。魚屋が
何故物置の納屋になったのかと疑問に思って
いました。あの辺りも元は海岸ですが、漁業

小屋があったから「ナヤ（納屋）」の名が付いたのだという説もあります。先日、本を見ていたら、將軍家に魚を納入するから魚の納入屋、そして納屋になったという説もありました。魚も「ナ」と読みますからね。

平田 「ナ」の意味は「魚(サカナ)」ですね
納 納屋馬場の角に谷川という大きな海産物屋がありますね。県会議員か市会議員かをやっている。あの人の親父さんの時代までは魚屋だった。それで魚屋が正しいのではと以前から思っていたのです。あの辺で魚を売っていたから「ナヤ」だ、と。帖佐には「納屋」というバス停がありますね。

平田 えゝ、これです（大日本地名辞書に出てくる記述）。

納 それから、浜之市にもあったと思います。

平田 納屋があったでしょうね。

納 浜之市でなけりや、住吉まで含めての浜之市。あの辺にもあったような気がするのです。

平田 あったでしょうね。

納 私が国分に勤務していた時代、「納屋」と書いてあるのに気付いていました。私は判らんのです。何故、納屋と書くのか。昔の文字というのは、いい加減な文字を当てていますね。音が合えば、何でもいいから付けている。

平田 右筆が思い付いた文字で書くのですよ。魚屋よりも納屋の方が見た感じがいいから、こっちになっただけです。今でも納屋馬場と云えば、魚や海産物の商売をしている所です。実は私の祖母が納屋馬場で女だてらに魚の取引をしてもの凄く儲けていたのです。そういうことで、よく知っています。

納 あの近辺には店が集まっていた。山形屋の裏通りが野菜町通りですか。

平田 そうです。

納 三越から先の方が呉服町。それからお菓子屋の明石屋、あそこは木屋町ですからね。そういうことで魚屋じゃなかろうかなと考えるのです。

平田 下町の中で魚の商売をやっていた所です。私の祖母は9人の子供を抱えて、魚の卸売りをして儲けていた。そんなことでよく知っています。

納 私流の解釈です。

平田 それで、いいのです。

納 この納屋のことを、もう亡くなった鹿屋高校の国漢の先生をしていた人にも聞いてみたのです。

平田 あゝ、牛留さん。

納 牛留さんも書いている。あの人も以前から不思議に思っていたらしいです。

地名と万葉仮名

納 江戸時代に書かれたものを見ると、土地の名前になったものでも考えてみれば、いい加減な文字を当てていますね。音が合つてしまえすれば何でもいいから当てはめている。

平田 それもあるでしょうねけど正しいものが多い。すべてを否定したらおかしなことになる。他にありませんか。

納 それで思うのですが、万葉仮名を使ったのじゃないかなということも考えるのです。

平田 さあ、どうだろう。

納 万葉仮名を見ると、元々は漢字ですから。古事記・日本書紀も全部、漢字で書いてあります。漢字の音をそのまま使っていきます。意味はどうあろうとも音が合いさえすれば、いいというふうになってるような気もする。

ば、いいというふうになってるような気もする。

地名の変更・市町村合併

平田 地名というのは、江戸時代の場合、決まったものは簡単に変えられないのです。現在は住民投票や行政上の必要で簡単に変えますけどね。江戸時代は幕府の許可が必要だった。今より厳しいのです。例えば、山形屋一帯の金生町(キンセイチヨウ)。昔は木屋町(キヤマチ)と云った。恐らく島津重豪の時代だと思いますが、江戸城中で、どうも俺の所は火事が多いと殿様同士の話になった時、水戸の殿様が俺の所も多かったが木屋町を金生町(カノウマチ)に変えたら火事が起きなくなった、との話が出た。それはいいことを聞いたということです「金生」に変えたいと幕府に届け出て許可を貰っているのです。そのようにして金生町になった。

納 それと川内(センダイ)。川内の場合もいくつか書き様があるでしょう。今は川内と書いているけど。えーと数字も「千」に。

平田 「台」を書いた。それから「千代」とも書いていた。

納 東北の「仙台」をそのまま使ったのもありやせんですか。

平田 はい、あります。

納 幾通りもありますね。

平田 あれは吉貴の時代ですかね。幕府の巡見使が来て以前の地図には「川内」と書いてあるが、何故変えたかと聞かれるのです。家老が回答が出来ずに藩主にどうしましょうかと報告したら、幕府のいう通りにせよと、由へ返して「川内」と書けとなつて「川内」に決ましたのです。今の世の中、地名を簡単に変えすぎます。昔は厳しかったということ

をもっと知るべきです。

また広城市町村合併のことで国会議員たちは道州制なんてことを言っていますけど、九州は道州制の経験があるのですよ。奈良・平安時代に西海道薩州・西海道隅州。西海道の薩摩国・大隅国であった。すべて大宰府がまとめて中央政府に報告するので、薩摩国の細かいことなんか、例えば薩摩守に誰が何年に任じられたなんていうのは消えてしまっているわけです。そんなことで九州各國は奈良平安時代の歴史事項が他の所と比べて少ないので。広城市町村合併・道州制と、調子のよさそうなことをいうけれども、何というかな、いわゆる地方切り捨てになるのです。そういうことは歴史の上で既に経験済みだということです。どうも南日本新聞はお先棒を担ぐ方ですから、一生懸命に。

小山 補助があるからですよ。

平田 なるほど。

小山 一旦、広域合併しても、分村がありますからね。

平田 歴史的に何遍も繰り返しています。

小山 絶対ありますよ。

平田 こんなに大きく広城市町村合併をしたら、郷土史は書けなくなります。それを書く歴史家はいないと思う。今後はどういうことをやればいいかというと、「大字史」が中心になると思うのです。それから先程提示された「神社史」とか「寺院史」とか、そういうテーマ史ですね。そうでなきや書けないと思う。

穎姥（衣と江）

納 これは別問題ですけど、揖宿郡の穎姥。穎姥の読みには「衣」と「江」の両方があるということを聞いたのですが、というの

は、あれは日本書紀か（続日本紀が正しい）衣評（エコリ）と書いてありますね。もう一つは「江」。衣と江とは音が違います。衣はアイウエオを「エ」なんです。江はヤ行のエなんです。ヤ行のエとア行のエは音が違う。鹿児島の人々は、それを言います。

平田 ああ、使い分けますか。

納 はい、使い分けます。「活動写真」のことを普通は「映画」と言いますね。鹿児島の人々はこの「エ」の前に「イ」が入るのです。「イエイ」と言うのです。「イエイガ」どちらが正しいのかと時々考えます。現在はありません。鹿児島独特の発音です。

平田 ああ、そうですか。

薩摩・大隅の「牧」

平田 今気が付いたのですが、左側の真ん

鶴田町

の地名

永坂 芳彦

地名の分類に当たって前回と同じ様に角川辞書と小字とを比較してみました。角川辞書ではダブっているものが沢山ありました。小字地図に当たりましたら、やはり完全なダブリでした。角川辞書には492あるわけです。小字地図を数えていきますと460です。32がダブっているわけです。このダブリも、例えば神子だったら神子の中に同じ地名が出て来るのです。こんな間違いがあるのかなと思って見ました。

転記間違いと思うようなものもあります。例えば、平田先生から指摘されたのですが、コザト篇の「防」とツチ篇の「坊」とか。コザト篇の「防」になった場合は意味が不明になつて来る。そういうことも指摘されました。

中にある「喜多の牧」。『鹿児島県地誌』には薩摩国関係は全部記録があるのですが、大隅国編が残っていません。だから大隅国の牧の記録がなかなかないのです（後記：『島津家列朝制度』に隅州の牧として福山野・春山野・高牧野・青色野・末吉野・佐多野などの名が見える）。しかし牧の広さからいうと、大隅の方が主になります。だから此處にいう「肝属郡ならん」というのが妥当でしょう。

他にありませんか。なければちょっと休憩にします。今日は鶴田町を取り扱いますが、大田さんが鶴田町の字総図をコピーして持つて来られました。次回には全員にコピーして渡しますが今日は皆には渡せません。ジャンケンに勝った人にあげます。4人1組でジャンケンをお願いします。

一応、小字地名をそのまま写してありますので、そのような点も留意して下さい。念のために聞きますと、転記間違いが多いことです。写す時に書く人がそのまま間違つて写してしまう。そういうことがよくあるそうです。

では「小字地名の分類」にもとづいて見ていいきたいと思います。そして適當な所で区切つて貰い、質問・意見を出して頂けたらと考えます。

小字総数460。「1」信仰地名(59)。鶴田町は信仰地名が案外多いようです。鶴田(8)：神崎の前(カサキノマエ)・宮之段(ミヤタソ)・天神前(テンジンマエ)・諏訪防(スワンドウ)と読むそうです。「防」はコザト篇ですがツチ篇の「坊」ではないかと言われています。上天神(カミテンジン)・下天神(シモテンジン)・ヨケガ迫(ヨケガサコ)・フケン丸(フケンマル)。「ヨケガ迫」というのはそこに書いておきましたが、魔よけ・悪い除けの「除」ではないか、フケン丸は普賢菩薩に由来するのではないか、ということです。信仰地名に入れてあります。

神子(20)：大明神ノ後(テメシソノウシ)と読むそうです。大明神前(テメシソマエ)・宮ノ脇(ミヤナギ)・宮原(ミヤハラ)・宮原坂(ミヤハラザカ)・水天の元(スイエンモト)・水天ヶ迫(スイエンガサコ)・鬼(エニワジ)・諏訪段(スワンドウ)・宮田(ミヤタ)・庵迫(アンサコ)・供養松(コウヤマツ)・餅田(モチタ)。これは植脇町でも出て来ましたが、やはり信仰に關係がある「餅」、そんな關係のようです。観音滝(カンノンタキ)・石塔(セトウシタ)・立花(タチバナ)・寺床(テラコ)・建山(タケヤマ)。これは信仰に關係があり、立ち入り禁止の場所と聞いています。フケ段(フケンタソ)、これはフケン丸とつながる地名です。

柏原(17)：興善寺(コウセンジ)・大願寺(ダイガソジ)。此處には都答院氏の古い墓があります。水天向(スイエンムカ)・早馬(ハヤマ)。これは牛馬神です。御手水(オヘミ)と読むそうです。御手洗(ミタライ)・宮ノ下(ミヤシタ)・昔天神(ムカヒテンジン)・天神山(テンジンヤマ)・上大願寺(カミガイガソジ)・山神迫(ヤマカミサコ)・諏訪原(スワパル)・仁王原(ニオハラ)・高塚(タカツカ)・サヤノ坂(サヤナカ)・立山(タテヤマ)・夜星川(ヤセイガワ)。夜星川というのは「星」信仰ではないかと云われていますが、「川」という文字が付いているので迷いました。一応此處に入れてあります。

紫尾(14)：王子野(オウジノ)・石王子(イシオウジ)・神ノ木場(カミコバ)・ボダイシの前(ボダインマエ)・鳥居ノ下(トリイシタ)・カシキ王子(カシキオウジ)・的場(マトバ)・王子段後(オウジタソウシロ)

・山王免(サンウメン)・市王子(シオウジ)・光岩(ヒカリイ)・下り山(サガリヤマ)・ビャクダン・宇ヶノ口(ウケノチ)。「ウケノチ」は陰陽五行説のウケ(有卦)に由来があるのじゃないか、ということでした。紫尾山は神仙道の盛んな所ですから、そういう地名が残っているのではないかと思っています。

平田 一応、此處で区切りましょう。何か質問はありませんか。

永坂 夜星川というのが、よく判らないのですが。

平田 そうですね、判りませんね。（後記：「ヤセイガワ」でなく「ヤボキ」だとすると、山伏と結び付くが）。

大田 「川」です。この辺には野母木(ホヌキ)という地名もある。

平田 「ヤボキですか。」

大田 ヤボキ。下の方にもある。神社があつて、ヤボキが生えている。

永坂 信仰地名ではないかも知れませんね。

大田 何か判らない。

平田 ウケという地名は多いのですが、ムケは国分にしかありません。ウケとムケというの陰陽道の対比的な言葉ですから、ウケ(有卦)だろうと思うのです(後記: 諸負のウケもあり得るか? 今後の課題)。鹿児島では横井を「ヨケマチ」と言いますが、横井(ヨイ)が「ヨケ」に訛ったというよりも、元々、除(ヨケ)であった。妙円寺詣りなどは、古く遡ると虫払い・虫送りに登って行った所で、禍除けの町だったと思うのです。横井だけが「ヨケ」に訛ったという解釈じゃなくて、本来「除」であった。「除(ヨケ)」という所は県下に沢山あります。次に行きましょう。

永坂 「2」城・館・城郭地名、19. 鶴田(7) : タレノロ(タレノチ)。これは集落とか町の入口に縄のれんが下がっていたという話です。

殿村ノ下(トノムラシタ)・古城(フルシヨウ)・町ノ後(マチノクシ)・古屋敷(フルヤシキ)・城内(シヨウカ)・矢十堀(ヤシユウボリ)。

神子(5) : 堀ノ下(ホリハタ)・城ヶ段(シヨウガタン)・下屋敷(シモヤシキ)・闇ノ段(セキノタン)・卒礼ノ口(ムレノチ)。

柏原(2) : 城ヶ迫(シヨウガサコ)・政所(マドヨリ)。

紫尾(5) : 古屋敷(フルヤシキ)・町口(マチグチ)・大丸(タママル)・町山(マチヤマ)・城ヶ宇都(シヨウガウト)。

平田 そこまで何かないですか。

永坂 タレノロは何か垂れ下がっていたのですか。

平田 そうです。アジールを示す、立入禁止を示すもの。そこでは皆平等だということを示す「のれん」が下がっていた。垂之口(タリク)と呼ばれていた所が多い。

大田 この「タリク」は鶴田合戦の時、「すだれ迫」と呼ばれていたようです。後では、タレノロになって来ている。

平田 県下には垂口(タリク)とか垂角・垂門(タリト)という地名は多いのです。今の話、「すだれ迫」との関係は判りません。時代の差でしょうね。

大田 相良氏が来た時に、戦った所のようです。いくつか迫があります。

平田 ああ、そうですか。次、お願いします。

永坂 「3」条里・土地区画地名。

神子(2) : 五反田(ゴンタナ)・横枕(ヨコマクラ)。

これは度々出て来る地名です。

紫尾(2) : 四升蔵(ヨンショウマツ)・五反田(ゴンタナ)

平田 此処はありませんか。なければ次へ

永坂 「4」市・町・交通地名。

鶴田(7) : 坂下(サシタ)・鳥越(トリヨリ)・中道(チカヒ)・十一渡瀬(イチワタセ)・瀬戸(セト)・渡ノ段(リカタン)・赤坂(アカカ)。

神子(9) : 坂下(サシタ)・馬渡(マリクリ)・石橋段(イシハシタ)・辻場(ツシバ)・岩坂(イサカ)・切通(キトシ)・見帰(ミカリ)。見帰というのは峠なんかに登って後を振り向く、そういう所だそうです。

松尾瀬ノ上(マツオセノエ)・渡瀬ノ口(ワタセノチ)。柏原(1) : 出口(テグチ)。

紫尾(4) : 橋ノ口(ハシノチ)・峠下(トウケシタ)・休場(ヤシハ)・鳥越(トリヨリ)。

平田 なければ次へ、どうぞ。

永坂 「5」水利地名、24. 鶴田(6) : 横脇(ヒヨク)・水口(ミズゲチ)・水口山(ミズゲチヤマ)・池之元(イケモト)・桶ノ原(ヒノハラ)・桶ノ口(ヒノチ)。

神子(5) : 落ヶ迫(オカガサコ)・井手迫(イエガサコ)・井手上(イエガ)・清水(シズ)・漬池(ウケケ)。

柏原(8) : 井手上(イエガ)・三段溝(サンゲンジツ)

上井手上(カミイエガ)・井上(イエガ)・樋山(ヒヤマ)・池迫(イケコ)・樋迫(ヒコ)・ヌキノロ(ヌキノクチ)。「ヌキ」というのは、シラス地形で水の湧き出る所(後記: シラス崖をトンネル状に掘つて湧水を求めた)ということです。

紫尾(5) : 井手原(イエハラ)・荒井手(アライエ)・井手原下(イエハラシタ)・井手ノ上(イエノウエ)・井手迫(イエガコ)。

平田 いいでしょうか。

永坂 「6」人名地名。

鶴田(2) : 大丸(タママル)・小丸(コマル)。

神子(3) : 日之丸(ヒママル)・善兵衛峠(センベエトウケ)・東条ヶ段(トウジョウガタン)。

平田 これも、いいでしょうか。

永坂 「7」開発地名、18.

神子(9) : 新田道添(シンテンミチゾエ)・山添(ヤマツエ)・大野道添(オハシゾエ)・新開(シンカイ)・芋ノ八重(イモハエ)・新田山下(シンテンヤマシタ)・柳野谷添(ヤナギノタニゾエ)・宇川谷添(ウツグタニゾエ)、「アサコ」と読むそうです。新田(シンテン)。

紫尾(9) : 大園(オオイノ)・堂園(ドウイノ)・開き(ヒラキ)・外園(オカイノ)・古園(フルイノ)・溝添(ミヅリエ)・町八重(マチハエ)・楠八重(クスハエ)・新地(シンチ)。

平田 八重。「エ」ではなくて、開発地名としては八重(ハエ)です。それが忘れられて「エ」と読むようになっているのです。また「園」は野菜畑とか果樹園が主なんですが、新たに開いた区域を限られた開発地名と理解して置きましょう。次へ行きましょう。

永坂 「8」産業地名、20.

鶴田(7) : 木場ヶ迫(コバガサコ)・炭床(スコト)・木場田(コバタ)・木場瀬(コバセ)・ワナ掛(ワナガケ)・牛小屋(ウシヨヤ)・牛付(ウシツケ)。

神子(6) : 豆漬(マメヅケ)・木場田(コバタ)・木屋(

段(コヤナゲン)・小焼山(コヤキヤマ)・大焼山(オヤケヤマ)・岩興(イロコシ)。

柏原(2) : 加治山(カジヤマ)・木場田(コバタ)。

紫尾(5) : 小鹿倉(コガクラ)・綾織(アヤオリ)・加治屋(カジヤ)・紙漉田(カミスキタ)・築瀬(ヤセ)。築瀬というのは築漁: 仕掛けをした所。

大田 築瀬は城跡。

平田 築瀬に城があったのですか。

大田 はい。

平田 ああ、そうですか。はい、次へ。

永坂 「9」田畠地名、39.

鶴田(6) : 前田(マタタ)・久保田(クボタ)・園田(リノタ)・平田(ヒラタ)・石田(イシタ)・田間田(タマタ)・柳ヶ丸(ヤキガマル)。「丸」は縁起がよい田の名前だとこのことで此處に入れました。

神子(12) : 園畑(リハタ)・深田(フカタ)・久保田(クボタ)・大野前畑(オノマエハタ)・外園前畑(オカイノマエハタ)・前田(マエタ)・大崎田(オオサキタ)・上原畑(ウエハラハタケ)・中間前畑(カママエハタ)・高嶺前畑(カミネマエハタ)・中ノ丸(ナカノマル)・楠ヶ丸(クスガマル)。この「丸」も先程と同じように考えました。

柏原(9) : 島田(シマタ)・外島田(ソトシマタ)・前田(マエタ)・平田(ヒラタ)・川口前田(カワグチマエタ)・原田(ハタタ)・種子田(タネタ)・追畑(サコハタ)・中ノ丸(ナカノマル)。

紫尾(11) : 前畑(マエハタ)・野畑(ハタ)・梅木田(ウキタ)・梨木田(ナシタ)・川原田(カリハタ)・間伏田(マブシタ)・浦田(ウラタ)・小杉田(コスキタ)・瀬崎田(セザキタ)・前田(マエタ)・梅ヶ丸(ウメガマル)。

平田 何かありませんか。

永坂 「丸」を説明してくれませんか。

平田 「丸」は普通男の子に付ける名前ですが、これはどうだった? 「マル」とか、今

でも言います。「うまく行った」「まるく収まった」など、と。だから、縁起がよい名前としての「丸」があります。「丸」という名前を付けるとよく稔るとか、そう云つた縁起を担いで田圃に付けられる場合もあります。

「丸」という表現はいろいろあるのです。日本刀でも「丸」、例えば髭切丸(ヒゲキリマル)。船の名前にも「丸」を付けるとか、縁起が良いというところがあるのですね。人の名前でない「丸」も沢山あるのです。

永坂 瑞祥地名、2。神子(1)：福子田(フコダ)。柏原(1)：百田(モタ)。

平田 沢山とれるように、ということでしょうね。百田とか千田(セツタ)・万田(マンダ)というの。

永坂 「11」景観地名、102。これが一番多いようです。鶴田(24)：水鐘山(ミズカネヤマ)・黒岩(クロイ)・大迫(オオコ)・土原(ウエハラ)・上之原(ウエハラ)・下原(シモハラ)・川屋原(カワヤハラ)・野中(ノカ)・田島(タシマ)・前山(マエヤマ)・蓑先(ハサカ)・大角原(オオシバル)・長迫(カガシコ)・芝屋ヶ段(シバヤカダン)・米山(ヨネヤマ)・中山(ナカヤマ)・大浦(オオハラ)・菅元(スガモト)・大平(オオヒラ)・重平(シゲヒラ)・崎松(ザキマツ)・門口の平(ドクチヒラ)・中野(ケハ)・中ノ段(カガダン)。

神子(47)：立迫(タチコ)・下山(シモヤマ)・小瀬(コセ)・櫃ヶ迫(ヒカサコ)・後迫(ウシテサコ)・川屋ヶ原(カワヤカハラ)・牟田山(ムタヤマ)・亀ヶ原(カメガハラ)・中野(ケハ)・大野(オオ)・大野原(オオハラ)・心ヶ原(ココガハラ)と読むそうです。飯田ヶ迫(イイタカサコ)・横場(ヨコハ)・高嶺(タカミ)・高嶺山下(タカミヤマシタ)・山下平(ヤマタシタ)・長迫(カガシコ)・鳥田ヶ段(ミタカダン)・鍋ノ段(カツカダン)・小平谷(ヒラタニ)・谷ノ段(タニノグン)・小免ヶ尾(コメンカオ)・黒仁田山(クニタヤマ)・矢五ノ

段(ヤコノグン)・前平(マエヒラ)・前迫(マエサコ)・圓山(ツノヤマ)・穴子山(アナコヤマ)・森石(モリイシ)・高尾(タカオ)・長林(カガハヤシ)・雀段(サザダン)・尾高(オタカ)・飯田ヶ平(イイタカヒラ)・久留主(クルス)

・三ツヶ鼻(ミツカハナ)・尾越ヶ迫(オシカサコ)・二つ山(ツツヤマ)・岩嶺(イリミ)・松ヶ迫(マツカサコ)

・上之原(ウエハラ)・曲山(マカリヤマ)・小山(コヤマ)・菅田(スガタ)・百合口(ヨリケナ)・抜谷(ヌキニ)

柏原(17)：浦崎(ウラサキ)・横手元(ヨコテモト)・田原(タハラ)・岩元(イモト)・小松原(コマツハラ)・長岡(カガオカ)・片野山(カタノヤマ)・長山(カガヤマ)・長迫(カガシコ)・小平(コヒラ)・宇都(ウト)・甲原(カブトハラ)・大谷(オオニ)・久留主(クルス)・深瀬戸(カセト)・打出し(ウタタシ)・頭無し(カタナシ)。

紫尾(14)：小段(コダン)・井ノ谷(イリニ)・中山(カヤマ)・仁田原(ニタバル)・長崎(カガキ)・大川原(オオカハラ)・西ノ迫(ニシサコ)・八久保(ハクボ)・下原(シモハラ)・原後(ハラウシロ)・大瀬(オオセト)

・久留主(クルス)・上ノ原(ウエハラ)・赤水(アカミズ)・平田 何かありませんか。

永坂 久留主(クルス)は?

平田 「クルス・クロス(黒洲・黒砂)」は「シラス(白洲・白砂)」の反対でしょう。

永坂 「頭無し(カタナシ)」は川が突然流れ出す所なんかに付いています。

平田 あゝそうですか。面白い表現だな。

永坂 「打出し」は資料に書いておきました。

平田 最初の立迫(タチコ・タチコ)。立山が信仰地名にしてありますから、立迫も信仰地名の方が理解し易いのではないかですか。「迫」は自然景観でしょうが、そこがどんな意味の「迫」になるのかの説明がいるでしょう。

大田 立花や立山は信仰地名です。

永坂 立花は信仰地名でしょうが、こんな

のは書いてないです。

平田 まあ花を立てる所でしょうね。

永坂 立迫もそうですか。

平田 そうですね。花を立てる所か、立ち入り禁止の所。

繁昌 「カガサコ」に長迫と永迫がありますが同じ意味ですか。

平田 同じ意味でしょう。書き手が知っている文字で書き易い方を書くのですから。

次へ行きましょう。

永坂 「12」位置地名、59。

鶴田(14)：竹下(タケシタ)・迫竹下(カタタケシタ)・前ハシケ(マエハシケ)・下ハシケ(シモハシケ)・下中川内(シモカカリウチ)・上中川内(カミカカリウチ)・野下(ノシタ)・上高田(ミタカタ)・北平ノ前(キタヒラマコ)・山角(ヤマツミ)・尾ノ向(オムギ)。

神子(21)：大石ノ元(オシロノモト)・野下(ノシタ)・山下(ヤマシタ)・小松ケ元(コマツカモト)・岩下(イシタ)・竹下(タケシタ)・上大迫(ミオオコ)・上後迫(ミウシロコ)・山中(ヤマカ)・竹ノ元(タケハモト)・杉ノ元(スギノモト)・尾高前(オタカマ)・栗野後(クリノウシタ)

・栗野山下(クリノヤマシタ)・東条ヶ下(トウジョウカシタ)・下湯田原(シモユタハラ)・中間(カマ)・高下(カタケ)・上瀬(ノコロ)・カセト(ケ)・瀬ノ上(セノカ)。

柏原(16)：上浦崎(カミウラサキ)・上小幡(カミコハタ)・下小幡(シモコハタ)・下手(シモテ)・山下(ヤマシタ)・田原ノ後(タラノウシタ)・原田前(ハラタマコ)・原田後(ハラタシウシタ)・下内田(シモウタ)・上片野(カタハラ)・片野下(カタシタ)・東原(ヒガシハラ)・豊田方(フタカタ)と読むそうです。柳野山下(ヤシロノヤマシタ)・山内(ヤマチ)・末松(スエマツ)。

紫尾(8)：中西(カニシ)・田ノ下(タシタ)・岩元(イモト)・岩下(イシタ)・山下(ヤマシタ)・湯ノ向(ユムケ)・下前田(シモマエタ)・原後前(ハラウシロマコ)。

平田 豊田方(フタカタ)なんてのは珍しい。

高下は「カタケ」と読むのですか。

永坂 はい、「カタケ」と読みます。此'がありました。

平田 全国的にみると、開発地・開墾地を「カタケ」とよぶ所が多いのですが、鹿児島県ではちょっと珍しい地名です。

永坂 これから上は整然としている。

平田 あゝそうですか。それならば「カタケ」と考えた方がよいでしょう。

永坂 「13」形状地名、13。鶴田(3)：丸尾(マル)・中川内(カカリウチ)・カメノク。これは危の甲と書くそうです。危の甲に似た地形。

神子(3)：丸山(マルヤマ)・滝ノ爪(タキツツ)・桑木ケ川内(クリキカコウチ)。

柏原(2)：丸山(マルヤマ)・風呂ノ口(フロノチ)。

紫尾(5)：平後嶺(ヒラゴミネ)・舟川内(フカヒチ)・小川内(コガヒチ)・大川内(オカヒチ)・湯ノ川内(ヨカヒチ)。

平田 質問、ありませんか。はい、次へ。

永坂 「14」目印地名、28。

鶴田(11)：島廻(シマタリ)・菖蒲ヶ迫(ショウブカタ)・萩ノ平(ハギノヒラ)・日本松(サンポンシタ)・ノノ木(ノキ)・松山(マツヤマ)・高付(カタツキ)。高付は説明資料に書いておきました。櫟(ケヤキ)の古名が高楓と聞いています。高楓(クス)・茶園ヶ迫(チャエンカサコ)・ウソノ田(ウソタ)・柵ノ尾(ハセノオ)。「タ」は「カタツキ」ということで此处に入れてあります。

神子(11)：島廻(シマタリ)・松ヶ迫(マツカサコ)・梅木ヶ迫(メイカサコ)・松尾(マツオ)・伊良谷(イリガニ)・山木ノ平(マキノヒラ)・桃木ヶ段(モモカタ)・竹山(タケヤマ)・蓑山(ヘゴヤマ)・蓑ノ段(ヘゴタ)・松ヶ瀬(マツカセ)。

柏原(2)：松ヶ角(マツカスミ)・クックカラ迫(カタカコ)。

紫尾(4)：島廻(シマケリ)・杉山(スギヤマ)・柿山(カキヤマ)・井ノ木山(イキヤマ)。「ウソノ田」は「カワカリ」、伊良谷は刺されたらいらいらする草や虫のイラじやないかということ。クックッラは团子を包む葉とのこと。

平田 「カカラニ葉の团子」「カカラニ團子」というのがあります。

永坂 そのようなことで目印地名に入っています。

平田 初めての人は「島廻」には疑問を持たれるだろうと思いますが、これは白鷺の古名：昔の呼び名です。鎌倉時代にシラサギ・アオサギを「島廻」と呼んでいた名残です。次をお願いします。

永坂 「15」崩壊地名、15。鶴田(トキ)・柏原(カキ)・水洗(ミズアライ)と読むそうです。神子(4)：崩場(クスレバ)と読むそうです。水洗(ミズアライ)・向崩(ムコクスレ)・石踊(シオドリ)紫尾(1)：崩ノ平(クハラ)。これらは文字で、崩壊地名じやないかなと考えました。オホ一キとホキを崩壊地名としてよいものかどうか迷っていたのですが。

大田 水洗(ミズアライ)は「ミクナリ」と言っています。私の住んでいる所が水洗原(ミツハラ)になります。

平田 「ミクナリですか。ミタライが地元の古い読みでしょう。

永坂 「16」川原・湿地地名、14。鶴田(タケニタ)・神子(3)：川平(カヒラ)・藤ノ瀬(フジノセ)・川水流(カワツル)。

柏原(5)：川原(カヒラ)・北谷川(キタニガリ)・阿佐川(アザガリ)・山仁田(ヤマニタ)・長牟田(カガムタ)

紫尾(2)：吐合(ハケイ)・山仁田(ヤマニタ)。吐合は川の合流点ということです。

大田 夜星川(ヤエシガリ)と川内川と出会う処が、この吐合(ハケイ)になります。

永坂 「17」伝承地名、1。柏原(カキ)・柏原(1)：耳取(ミトリ)。これはよく出て来る地名です。

「18」意味不明、17。何か教えて頂きたいのですが。

鶴田(6)：白ハシケ(シロハシケ)・ハシケ・トンデン・キノムネ・枕辺(マクラベ)・土矢(カキ)と読むそうです。

神子(5)：クウベケ迫(クハケホ)・打込(カコミ)・ユガイ・宇川(ウガワ)・宇津良(ウツラ)。

柏原(5)：百花合(ヒヤカイ)・焼堂(ヤトウ)・ヨカイ田(ヨカイ)・日記田(ヨカイ)・開元(カモト)。

紫尾(1)：十良(ヂュウ)。

「19」擬音地名、4。鶴田(1)：轟木(トロキ)

紫尾(3)：上轟木(カミトロキ)・下轟木(シモトロキ)・中轟木(カミトロキ)。

「20」気象地名、1。鶴田(1)：コチガ迫(コチガホ)。東風のことです。以上です。

〔質疑応答〕

吐合

平田 「17」の耳取。此處で山賊が耳を取つたというのであれば伝承地名でしょうが、北風が冷たくて耳が切れそうな所であれば気象地名と考えられます。坊津へ行く途中の耳取峠も風が冷たい所のようです。

「16」の最後に「吐合(ハケイ)」というのが出来ます。それで「ハシケ」の意味も解けそうです。(板書)、流合は「ハキエ」と読みます。「ハケ」を読む所もあります。「ハケ」の場合「ツ」と「シ」を片仮名で書き間違える子供が多く、ご当人は「ツ」と書いたつもりでも

「シ」に近い形になっている場合が多いのです。そうしたら「ハッケ」が「ハシケ」に化ける可能性が出て来ます。

納 「吐合」は鹿屋に名字があります。

平田 これですか。

納 「吐合(ハケ)という名字があります。

小山 吐合(ハケイ)さんが多い。

平田 吐合(ハケイ)さんですか。

小山 今は吐合(ハケイ)と読むのでしょうか、気取って。元々は吐合(ハケ)なんでしょうが

平田 吐合(ハケ)が吐合(ハケイ)に化けるということですね。

納 音韻変化で「ハケイ」は「ハケ」になります。

平田 「ハケイ」・「ハケ」、どっちにしても川が出来て水を吐き出す所という意味でしょうね。

納 そうすると、その場所が今云われたような感じの地形?

平田 川の合流点ですね。

納 「18」に、トンデンという仮名書きがあります。こっち方面には切明(キアケ)というバス停留所があるのです。切明というものはその土地の開発者を切明というらしいです。

それで、このトンデンは北海道の屯田兵と、何か関連はないと思いますけどね。

平田 判らないのはいずれ判ると思って、そのまま置いておく方がよいでしょう。

樋(ヒ・トイ)

納 土地によって人によって違うのですが、樋高(ヒダカ)。これには樋之口(ヒノケ)になっていますが、樋之口(ヒノケ)・樋(トイ)などの読みもある。普通われわれは樋高(ヒダカ)と読みますが、喜入には樋高(トイカ)という地名・名字があります。鹿児島方言では樋高(ヒダカ)。樋(ヒ)というのは二・三年前、朝の連続テレビドラマ、屋久島を舞台とした……

平田 ああ「まんてん」。

納 その時、バッテン言葉が問題になりました。喜入でいろいろ話を聞いたら、樋高(ヒダカ)と読むとのことでした。集落名も樋高(ヒダカ)のことです。屋久島でも同様な説明がありましたが、他の所では樋高(ヒダカ)という読み方もあります。これは地名ですから断定は出来ませんが。

小山 「樋(トイ)」と「樋(ヒ)」は意味が違うのですか。

平田 同じでしょう。

納 「トイ」と「ヒ」ですか。音韻変化でそうなります。「樋」、音読みでは「ヒ」、訓読みでは「トイ」です。ヒダカは音読み、トイは訓読み。これをローマ字で書けば、toi。

母音変化の場合、鹿児島語も日本語も「oi」という母音は「e」に変化します。それで「te」に変化します。

小山 「樋(ヒ)はどうなるの?」

納 「音と訓の違いです。片方は音読みにするのです。樋渡(ヒワタシ)とか樋高(ヒダカ)。鹿児島の場合、これを訓読みにします。

小山 読みの違いですね。

小山(オヤマ・コヤマ)

小山 私に関係がないことはないのですが「11」の小山。「オヤマ」ですか、「コヤマ」ですか。

永坂 小山(オヤマ)と読むと思っていたのですが、どうも違うみたいです。小山(コヤマ)と読むようです。詳しいことは載っていませんでした。

大田 小山(オヤマ)が本当じやないでしょうか。名字の場合は小山(オヤマ)と云いますから

永坂 やっぱり、そうですか。

小山 最近鹿児島でも小山(オヤマ)になってしまいつゝあります。電話帳でみると、鹿児島は小山(オヤマ)が圧倒的に多い。小山(オヤマ)は少ないので。熊本は小山(オヤマ)ばかりです。土地での読み方に左右されます。元々は小山(オヤマ)であろうと思うのは、関東の小山(オヤマ)がルーツであるからです。

平田 そうです。

小山 静岡県に入ってもやはり小山(オヤマ)それでも東京に西小山(ニシオヤマ)という地名もありますから、何とも言えないのですけど。元々は「オヤマ」であったろう。それから意味から云えば、小山(オヤマ)の「オ」は単なる接頭語であった。小山(オヤマ)は「小さな山をいう」とそこまではきているのですが、それから先が判りません。

納 「大(オイ)」の場合、鹿児島では大(ウ)

になりますね。

小山 鹿児島ではね。しかし、それと関係はないです。

納 指宿ですかね、大山と書いて「ウヤマ」と読みます。国分にも大島(ウシマ)という名字がありました。鹿児島ではよく音韻変化を起こしますからね。文字と音と全く違ったものになって来る。

小山 「オ」と「ウ」は違うようですよ。

平田 これは難しい問題ですね。

納 上井と書いて普通「ウイ」と読みますが、国分では「オイ」と音います。海岸の方は下井(シタイ)。国道10号線が敷根の手前から曲つて川沿いにちよつとあがってから上に行きますね。上にあがって行く所の下の曲り角。あの辺が上井になります。土地の人は「オイ」という。

平田 方言になると話がややこしくなる。

小山 「多い」も「ウ・ウ」でしょう。そうしたら、もう收拾がつかない。

先入観による地名の誤記

永坂 地名を調べてみると一番困るのは漢字です。明らかに間違いじゃないかと思うのがよくあるのです。そういう場合、どう解釈したらよいのか。例えば、私は永坂ですがいつも永坂に間違えられるのです。

平田 あゝ、成程。

永坂 よく間違えられます。例えば、薬の処方箋を貰いますね。あれでも永坂になっているのが多い。市役所でも間違われたことがあります。指摘したら課長さんが謝りに来ました。先入観で書いてしまうことがよくあります。地名を転記する時にも書いた人が先入観で書いたのじゃないかなと判るがあります。そういう時に直していいものか。

納 先程の上井の場合、現在の学校では教えません。われわれの頃はワヰウェヲ、ワ行の音がありました。普通は「オエ」ですが「オウエ」も古い人は「オエ」になります。

平田 はい、判りました。こっちの方を片づけます。明らかに間違いの場合は、これは間違いと明記すればよいのです。小字の場合転記の間違いは沢山あります。役場で間違っているわけですから、これは間違いだということをどこかで書かなければならぬと思います。

上野 ちょっと上ろしいですか。

平田 はい、どうぞ。

上野 地図を見比べてみると、鶴田町では川は東西方向に向かっていますから、形から見ると、この地図は上の方が北の上うな気がする。

平田 この地図は方向が違ってる？

大田 鶴田町の場合は、これに書いてあるようなダムの方が大体北になっている。鶴田町全体を考えた場合、宮之城の飛び地の終野辺りが大体北になるのじゃないかと思います

上野 ダムの辺りは、牛木屋とか中山とか野下とか。こっちの方が北。この字地図は矢印の方向が違う。

平田 違っている場合もあるでしょう。

上野 もう一つ。鶴田の地名「24」に「迫竹下」とありますが、「迫竹下」なのか「竹下迫」なのか。竹下迫の方が地名的にはよいような気がするのですが。というのは、この地図でも「迫竹下」になっているのですよ。柏原の夜星川は「川星夜」になっている。

大田 各区で山を描く場合は、川を境にして描き分ける。今云われた夜星川は……。

上野 川は、その辺の真ん中を通っているわけですね。

大田 小学校の南の方を夜星川は通っています。

上野 此處が間違っているように、「迫竹下」もちょっと斜めに文字が並んでいるので役場の方の記入ミスではないか。

大田 昔は大体右から読んでいました。今は横書きは左から読んでるので、その違いから間違ったりしているのがあります。

平田 それは多いでしょう。

大田 上から読むのと、下から読むのとがあたりします。

平田 はい、そういうことでしょう。

上野 「迫竹下」のすぐ上に「迫大」とあるけど、これは大迫の間違いだらうと思うのです。昔の図面は、今の人には判らず、読む時に逆から読むことは充分考えられる。

平田 それは充分考えられる。それから夜星川(セイカツリ)。瘦せ川を夜星という漢字で書く場合もあるでしょうし、読み方によってヤンボシ川になったら、山伏に由来するものになるでしょうね。どう読むかによって解釈が変わります。ヤセ川なのかヤンボシ川なのか。そこら辺りは役場の書記さんが書いた事によってではなくて、地元の人が何と呼ぶかということが解く鍵になると思います。

大田 先程小山(オヤマ)が出てきました。今は小山(オヤマ)という姓がありますし、これには出ていませんが、神子には小幡というのあります。文明年間に立てられた石塔の中にある小幡については「コバタ」と読んでいます。宝暦年間に書かれたものには「オバタ」と仮名が付けてあります。また大俣(オイマタ)の集落もあり、いろいろ違いがあるようです。

ハシケ（再）

大田 もう一つ私が聞きたいのは「前ハシケ」と「下ハシケ」というのがあるのです。ハシケというのは、どういう地形なのか。それを知りたいのです。

平田 普通は、「渡し場」とか「渡り」という地名が多いのです。

大田 そういう地形じゃないのです。湯田城というのが下の方にあるのです。その関係から考えたいのですけど、その一帯に舟が着くような場所じゃなくて、谷があつて向う側にも後側の方にも「向ハシケ」「前ハシケ」とあります。私が考えているのは、ハシケは「迫」を表す。此處には集落の横にいくつも迫があるのです。それを表したのじゃなかろうかと思っているところです。どう解釈したらいいのか、鶴田では一番私は気にしているのです。

平田：迫がいくつも集まつた所、川が流れている合流点と解釈出来ませんか。

大田：栗が熟れた場合「ハシケ」という。栗がはしけた。取いけ行こや」というようなことを言ってましたが。

平田：それは「はじけた」でしょう。

大田：そのような形をしておったからこういう名前が付いた。タコが一番似合うような地形。

平田：鶴田の例だけでは解釈は難しい。同じような地名がいくつもなければ、そういう解釈は出来ない。

大田：谷が二つある。谷から水を持って成

来るわけですから……。

平田：県下の例からいようと、川の合流点にハッケという地名が付く例が多いのです。

大田：川というようなものじゃないのですから。集落近くの谷は。

平田：小川であってもいいわけです。次は

どうしましょうかね。肱岡さん、6月例会に宮之城は間に合いますか。

肱岡：一応、よみは終りましたが、充分ではありません。

平田：何とか、やって下さい。お願いします。では、これで終ります。

肱岡：おのずから、肱ヶ岳の谷十数ヶ所を上

ます。そのうちの一つが「手賀谷」。古御殿

の二、三の谷の中でも、肱ヶ岳の谷十数ヶ所を上

ます。そのうちの一つが「手賀谷」。古御殿

鶴田町の地名（その1）

大字 鶴田			
※ 上場	うわば	22 炭床	すみとこ
※ 大平	おおひら	23 大迫	おおさこ
※ 浦川内	うらかわち	24 迫竹下	さこたけした
※ 山神	やまがみ	25 フケン丸	ふけんまる
※ 横脇	ひわき	26 向ハシケ	むこはしけ
※ 広南		27 大丸	だいまる
※ 大角	おおすみ	28 中野	なかの
※ 上手	かみて	29 水鐘山	みずかねやま
※ 町	まち	30 島越	しまごえ？
※ 東善寺	とうぜんじ	31 前ハシケ	まえはしけ
※ 城内	しろうち	32 下ハシケ	しもはしけ
※ 蘆	ふもと	33 ハシケ	はしけ
※ 東湯田原	ひがしゆだばる	34 ホキ山	ほきやま
※ 迫川内		35 山角	やまづみ
1 木場ヶ迫	こばがさこ	36 矢十堀	やじゅうぼり
2 神崎ノ前	かんざきのまえ	37 上原	うえんはい
3 柳ヶ丸	やなぎがまる	38 上之原	うえのはる
4 島廻り	しまめぐり	39 下原	しもばい
5 殿村ノ下	とのむらのした	40 久保田	くぼた
6 尾ノ向	おのむけ	41 謙訪防	すわぼう
7 横脇	ひわき	42 川屋ヶ原	かわやがはる
8 前田	まえだ	43 城内	しろうち
9 坂下	さかした	44 タレノ口	たれのくち
10 高付	たかつき	45 茶園ヶ迫	ちゃえんがさこ
11 宮之段	みやのだん	46 丸尾	まるお
12 竹下	たけした	47 赤坂	あかさか
13 菖蒲ヶ迫	しょうぶがさこ	48 薩崎	みのさき
14 オホーキ	おほーき	49 萩ノ平	はぎのひら
15 水口	みずぐち	50 竹下	たけした
16 天神前	てんじんまえ	51 田島	たじま
17 古城	ふるじょう	52 ヨケガ迫	よけがさこ
18 水口山	みずぐちやま	53 中ノ段	なかのだん
19 仁田尾	にたお	54 前山	まえやま
20 崎松	さきまつ	55 三本松	さんぽんまつ
21 黒岩	くろいわ	56 トンデン	とんでん
		57 キノムネ	きのむね
		58 大角原	おおすみばる
		59 長迫	ながさこ
		60 カメノク	かめのく
		61 コチケ迫	こちがさこ
		62 ウソノ内	うそのうち
		63 池之元	いけのもと
		64 園田	そのだ
		65 横ノ原	ひのばる
		66 平田	ひらた
		67 横ノ口	ひのくち
		68 藤木	とどろき
		69 野中	のなか
		70 木場田	こばた
		71 白崩	しろくずれ
		72 水洗	みずあらい
		73 木場瀬	こばせ
		74 枕辺	まくらべ
		75 小丸	こまる
		76 フノ木	ふのき
		77 竹仁田	たけにた
		78 上山神	かみやまがみ
		79 下山神	しもやまがみ
		80 渡ノ段	わたつのだん
		81 中道	なかみち
		82 門口ノ平	かどぐつのひら
		83 重平	しげひら
		84 瀬戸	せと
		85 松山	まつやま
		86 ワナ掛	わながけ
		87 鷹巣	たかのす
		88 芝屋ヶ段	しばやがだん
		89 一ノ渡瀬	いのわたせ
		90 下中川内	しもなかかわち
		91 中川内	なかかわち

大字 鶴田	大字 神子	大字 鶴田	大字 神子
92 上中川内	かみなかかわち	※ 湯田原	ゆだばる
93 北平	きたひら	※ 横ヶ迫	ひつがさこ
94 米山	こめやま	※ 大野	おおの
95 栃ノ尾	はぜのお	※ 上下大迫	かみしもおおさこ
96 野下	のした	※ 高嶺	たかみね
97 中山	なかやま	※ 野間	のま
98 牛木屋	うしこや	※ 新田	しんでん
99 河野	こうの	※ 栗野	くりの
100 古屋敷	ふるやしき	※ 柳野	やなぎの
101 上高田	うえんだかだ	※ 大俣	おおまた
102 北平ノ前	きたひらのまえ	1 大石ノ元	おおいしのものと
103 西平	にしひら	2 新田道添	しんでんみちぞえ
104 石田	いしだ	3 瀬ノ上	せのうえ
105 牛付	うしつけ	4 大明神ノ後	でめじんのうしろ
106 大浦	おおうら	5 鮎田	もちた
107 菅元	すがもと	6 横枕	よこまくら
108 黒仁田	くろにた	7 井手迫	いでさこ
109 大平	おおひら	8 立迫	たちざこ
110 上矢	かみや	9 山添	やまぞえ
111 田間田	たまた	10 大明神ノ前	でめじんまえ
112 町ノ後	まちんうしと	11 宮ノ脇	みやのわき
		12 宮原	みやはら
		13 坂下	さかした
		14 上瀬戸ノ口	かみせとのぐち
		15 下瀬戸ノ口	しもせとのぐち
		16 宮原坂	みやばらさか
		17 下山	しもやま
		18 川水流	かわつる
		19 野下	のした
		20 小松ヶ元	こまつがもと
		21 山下	やました
		22 水天ノ元	すいてんのもと
		23 水天ヶ迫	すいてんがさこ
		24 堀ノ下	ほりのした
		25 小瀬	こせ
		26 石橋段	いしばしだん
		27 (脱落？)	(脱落？)
		28 横ヶ迫	ひつがさこ
		29 後迫	うしろざこ
		30 川屋ヶ原	かわやがはら
		31 鬼ノ辻	おにのつじ
		32 牟田山	むたやま
		33 園畑	そのはた
		34 清水	しみず
		35 高嶺前畑	たかみねまえはた
		36 亀ヶ原	かめがはら
		37 謙訪段	すわだん
		38 藤ノ瀬	ふじのせ
		39 崩場	くずれば
		40 中野	なかの
		41 辻場	つじば
		42 岩下	いわした
		43 岩興	いわおこし
		44 寺床	てらとこ
		45 宮田	みやた
		46 岩坂	いわさか
		47 竹下	たけした
		48 大野道添	おおのみちぞえ
		49 深田	ふかだ
		50 大野	おおの
		51 大野前畑	おおのまえはた
		52 久保畑	くぼばたけ
		53 外園前畑	ほかぞのまえはた
		54 大野原	おおのばる
		55 川平	かわひら
		56 心ヶ原	こころがはら
		57 豆漬	まめつけ
		58 高下	こうげ
		59 日之丸	ひのまる
		60 切通	きりとおし
		61 飯田ヶ迫	いいだがさこ
		62 丸山	まるやま
		63 松嶺	まつみね
		64 庵迫	あんさこ

大字 神子		
65	城ヶ段 じょうがだん	101 小兎ヶ尾 こうがお
66	滝ノ爪 たきのつめ	102 打込 うちこみ
67	建山 たてやま	103 黒仁田山 くろにたやま
68	宇津良 うつら	104 高尾 たかお
69	立花 たちばな	105 蔓ノ段 へごのだん
70	上大迫 かみおおさこ	106 竹ノ元 たけのもと
71	上後迫 かみうしろざこ	107 矢五ノ段 やごのだん
72	下屋敷 しもやしき	108 杉ノ元 すぎのもと
73	中ノ丸 なかのまる	109 芋ノ八重 いものやえ
74	由ノ木丸 ゆのきまる	110 卯礼ノ口 むれのくち
75	馬渡 まわたり	111 前平 まえひら
76	山中 やまなか	112 前迫 まえさこ
77	横場 よこば	113 長林 ながばやし
78	前田 まえだ	114 福子田 ふくこだ
79	水洗 みずあらい	115 堂ヶ迫 どうがさこ
80	向崩 むこくずれ	116 園山 そのやま
81	見帰 みかえり	117 穴子山 あなごやま
82	森石 もりいし	118 三ツケ鼻 みつがほな
83	新聞 しんかい	119 笹段 さんだん
84	供養松 くようまつ	120 桑木ヶ河内
85	高嶺 たかみね	121 尾高前 おたかまえ
86	高嶺山下 たかみねやました	122 竹山 たけやま
87	山下平 やましたひら	123 関ノ段 せきのだん
88	大崎田 おおさきた	124 尾高 おたか
89	楠ヶ丸 くすげまる	125 石塔ノ下 せっとうのした
90	石踊 いしおどり	126 栗野後 くりのうしと
91	大焼山 おおやけやま	127 栗野山下 くりのやました
92	長迫 ながさこ	128 蔓山 へごやま
93	クウベケ迫 く一べきがさこ	129 島廻 しまめぐり
94	桃木ヶ迫 ももきがさこ	130 尾越ヶ迫 おごえがさこ
95	弓田ヶ段 ゆみたげだん	131 五反田 ごたんだ
96	観音滝 かんのんだき	132 木場田 こばた
97	鍋ノ段 なべのだん	133 二つ山 ふたつやま
98	小平谷 こびらだに	134 東条ヶ段 とうじょうがだん
99	谷ノ渡 たにのわたし	135 抜谷 ぬきたに
100	伊良ヶ谷 いらがたに	136 松ヶ迫 まつがさこ

大字 柏原		
※ 川口 かわぐち	30 田原 たはら	67 長山 ながやま
※ 市場 いちば	31 立山 たてやま	68 謙訪原 すわはら
※ 謙訪下 すわした	32 岩元 いわもと	69 加治山 かじやま
※ 小路下手 しょうじしもて	33 風呂ノ口 ふろのくち	70 仁王原 におうばる
※ 大願寺 だいがんじ	34 ヌキノ口 ぬきのくち	71 頭無し かしたなし
※ 下京塚原 しもきょうづかはら	35 中ノ丸 なかのまる	72 木場田 こばた
※ 京塚原 きょうづかはら	36 久留主 くるす	73 東原 ひがしさら
※ 種子田 たねだ	37 サヤノ坂 さやのさか	74 日記田 につきた
1 浦崎 うらさき	38 焼堂 やけどう	75 長迫 ながさこ
2 開元 かいもと	39 長牟田 ながむた	76 小平 こびら
3 島田 しまだ	40 小松原 こまつばら	77 宇都 うと
4 外島田 そとしまだ	41 昔天神 むかしてんじん	78 高塚 たかつか
5 上浦崎 かみうらさき	42 天神山 てんじんやま	79 クワクワラガ迫
6 井手上 いでうえ	43 上大願寺 かみだいがんじ	くわくわらがさこ
7 横手元 よこてもと	44 御手水 おてみず	80 甲原 かぶとはる
8 上小幡 うえおばた	45 城ヶ迫 じょうがさこ	81 川口前田 かわぐちまえだ
9 下小幡 しもおばた	46 原田ノ前 はらだのまえ	82 水洗 みずあらい
10 夜星川 やせいがわ	47 長岡 ながおか	83 豊田方 ぶたかた
11 川原 かわはら	48 原田 はらだ	84 松ヶ角 まつがすみ
12 打出し うちだし	49 原田ノ後 はらだのうしろ	85 山内 やまうち
13 興善寺 こうぜんじ	50 政所 まどころ	86 大谷 おおたに
14 大願寺 だいがんじ	51 横山 ひやま	87 柳野山下 やなぎのやました
15 前田 まえだ	52 百田 ももた	88 阿佐川 あさかわ
16 百百合 ひやつかあい	53 下内田 しもうだ	89 末松 すえまつ
17 丸山 まるやま	54 ヨカイ田 よかいた	
18 水天向 すいてんむけ	55 山神迫 やまんかんさこ	
19 平田 ひらた	56 池迫 いけさこ	
20 下手 しもて	57 片野山 かたのやま	
21 三段溝 さんだんみぞ	58 横ノ迫 ひのさこ	
22 早馬 はやま	59 上片野 かみかたの	
23 北谷川 きたたにがわ	60 片野下 かたのした	
24 井上 いのうえ	61 上井手上 かみいでうえ	
25 山下 やました	62 深瀬戸 ふかせと	
26 出口 でぐち	63 耳取 みみとり	
27 御手洗 みたらい	64 種子田 たねだ	
28 宮ノ下 みやのした	65 山仁田 やまにた	
29 田原後 たはらうしろ	66 追畠 さこはた	

大字 紫尾		
※	紫尾下	しひしも
※	紫尾中	しひなか
※	紫尾上	しひかみ
1	瀬崎田	せさきた
2	加治屋	かじや
3	中西	なかにし
4	前畑	まえはた
5	大園	おおぞの
6	田ノ下	たのした
7	堂園	どうぞの
8	岩元	いわもと
9	野畑	のはた
10	上ノ原	うえのはら
11	梅木田	うめきだ
12	開き	ひらき
13	王子野	おうじの
14	橋ノ口	はしのくち
15	築瀬	やなせ
16	小段	こだん
17	溝添	みぞぞえ
18	久留主	くるす
19	崩ノ平	くえんひら
20	井ノ谷	いのたに
21	中山	なかやま
22	梨木田	なしきだ
23	仁田原	にたばる
24	小鹿倉	こかくら
25	長崎	ながさき
26	古屋敷	ふるやしき
27	湯ノ向	ゆのむけ
28	小川内	こがわうち
29	湯ノ川内	ゆのかわうち
30	大川内	おおかわうち
31	石王子	いしおうじ
32	神ノ木場	かみのこば
33	十良	じゅうら
34	外園	ほかぞの
35	菩提石ノ前	ぼだいいしのまえ
36	鳥居ノ下	とりいのした
37	カシノキ王子	かしのきおうじ
38	町口	まちぐち
39	的場	まとば
40	峠下	とうげした
41	大川原	おおかわはら
42	古屋	ふるや
43	船川内	ふねかわうち
44	町山	まちやま
45	大丸	だいまる
46	王子ノ後	おうじのうしろ
47	ウケノロ	うけのぐち
48	大瀬戸	おおせと
49	休場	やすんば
50	西ノ迫	にしのさこ
51	八久保	はちくぼ
52	四升蒔	よんしょまつ
53	上轟木	かんとどろき
54	城ヶ宇都	じょうがうと
55	川原田	かわはらだ
56	間伏田	まぶした
57	山王免	さんのうめん
58	中轟木	なかとどろき
59	下轟木	しもとどろき
60	平後嶺	ひらごみね
61	井手ノ迫	いでのさこ
62	井ノ木山	いのきやま
63	楠木丸	くすのきまる
64	岩下	いわした
65	下原	しもはら
66	新地	しんち
67	吐合	はけあい
68	山下	やました
69	島廻	しまめぐり
70	浦田	うらた
71	町八重	まちはえ
72	杉山	すぎやま
73	柿山	かきやま
74	小杉田	こすぎた
75	下前田	しもまえだ
76	鳥越	とりごえ
77	紙渡田	かみすきた
78	市王子	いちおうじ
79	赤水	あかみず
80	山仁田	やまにた
81	綾織	あやおり
82	光石	ひかりいし
83	楠八重	くすばえ
84	井手原	いではら
85	下り山	さがりやま
86	荒井手	あれいで
87	原後前	はらうしろまえ
88	原後	はらうしろ
89	ビャクダン	びゃくだん
90	井手原下	いではらした
91	井手ノ上	いでのうえ
92	五反田	ごたんだ
93	前田	まえだ

鶴田町の地名

1、小字数

大字	角川辞書	小字地図
鶴田	1 3 1	1 1 2
神子	1 6 8	1 6 6
柏原	9 1	8 9
紫尾	1 0 2	9 3
計	4 9 2	4 6 0

2、小字の分類

『1』 信仰地名～

鶴田～ヨケガ迫（除ヶ迫）魔よけ 患い除け フケン丸～普賢菩薩に由来
神子～餅田～寺社に供えるための餅米を栽培する田
柏原～立山～信仰的な立ち入り禁止 サヤノ坂～塞神信仰 夜星川～星信仰？
紫尾～宇ケノロ（有卦）陰陽五行説？

『2』 城・館・集落地名～屋敷、～丸・・・・

鶴田～タレノロ～野町・浦町などの入り口で縄のれんを垂らしてある所
神子～関～城

『3』 条里区画地名～

神子～横枕～条里区画で1坪（60間四方）に足りない土地で山裾に横に枕状に細長く区画される土地

『4』 市町村・交通地名～辻、馬場、渡し、～坂、～越、～口

神子～見帰（見返）～坂を登りきった所で振り返る所

『5』 水利地名～溝、樋、井手（井出）、落とし、池・・・・

柏原～ヌキノロ～シラス崖を横にトンネルを掘って水を得た所

『6』 人名地名～～丸、～郎

丸～①城郭の曲輪 ②男児名

『7』 開発地名～園、開、八重、溝、～堀・・・・

紫尾～溝添～溝添いに開いた田

『8』 産業地名～～木場、～倉、・・・・

神子～焼山～野焼き、岩興～『岩』おこす

紫尾～築瀬～ヤナ漁をする所、鹿倉～狩猟のための禁獵区

『9』 田畠地名～田、畠・・・・

鶴田～柳ヶ丸～田の呼び名（縁起がよい）

神子～楠ヶ丸 紫尾～楠ヶ丸

『10』 瑞祥地名

柏原～百田～縁起がよい

『11』 景観（自然）地名～山、原、平、谷、段、迫、宇都、・・・・

神子～久留主～砂地、岩礫

柏原～打出し～河川の合流点で勢いよく打ち出す所 頭無し～岩間からいきなり川の流れが始まる所

紫尾～八久保～鉢状の窪地

『12』 位置地名～東西南北、上・中・下、横、脇、尻、尾、口・・・・

鶴田～ハシケ丸～崖端

- 『13』 形状地名～鍋、矢、枕……
 鶴田～川内～川沿いで大水の時に川になる範囲 カメノク～亀ノ甲
 柏原～風呂ノ口～風呂状の地形で蒸し暑い所
- 『14』 目印地名～色、植物、動物……
 鶴田～高付～高楓（楓はケヤキの古名）、ウソ～川ウソ
 神子～島廻～白鷺 伊良～虫、草
 柏原～クワクワラ迫～カカラの葉（団子を包む）
- 『15』 崩壊地名～
 鶴田～ホキ～侵食谷、険しい崖
- 『20』
 鶴田～コチケ迫～東風がよく吹く

3. 大字別小字分類

	鶴田	神子	柏原	紫尾	計
信仰地名	8	20	17	14	59
城館地名	7	5	2	5	19
条里区画地名	0	2	0	2	4
市町村交通地名	7	9	1	4	21
水利地名	6	5	8	5	24
人名地名	2	3	0	0	5
開発地名	0	9	0	9	18
産業地名	7	6	2	5	20
田畠地名	7	12	9	11	39
瑞祥地名	0	1	1	0	2
景観地名	24	47	17	14	102
位置地名	14	21	16	8	59
形状地名	3	3	2	5	13
目印地名	11	11	2	4	28
崩壊地名	4	4	1	1	10
川原湿地地名	4	3	5	2	14
伝承地名	0	0	1	0	1
意味不明	6	5	5	1	17
擬音地名	1	0	0	3	4
気象地名	1	0	0	0	1
計	112	166	89	93	460

鶴田町の 小字地名 (総数460)

『1』 信仰地名 ~59

鶴田(8)	神崎の前	宮之段	天神前	謫訪防	上天神	下天神
神子(20)	ヨケガ迫	フケン丸				
	大明神ノ後	大明神前	宮ノ脇	宮原	宮原坂	水天の元
	水天ヶ迫	鬼ノ辻	謫訪段	富田	庵迫	供養松
	餅田	観音滝	堂ヶ迫	石塔ノ下	立花	寺床
	建山	フケン段				
柏原(17)	興善寺	大願寺	水天向	早馬	御手水	御手洗
	宮ノ下	普天神	天神山	上大願寺	山神追	謫訪原
	仁王原	高塚	サヤノ坂	立山	夜星川	
紫尾(14)	王子野	石王子	神ノ木場	ボダイイシの前		鳥居ノ下
	カシキ王子	的場	王子段後	山王免	市王子	光岩
			ビャクダン	宇ケノロ		

『2』 集落地名 ~19

鶴田(7)	タレノロ	殿村ノ下	古城	町ノ後	古屋敷	城内
	矢十堀					
神子(5)	堀ノ下	城ヶ段	下屋敷	關ノ段	牛込ノ口	
柏原(2)	城ヶ迫	政所 (付30)	町口	大丸	町山	城ヶ宇都
紫尾(5)	古屋敷					

『3』 条里・区画地名 ~4

鶴田(0)			
神子(2)	五反田	横枕	
柏原(0)			
紫尾(2)	四升蔵	五反田	

『4』 交通地名 ~

鶴田(7)	坂下	鳥越	中道	一ノ渡瀬	瀬戸	渡ノ段
	赤坂					
神子(9)	坂下	馬渡	石橋段	辻場	岩坂	切通
	見帰	松尾瀬ノ上	渡瀬ノ口			
柏原(1)	出口					
紫尾(4)	橋ノ口	峰下	休場	鳥越		

『5』 水利地名 ~24

鶴田(6)	樋脇	水口	水口山	池之元	樋ノ原	
神子(5)	落ヶ迫	井手追	井手上	清水	漬池	
柏原(8)	井手上	三段溝	上井手上	井上	樋山	泡追
	樋ノ迫	又キノ口				
紫尾(5)	井手原	荒井手	井手原下	井手ノ上	井手追	

『6』 人名地名 ~5

鶴田(2)	大丸	小丸	
神子(3)	日之丸	善兵衛峠	東条ヶ段

『7』 開発地名 ~18

鶴田(0)					
神子(9)	新田道添	山添	大野道添	新開	芋ノ八重
	柳野谷添	字川谷添			新田山下
柏原(0)					
紫尾(9)	大園	堂園	開き	外園	古園
	町八重	楠八重	新地		溝添

『8』	産業地名	~20					
鶴田(7)	木場ヶ迫	炭床	木場田	木場瀬	ワナ掛	牛小屋	
	牛付						
神子(6)	豆漬	木場田	木屋ノ段	小焼山	大焼山	岩興	
柏原(2)	加治山	木場田					
紫尾(5)	小鹿倉	綾織	加治置	紙漉田	築瀬	(成立)	

『9』	田畠地名 ~39	前田	久保田	園田	平田	石田	田間田
鶴田(6)	前田 柳ヶ丸						
神子(12)	園烟 大崎田	深田 上原烟	久保田 中間前烟	大野前烟 高嶺前烟	外園前烟 中ノ丸	前田 楠ヶ丸	
柏原(9)	鳥田 種子田	外鳥田 追烟	前田 中ノ丸	平田	川口前田	原田	
紫尾(11)	前烟 浦田	野烟 小杉田	梅木田 瀬崎田	梨木田 前田	川原田 楠ヶ丸	間伏田	

『10』 瑞祥地名 ~2
 神子(1) 福子田
 柏原(1) 百田

『11』	景観(自然地名~)	102				
鶴田(24)	水籠山 川屋原 長追 大平 立迫 车田山 飯田ヶ迫 弓田ヶ段 矢五ノ段 高尾 三ツヶ鼻 曲山 浦崎 片野山 大谷 小段 西ノ迫 上ノ原	黒岩 野中 芝屋ヶ段 重平 下山 亀ヶ原 横場 鍋ノ段 前平 長林 尾越ヶ迫 小山 横手元 長山 久留主 井ノ谷 八久保 赤水	大迫 島山 米崎 松瀬 小野 中野 高嶺 小平 前迫 坂 二つ山 菅田 田原 長瀬 深瀬 中山 下原	上原 前山 中山 門口 の平 櫻ヶ迫 大野 高嶺 谷ノ段 山下 山下 高嶺 山下 谷 圓山 尾高 岩 百合 田原 元 小平 打出し 仁田 原後	上原 菱崎 大浦 中野 後迫 大野 原 山下平 小免 穴子 飯田 松ヶ迫 拔谷 小松 原 宇都 頭無し 長崎 大瀬戸	下原 大角原 菅元 中ノ段 川屋ヶ原 心ヶ原 長追 黒仁田山 森石 久留主 上之原 菱崎 大浦 中野 後迫 大野 原 山下平 小免 穴子 飯田 松ヶ迫 拔谷 小松 原 宇都 頭無し 長崎 大瀬戸
神子(47)						
柏原(17)						
紫尾(14)						

『12』	位置地名 ~59						
	鶴田(14)	竹下 上中川内 山角	竹下 野下 尾ノ向	迫竹下 上高田	前ハシケ 北平ノ前	下ハシケ 西平	下中川内 北平
	神子(21)	大石ノ元 上大迫 栗野後	野下 上後迫 栗野山下	山下 山中 東条ヶ下	小松ヶ元 竹ノ元 下湯田原	岩下 杉ノ元 中間	竹下 尾高前 高下 (257)
	柏原(16)	上浦崎 原田前 豊田方	上小幡 原田後 柳野山下	下小幡 下内田 山内	下手 上片野 末松	山下 片野下	田原ノ後 東原
	紫尾(8)	中西 下前田	田ノ下 原後前	岩元	岩下	山下	湯ノ向

「13」 形状地名 ~13

鶴田(3) 丸尾 中川内 カメノク
 神子(3) 丸山 達ノ爪 桑木ケ川内
 柏原(2) 丸山 風呂ノ口
 紫尾(5) 平後嶺 舟川内 小川内 大川内 温ノ川内

『14』	目印地名 ~28)						
	鶴田(11)	島畠	菖蒲ヶ迫	萩ノ平	三本松	フノ木	松山
		高付	高巣	茶園ヶ迫	ウソノ田	榎ノ尾	
	神子(11)	島畠	松ヶ迫	梅木ヶ迫	松尾	伊良谷	由木ノ平
		桃木ヶ段	竹山	蔓山	蔓ノ段	松ヶ瀬	
	柏原(2)	松ヶ角	クワクワラ	迫			
	紫尾(4)	島畠	杉山	柿山	井ノ木山		

『15』	崩壊地名	~10				
鶴田(4)	才木一牛	木キ山	白崩		水洗
神子(4)	崩場	水洗	向崩		石躡
柏原(1)	水洗				
紫尾(1)	崩ノ平				

『16』	川原・湿地地名～14					
鶴田(4)	仁田尾	黒仁田	竹仁田	河野	
神子(3)	川平	藤ノ瀬	川水流		
柏原(5)	川原	北谷川	阿佐川	山仁田	長牟田
紫尾(2)	吐合	山仁田			

『17』 伝承地名 ~1
柏原(1) 豊賀

『18』	意味不明	地名～17						
鶴田(6)	白ハシケ	ハシケ	トンデン	キノムネ	枕辺		
神子(5)	クウベケ追	打込	ユガイ	字川(カワガタ)	宇津良		
柏原(5)	百花合	焼堂	ヨカイ田	日記田	開元		
菅原(1)		トモ						

〔19〕 擬音地名 ~4

鷺田(1) 鷺木
紫尾(3) 上鷺木 下鷺木 中鷺木

120】 気象地名 ~ |
鶴田(1) コチケ追

『20』 気象地名 ~1
鶴田(1) コチケ迫

ハツケ → ハモアハ

雀田区

柏原区

北



神子区

十一

